

**男女共同参画社会づくりに向けての
市民意識調査報告書**

筑紫野市

令和4年3月

目 次

I	調査の概要	1
	1. 調査の目的	1
	2. 調査の内容	1
	3. 調査の性格	1
	4. 回答者の属性	1
	5. 調査結果利用上の注意	5
II	調査結果	7
	第1章 男女平等に関する考え方について	
	1. 性別役割分担意識	7
	2. 男女の地位の平等感	9
	3. 政策・方針決定の場で女性が少ない理由	24
	第2章 子育て・教育に関する考え方について	
	1. 子どもの育て方について	26
	第3章 家庭に関することについて	
	1. 家庭内の役割分担の状況	30
	第4章 仕事について	
	1. 女性が職業をもつことについての考え方	44
	2. 女性が職業を続けられない方がよいと思う理由	47
	3. 女性の実際の働き方	49
	4. 職場の環境	52
	第5章 育児・介護休業について	
	1. 男性が育児休業・介護休業・子の看護休暇制度を活用することについて	54
	2. 育児休業・介護休業制度の利用について	56
	(1) 利用意向	56
	(2) 利用できない、したくない理由	58
	3. 男性の育児休業取得を進めるために必要なこと	60
	第6章 政治分野における男女共同参画について	
	1. 「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」の認知	62
	2. 地方議会における女性議員の理想の割合	64
	3. 女性が地方議員になるために必要なこと	66

第7章 社会活動などへの参加・参画について	
1. 男性が地域活動や家庭生活へ参加しやすくするために必要なこと……………	68
2. 地域の役職に女性が推薦された場合の対処……………	70
3. 断る（断ることをすすめる）理由……………	72
第8章 防災に関することについて	
1. 災害に備えるために必要なこと……………	74
第9章 慣習・しきたりについて	
1. 身の回りにおける男女の役割分担……………	76
2. 選択的夫婦別姓について……………	84
第10章 暴力などの人権侵害について	
1. セクシュアル・ハラスメントの経験……………	86
2. 配偶者・パートナーからの暴力について……………	90
(1) 配偶者・パートナーからの暴力の経験……………	90
(2) 相談の有無……………	97
(3) 相談先……………	98
(4) 相談しなかった理由……………	99
第11章 男女共同参画社会の実現について	
1. 男女共同参画に関する法令・制度、言葉の認知……………	101
2. 「男女共同参画社会」を実現するために行政が今後力を入れること……………	105
Ⅲ 調査結果からみえてくる現状と課題……………	109
◎ 参考資料	
使用した調査票……………	117

I 調査の概要

I 調査の概要

1. 調査の目的

この調査は「第3次ちくしの男女共同参画プラン（2018年度～2027年度）」の中間年度にあたり、市民の男女平等に関する意識と実態を把握し、今後5年間の施策検討の基礎資料を得ることを目的として実施した。

2. 調査の内容

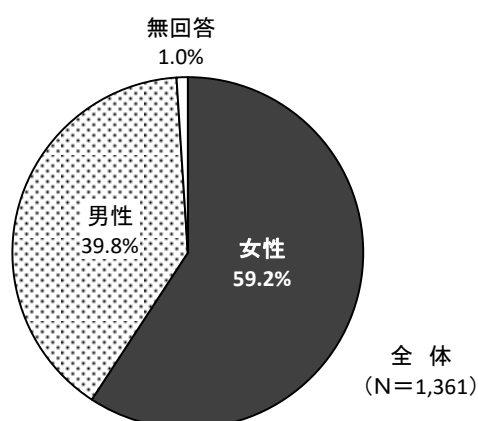
- (1) 男女平等に関する考え方について
- (2) 子育て・教育に関する考え方について
- (3) 家庭に関することについて
- (4) 仕事について
- (5) 育児・介護休業について
- (6) 政治分野における男女共同参画について
- (7) 社会活動などへの参加・参画について
- (8) 防災に関することについて
- (9) 慣習・しきたりについて
- (10) 暴力などの人権侵害について
- (11) 男女共同参画社会の実現について

3. 調査の性格

- | | |
|-----------|-------------------------|
| (1) 調査地域 | 筑紫野市全域 |
| (2) 調査対象者 | 18歳以上の男女3,000人 |
| (3) 回収率 | 有効回収数1,361人（有効回収率45.4%） |
| (4) 抽出方法 | 住民基本台帳から無作為抽出 |
| (5) 調査方法 | 郵送法 |
| (6) 調査期間 | 令和3年9月27日（月）～10月18日（月） |
| (7) 調査企画 | 筑紫野市 総務部 人権政策・男女共同参画課 |

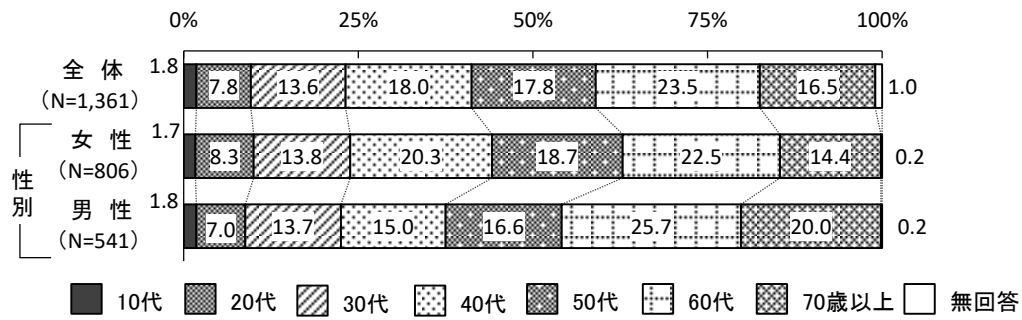
4. 回答者の属性

◎性別

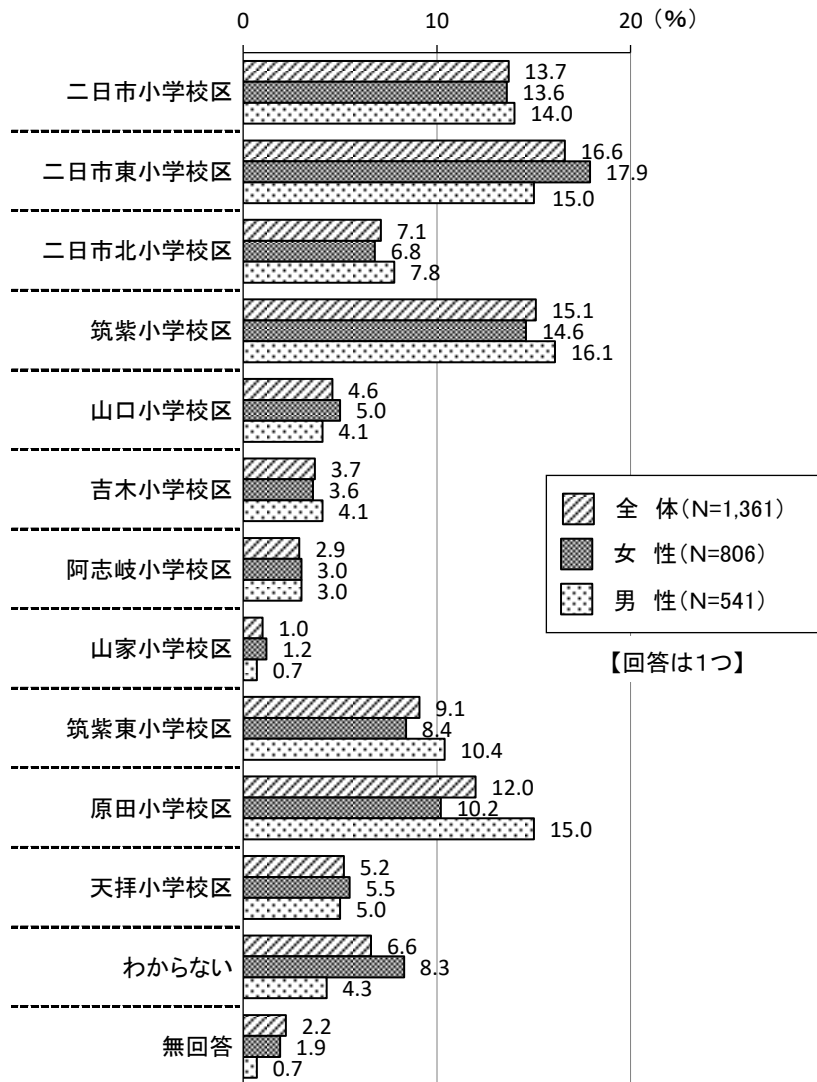


I 調査の概要

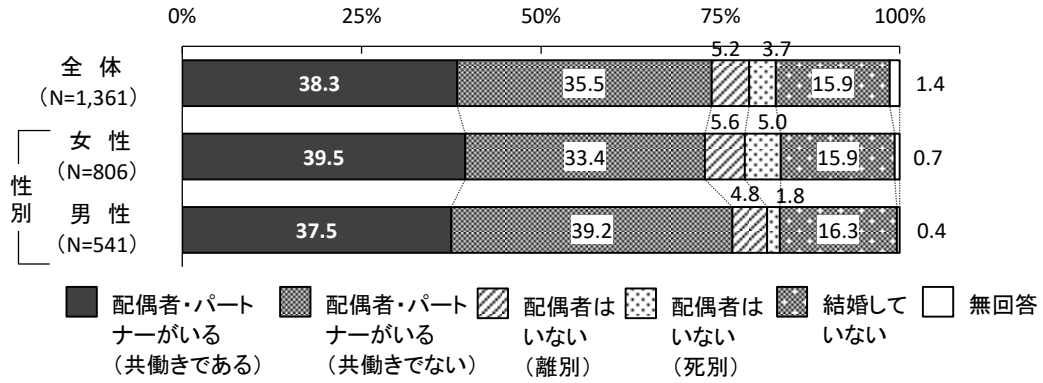
◎年代



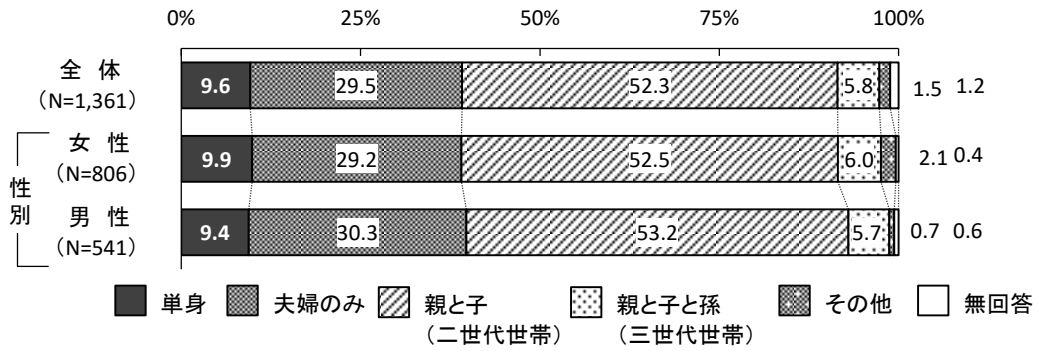
◎居住地区



◎配偶関係

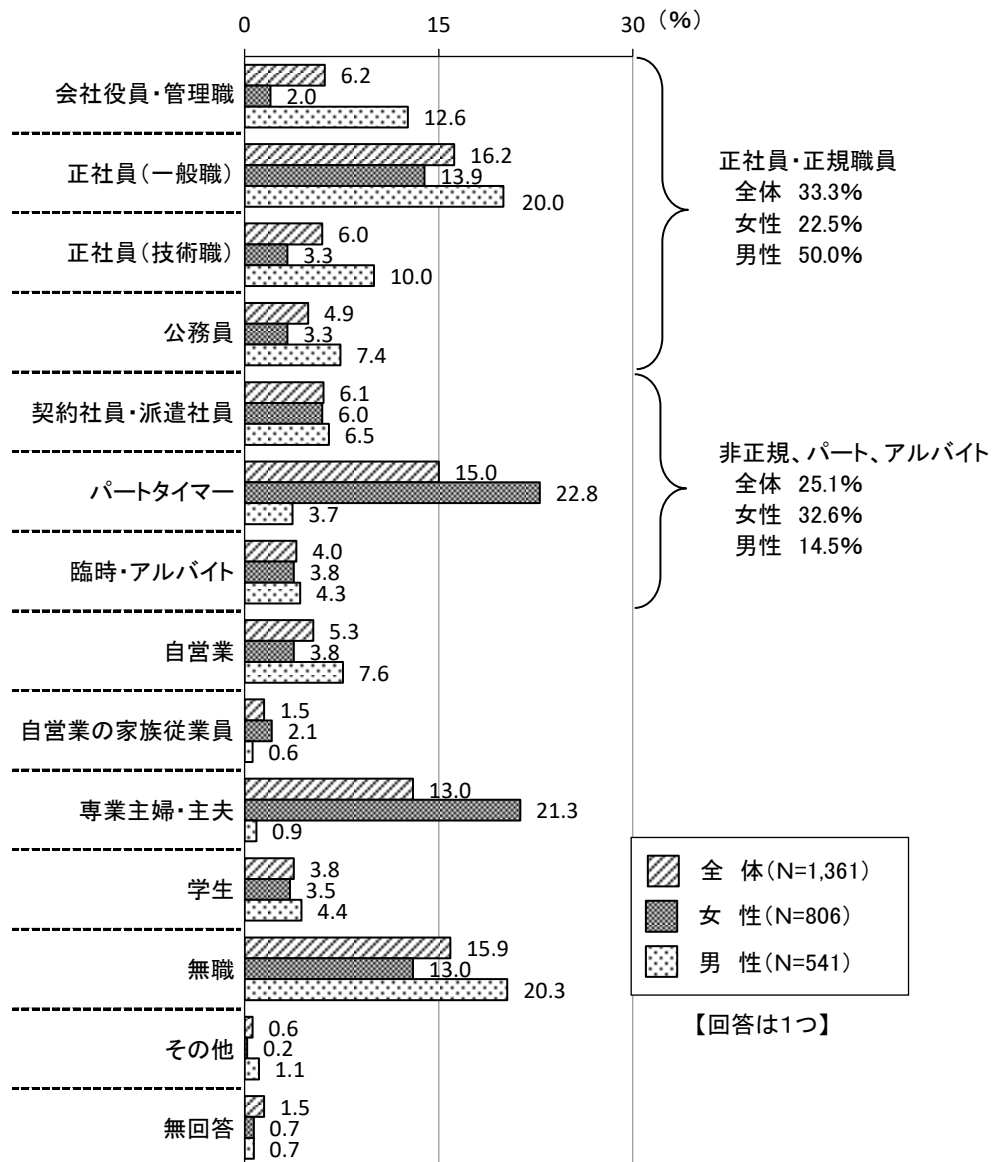


◎家族構成



I 調査の概要

◎職業や立場



5. 調査結果利用上の注意

- (1) 数表、図表に示すNは、比率算出上の基数（回答者数）である。数表で、分析項目によっては対象者が限定されるため、全体の回答者数と合わないことがある。
- (2) 文中の数字は、百分比の小数第二位を四捨五入しているため、回答比率の合計は必ずしも100%とはならない。
- (3) 2つ以上の回答を要する（複数回答）質問の場合、その回答比率の合計は原則として100%を超える。
- (4) 数表中の「-」は、該当する選択肢の回答がないことを示す。
- (5) 付問○-○は、前問で特定の回答をした一部の回答者のみに対して続けて行った質問である。
- (6) 文中の選択肢の表記は「 」で行い、選択肢のうち2つ以上のものを合計して表す場合は『 』とした。
- (7) 今回の調査は、次の調査結果と比較分析を行っている。

筑紫野市 「男女共同参画市民意識調査」平成28年11月実施

福岡県 「男女共同参画社会に向けての意識調査」令和元年12月実施

内閣府 「男女共同参画に関する世論調査」令和元年9月実施

II 調査結果

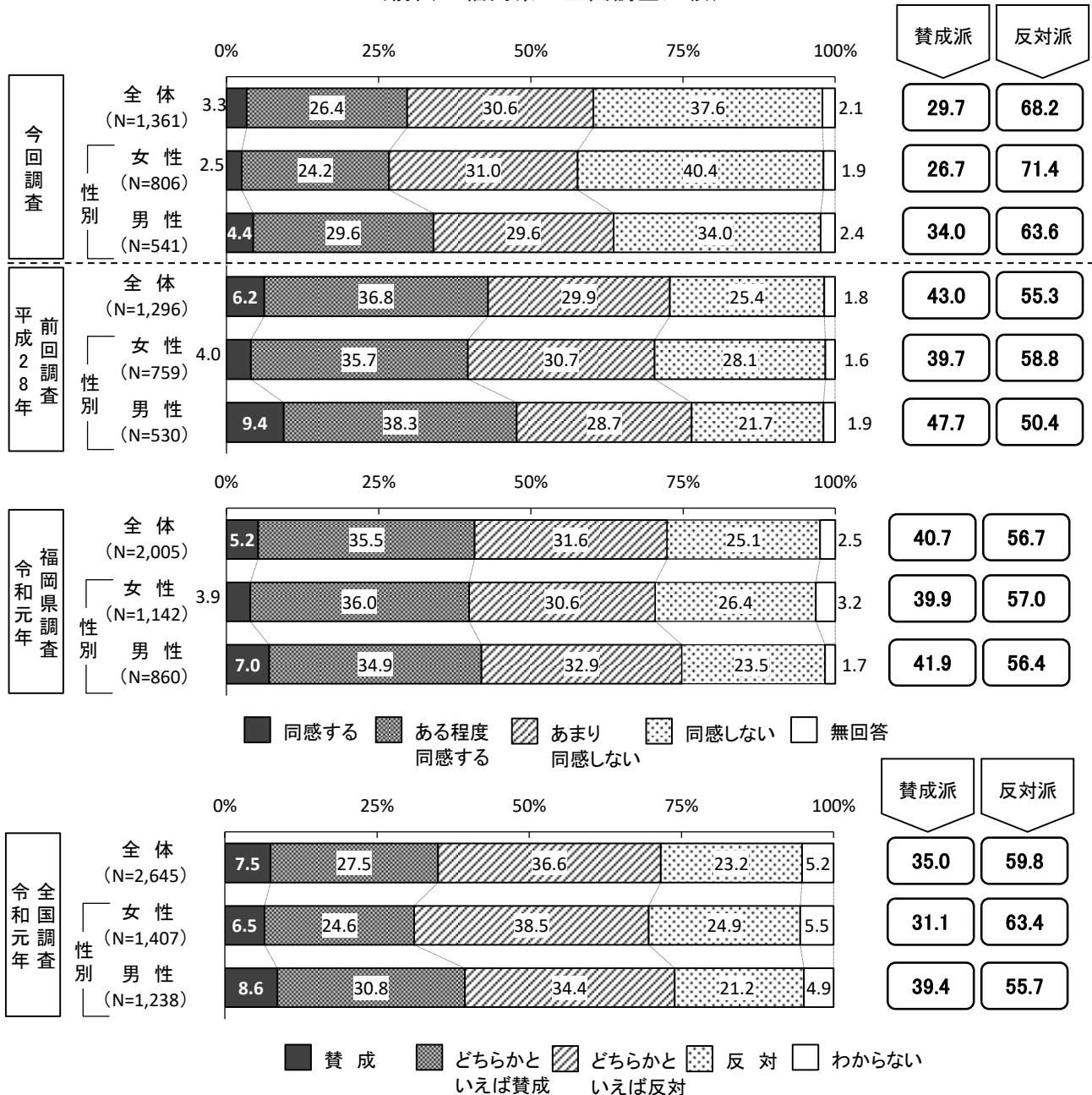
II 調査結果

第1章 男女平等に関する考え方について

1. 性別役割分担意識

問1. 「男は仕事、女は家庭を守るべきである」という考え方があります。あなたの気持ちとして、この考え方にどの程度同感しますか。あてはまるものを1つ選び番号に○印をつけてください。

図表1-1 「男は仕事、女は家庭を守るべきである」という考え方について [全体、性別]
(前回・福岡県・全国調査比較)



Ⅱ 調査結果

「男は仕事、女は家庭を守るべきである」という性別役割分担意識についての考え方は、「同感しない」が37.6%、「あまり同感しない」が30.6%で、これらを合わせた『反対派』が68.2%と7割近くを占めている。一方で、「同感する」は3.3%、「ある程度同感する」は26.4%で、これらを合わせた『賛成派』は29.7%となっている。

性別でみると、『賛成派』は女性が26.7%、男性が34.0%と男性の方が7.3ポイント高くなっており、固定的な考え方を肯定する人は男性の方がやや多くなっている。

平成28年11月に実施された「筑紫野市男女共同参画市民意識調査」（以下、前回調査という）と比べると、男女ともに『反対派』が約13ポイント増加している。その内訳をみると、男女ともに「同感しない」の割合が約12ポイントと大幅に増加しており、固定的な考え方に強く反対する人が増加している。

令和元年12月に実施された「福岡県男女共同参画社会に向けての意識調査」（以下、福岡県調査という）と比べると、『反対派』は男女とも今回調査の方が高くなっており、特に女性では14.4ポイント差と大きい。

令和元年9月に実施された内閣府の「男女共同参画に関する世論調査」（以下、全国調査という）との比較では、選択肢の文言が異なる点に留意が必要であるが、『反対派』は男女とも今回調査の方が高くなっている。よって、全国あるいは県全体の傾向と比較して、本市では固定的な考え方に反対する人が多くなっている。

年代別でみると、男女とも年代が高い層で『賛成派』の割合が高くなり、『反対派』の割合が低くなる傾向がみられる。特に、男性の70歳以上では『賛成派』が50.0%で『反対派』を上回っている。男女ともに世代間の違いが大きくあらわれている。

図表1-2 「男は仕事、女は家庭を守るべきである」という考え方について〔全体、年代別〕

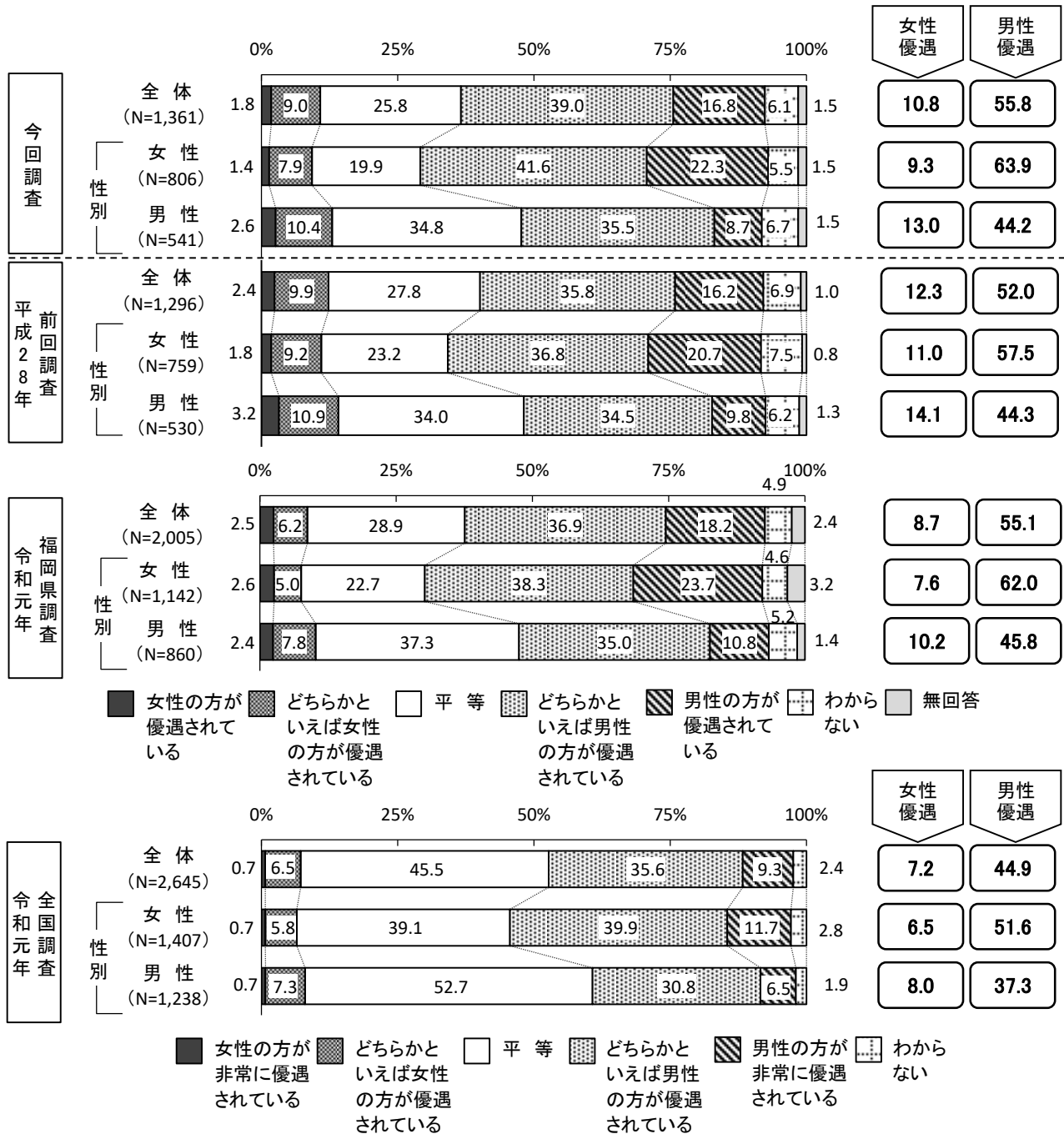
		標本数	同感する	ある程度同感する	あまり同感しない	同感しない	無回答	『賛成派』	『反対派』
全体		1,361 100.0	45 3.3	359 26.4	416 30.6	512 37.6	29 2.1	404 29.7	928 68.2
年代別	女性:10・20代	81	1.2	16.0	29.6	50.6	2.5	17.2	80.2
	女性:30代	111	2.7	14.4	33.3	47.7	1.8	17.1	81.0
	女性:40代	164	3.7	22.0	37.2	36.0	1.2	25.7	73.2
	女性:50代	151	0.7	27.2	27.2	43.0	2.0	27.9	70.2
	女性:60代	181	2.2	26.0	32.0	38.7	1.1	28.2	70.7
	女性:70歳以上	116	4.3	36.2	24.1	31.9	3.4	40.5	56.0
	男性:10・20代	48	2.1	18.8	35.4	41.7	2.1	20.9	77.1
	男性:30代	74	1.4	31.1	24.3	41.9	1.4	32.5	66.2
	男性:40代	81	3.7	24.7	39.5	32.1	-	28.4	71.6
	男性:50代	90	3.3	22.2	27.8	45.6	1.1	25.5	73.4
男性:60代	139	6.5	28.8	31.7	29.5	3.6	35.3	61.2	
男性:70歳以上	108	6.5	43.5	22.2	23.1	4.6	50.0	45.3	
無回答		17	5.9	29.4	41.2	17.6	5.9	35.3	58.8

2. 男女の地位の平等感

問2. あなたは、次にあげる分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。①～⑧のそれぞれについて、あなたの気持ちに近いものを1つ選び番号に○印をつけてください。

①家庭生活で

図表1-3 家庭生活での男女の地位の平等感 [全体、性別]
(前回・福岡県・全国調査比較)



II 調査結果

様々な分野の男女の地位の平等感についてたずねたところ、「家庭生活」については「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が 39.0%で最も高く、「男性の方が優遇されている」(16.8%)を合わせた『男性優遇』が 55.8%と半数を超えている。「平等」は 25.8%、「女性の方が優遇されている」(1.8%)と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」(9.0%)を合わせた『女性優遇』は 10.8%となっている。

性別でみると、『男性優遇』は女性が 63.9%、男性が 44.2%となっており、女性の方が 19.7 ポイント高くなっている。一方で、「平等」は男性の方が 14.9 ポイント高く、男女の認識の隔たりが大きくなっている。

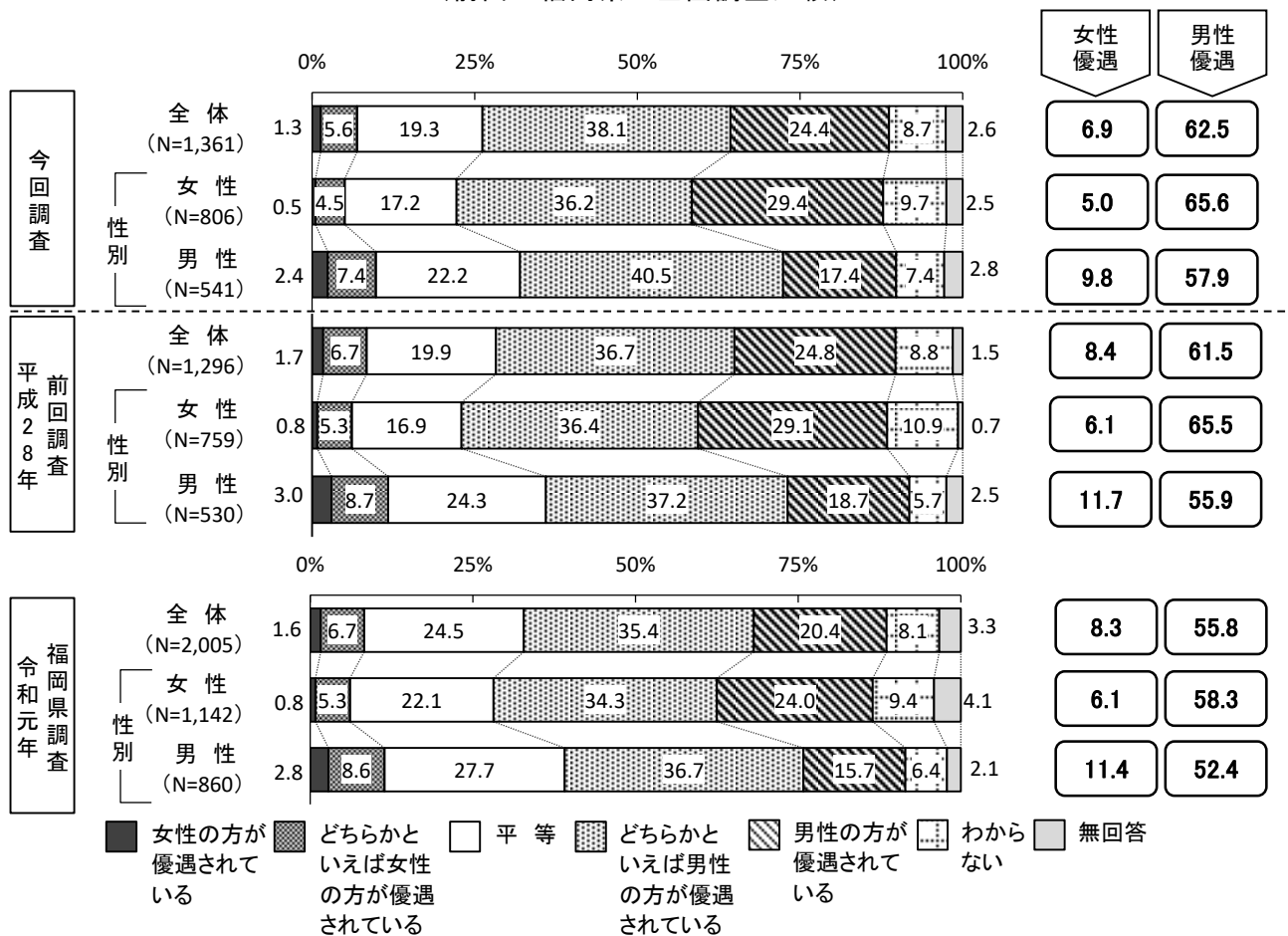
前回調査と比べると、男性はほとんど変化がみられないが、女性では『男性優遇』が約 6.4 ポイント増加しており、女性の不平等感が高まっている。

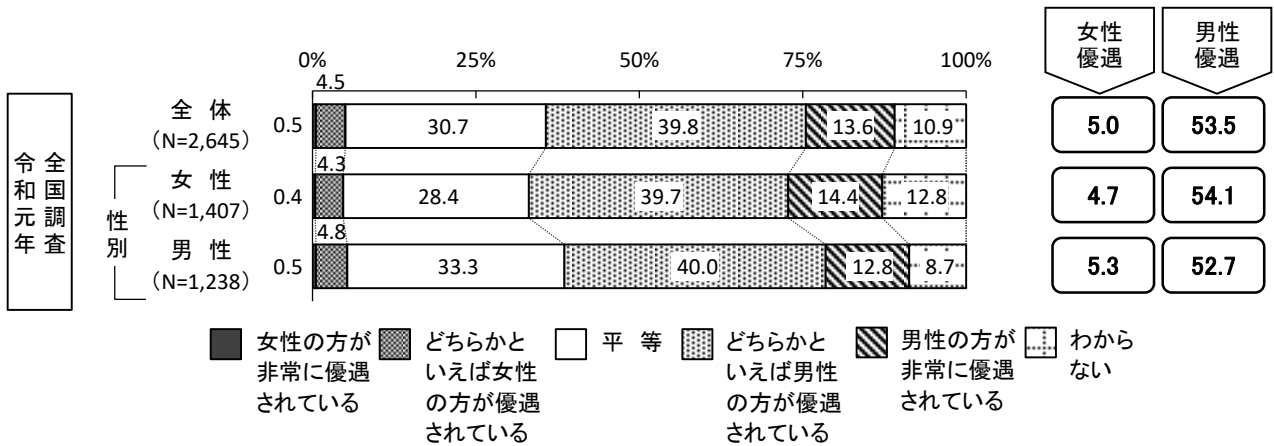
福岡県調査と比べると、全体的に大差はないが、男女ともに今回調査の方が「平等」はやや低く、『女性優遇』がやや高くなっている。

全国調査との比較では、選択肢の文言が異なる点に留意が必要であるが、「平等」は男女ともに今回調査の方が約 18~19 ポイント低くなっており、全国的な傾向と比べて今回調査の方が不平等感は強くなっている。

②職場で

図表 1-4 職場での男女の地位の平等感 [全体、性別]
(前回・福岡県・全国調査比較)





「職場」における男女の地位については、『男性優遇』が 62.5%を占めており、「平等」は 19.3%と低く、「家庭生活」よりも不平等感は強くなっている。

性別でみると、『男性優遇』は女性が 7.7 ポイント高く、「平等」は男性が 5 ポイント高いことから、職場についても女性の方が不平等感は強くなっている。

前回調査と比べると、男女ともにほぼ同じ結果となっており、職場の不平等感はあまり変化していない。

福岡県調査と比べると、男女ともに今回調査の「平等」が約 5～6 ポイント低くなっており、県全体よりも不平等を感じている人が多くなっている。

全国調査と比べると、男女ともに今回調査の「平等」が約 11 ポイント低くなっており、全国的な傾向に比べて不平等を感じている人が大幅に多くなっている。

職業や立場別でみると、女性では「会社役員・管理職」や「自営業」、「自営業の家族従業員」で『男性優遇』が 7 割を超えている。

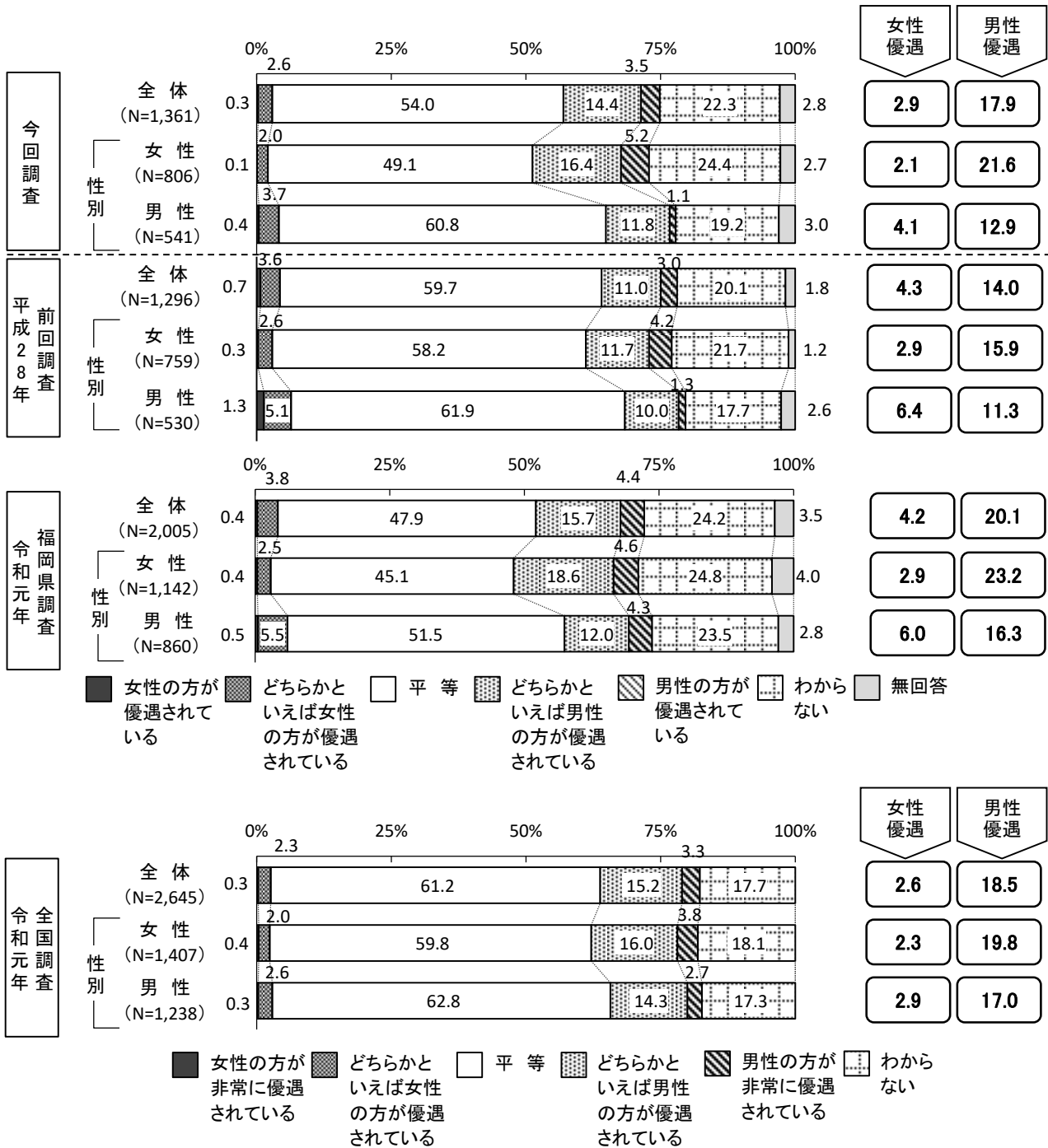
図表 1-5 職場での男女の地位の平等感 [全体、職業や立場別]

		標本数	女性の方が優遇	どちらかといえば女性の方が優遇	平等	どちらかといえば男性の方が優遇	男性の方が優遇	わからない	無回答	女性優遇	男性優遇	
全体		1,361	18	76	262	518	332	119	36	94	850	
		100.0	1.3	5.6	19.3	38.1	24.4	8.7	2.6	6.9	62.5	
職業や立場別	女性:会社役員・管理職	16	-	-	18.8	25.0	50.0	6.3	-	-	75.0	
	女性:正社員・正規職員	166	1.8	5.4	23.5	38.0	25.9	3.6	1.8	7.2	63.9	
	女性:非正規、パート、アルバイト	263	0.4	4.9	25.1	35.0	28.5	4.9	1.1	5.3	63.5	
	女性:自営業	31	-	6.5	16.1	29.0	41.9	3.2	3.2	6.5	70.9	
	女性:自営業の家族従業員	17	-	11.8	-	47.1	29.4	5.9	5.9	11.8	76.5	
	女性:専業主婦・学生・無職	305	-	3.3	8.5	37.4	29.8	17.4	3.6	3.3	67.2	
	女性:その他	2	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	100.0
	男性:会社役員・管理職	68	7.4	5.9	23.5	39.7	17.6	4.4	1.5	13.3	57.3	
	男性:正社員・正規職員	202	2.0	11.9	26.2	39.1	15.3	4.5	1.0	13.9	54.4	
	男性:非正規、パート、アルバイト	78	1.3	6.4	24.4	37.2	17.9	9.0	3.8	7.7	55.1	
	男性:自営業	41	-	-	26.8	58.5	9.8	2.4	2.4	-	68.3	
	男性:自営業の家族従業員	3	-	-	-	100.0	-	-	-	-	100.0	
	男性:専業主婦・学生・無職	139	2.2	5.0	12.9	38.1	23.0	13.7	5.0	7.2	61.1	
男性:その他	6	-	-	16.7	66.7	16.7	-	-	-	-	83.4	
無回答		24	4.2	-	20.8	37.5	4.2	20.8	12.5	4.2	41.7	

II 調査結果

③学校教育の場で

図表 1 - 6 学校教育の場での男女の地位の平等感 [全体、性別]
(前回・福岡県・全国調査比較)



「学校教育の場」における男女の地位については、「平等」が 54.0%と半数を超えており、全ての分野のなかで最も高くなっている。『男性優遇』は 17.9%、『女性優遇』は 2.9%となっており、不平等を感じている人は2割程度である。

性別で見ると、女性では『男性優遇』が 21.6%とやや高く、「わからない」が 24.4%を占めていることもあり、「平等」は 49.1%と半数をやや下回っている。男性は 60.8%が「平等」と感じている。

前回調査と比べると、男性はあまり変化がみられないが、女性は「平等」が 9.1ポイント減少し、『男性優遇』が 5.7ポイント増加しており、女性の不平等感が高まっている。

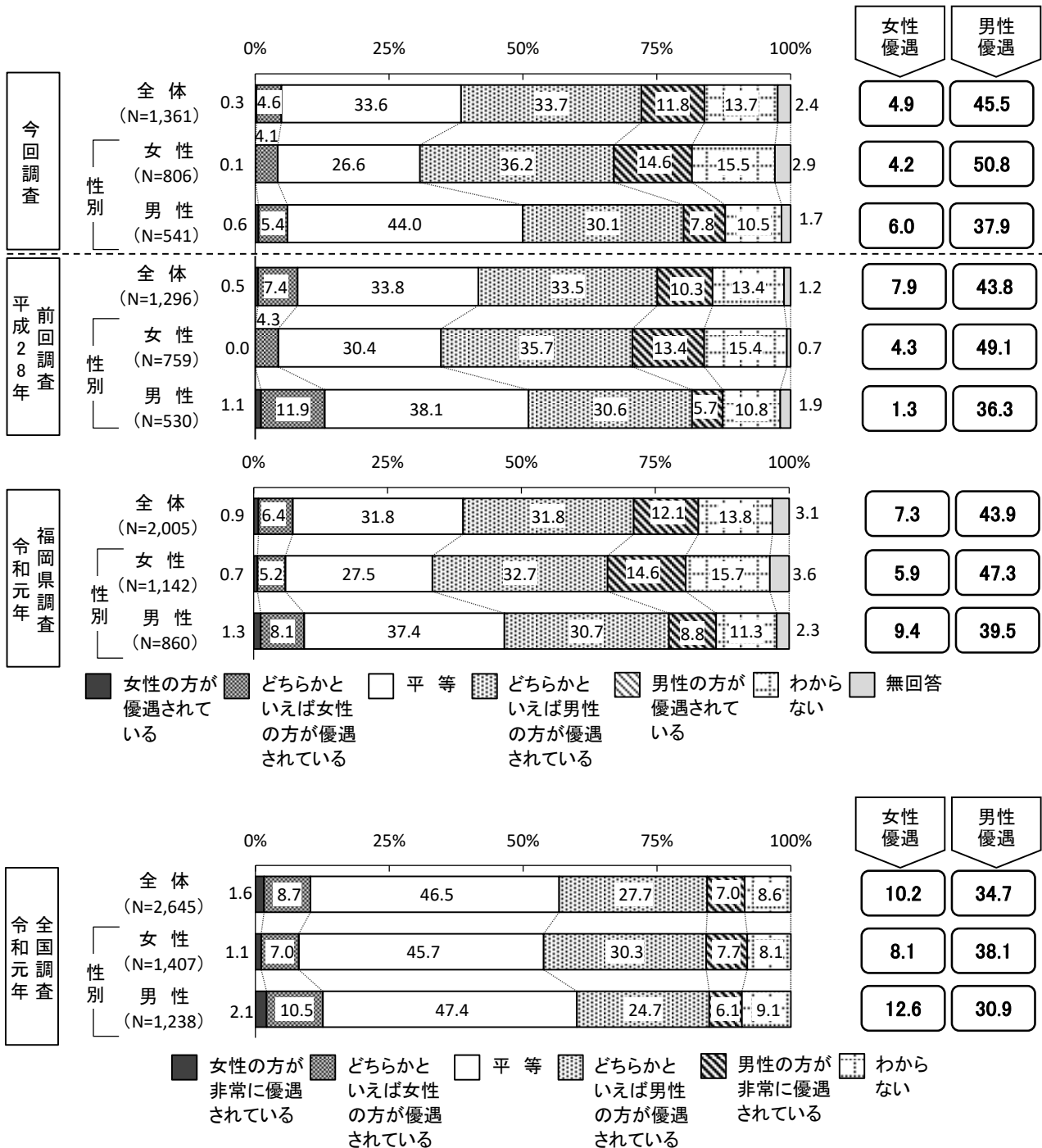
福岡県調査と比べると、男女とも「平等」は今回調査の方が高く、特に男性では 9.3ポイント高くなっている。

全国調査と比べると、「平等」の割合は男性では大差ないが、女性は今回調査の方が 10.7ポイント低くなっている。

II 調査結果

④地域活動・社会活動の場で

図表 1-7 地域活動・社会活動の場での男女の地位の平等感 [全体、性別]
(前回・福岡県・全国調査比較)



※全国調査は「自治会やPTAなどの地域活動の場」

「地域活動・社会活動の場」における男女の地位については、『男性優遇』が45.5%と「平等」の33.6%を上回っている。

性別でみると、『男性優遇』が女性は50.8%と半数を占めるのに対して、男性は37.9%で12.9ポイントの差がある。また、「平等」も男性が44.0%であるのに対して女性は26.6%と17.4ポイントの開きがあり、この分野も男女の認識の隔たりが大きい。

前回調査と比べると、「平等」の割合が男性は5.9ポイント増加しているのに対して、女性は3.8ポイント減少しており、男女の隔たりがより大きくなる傾向がみられる。

福岡県調査と比べると、男性の「平等」が今回調査で6.6ポイント高くなっているが、その他は大差がない。

全国調査は「自治会やNPOなどの地域活動の場」という項目との比較になるため厳密ではないが、「平等」の割合が女性では今回調査の方が19.1ポイントと大幅に低くなっている。

年代別でみると、男女ともに年代が高い層で『男性優遇』の割合が高く、年代が低い層では「平等」の割合が高い傾向がみられる。女性の50代と60代では『男性優遇』が6割近くを占めている。また、年代が低い層で「わからない」の割合が高い傾向もみられる。

図表1-8 地域活動・社会活動の場での男女の地位の平等感 [全体、年代別]

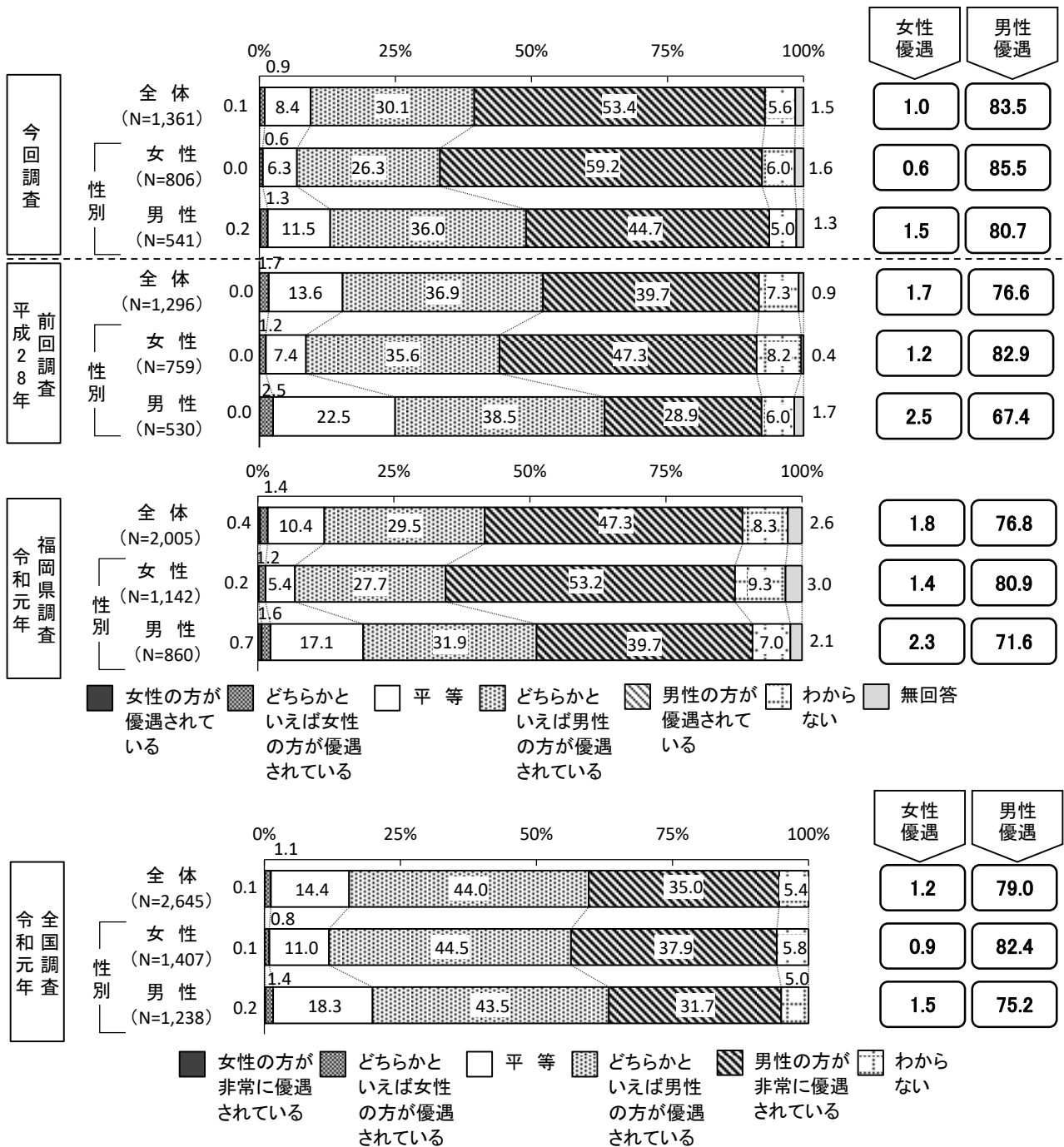
(%)

		標本数	い女性の方が優遇されている	のどちらが優遇されたい女性	平等	のどちらが優遇されたい男性	い男性の方が優遇されている	わからない	無回答	『女性優遇』	『男性優遇』
全体		1,361 100.0	4 0.3	63 4.6	457 33.6	459 33.7	160 11.8	186 13.7	32 2.4	67 4.9	619 45.5
年代別	女性:10・20代	81	1.2	4.9	35.8	23.5	6.2	28.4	-	6.1	29.7
	女性:30代	111	-	3.6	27.9	27.9	18.0	21.6	0.9	3.6	45.9
	女性:40代	164	-	3.0	26.2	33.5	15.2	19.5	2.4	3.0	48.7
	女性:50代	151	-	2.6	22.5	44.4	13.9	13.2	3.3	2.6	58.3
	女性:60代	181	-	3.9	27.1	43.6	13.8	8.8	2.8	3.9	57.4
	女性:70歳以上	116	-	7.8	24.1	35.3	17.2	8.6	6.9	7.8	52.5
	男性:10・20代	48	-	10.4	50.0	20.8	4.2	14.6	-	10.4	25.0
	男性:30代	74	-	8.1	43.2	20.3	4.1	24.3	-	8.1	24.4
	男性:40代	81	2.5	4.9	48.1	27.2	6.2	11.1	-	7.4	33.4
	男性:50代	90	-	5.6	48.9	23.3	7.8	12.2	2.2	5.6	31.1
	男性:60代	139	-	3.6	40.3	37.4	9.4	6.5	2.9	3.6	46.8
	男性:70歳以上	108	0.9	3.7	38.9	39.8	11.1	2.8	2.8	4.6	50.9
無回答		17	-	5.9	35.3	23.5	11.8	23.5	-	5.9	35.3

II 調査結果

⑤政治の場で

図表1-9 政治の場での男女の地位の平等感 [全体、性別]
(前回・福岡県・全国調査比較)



「政治の場」における男女の地位については、『男性優遇』は 83.5%と 8割を超えており、全ての分野のなかで最も高くなっている。「平等」は 8.4%に過ぎず、不平等感が特に強い分野となっている。

性別で見ると、「平等」が女性は 6.3%、男性が 11.5%で男性の方が 5.2ポイント高くなっている。

前回調査と比べると、男女ともに『男性優遇』が増加し、「平等」が減少しており、不平等感が増している傾向がみられるが、特に男性でその傾向が顕著で、『男性優遇』が 13.3ポイント増加している。

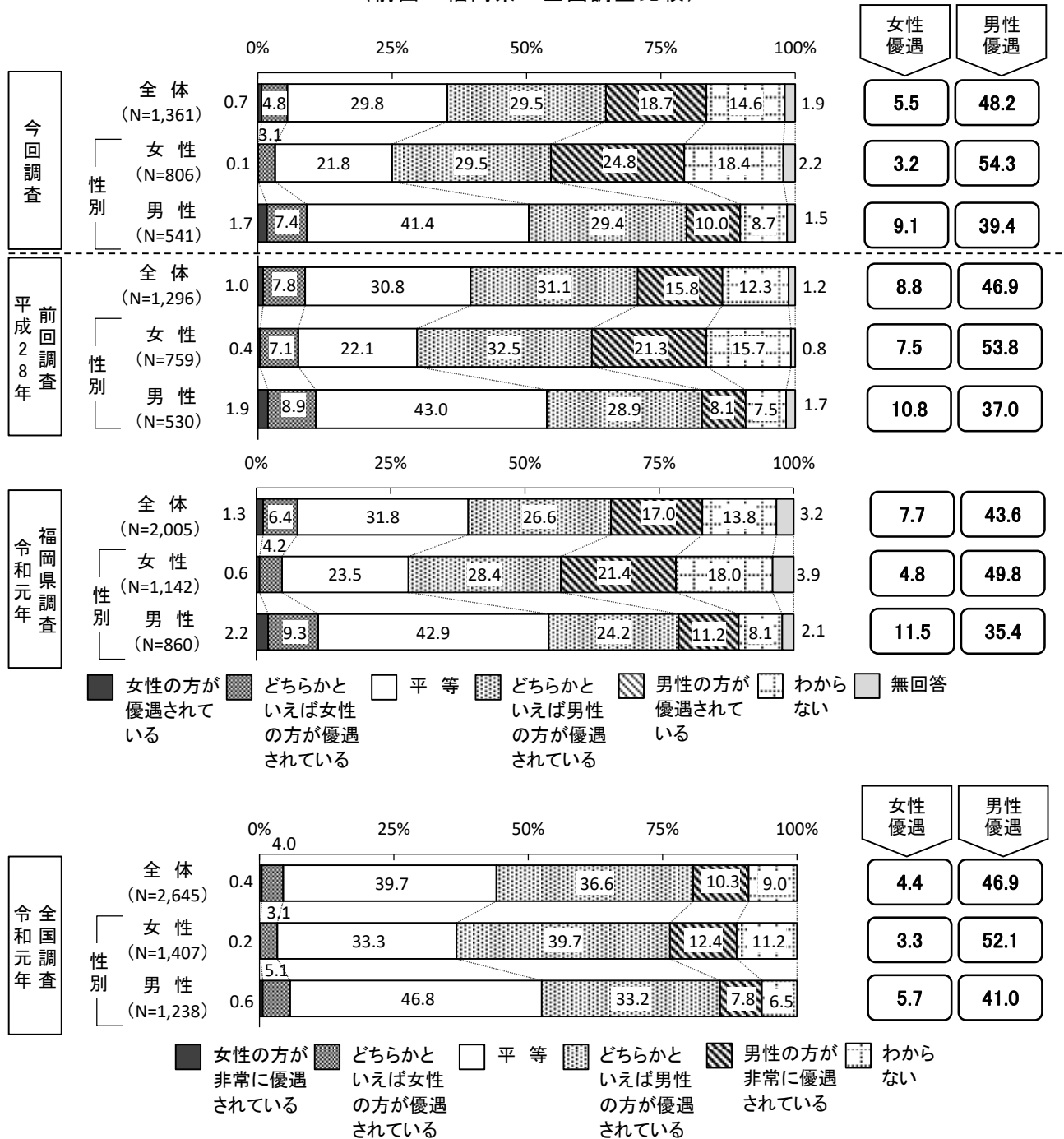
福岡県調査と比べると、男女ともに『男性優遇』は今回調査の方が高くなっており、特に男性では 9.1ポイント高い。

全国調査と比べると、『男性優遇』が男女ともに今回調査の方が約 3～6ポイント高くなっている。

II 調査結果

⑥法律や制度のうえで

図表1-10 法律や制度のうえでの男女の地位の平等感 [全体、性別]
(前回・福岡県・全国調査比較)



「法律や制度のうえ」における男女の地位については、『男性優遇』が48.2%とおよそ半数を占めており、「平等」は29.8%となっている。

性別で見ると、『男性優遇』は女性が54.3%と5割を超えているのに対して、男性は39.4%で14.9ポイントの差があり、「平等」は女性が21.8%に対し、男性は41.4%と19.6ポイントの差となっており、この分野も男女の認識の隔たりが大きい。

前回調査と比べても男女ともに大きな変化はみられない。

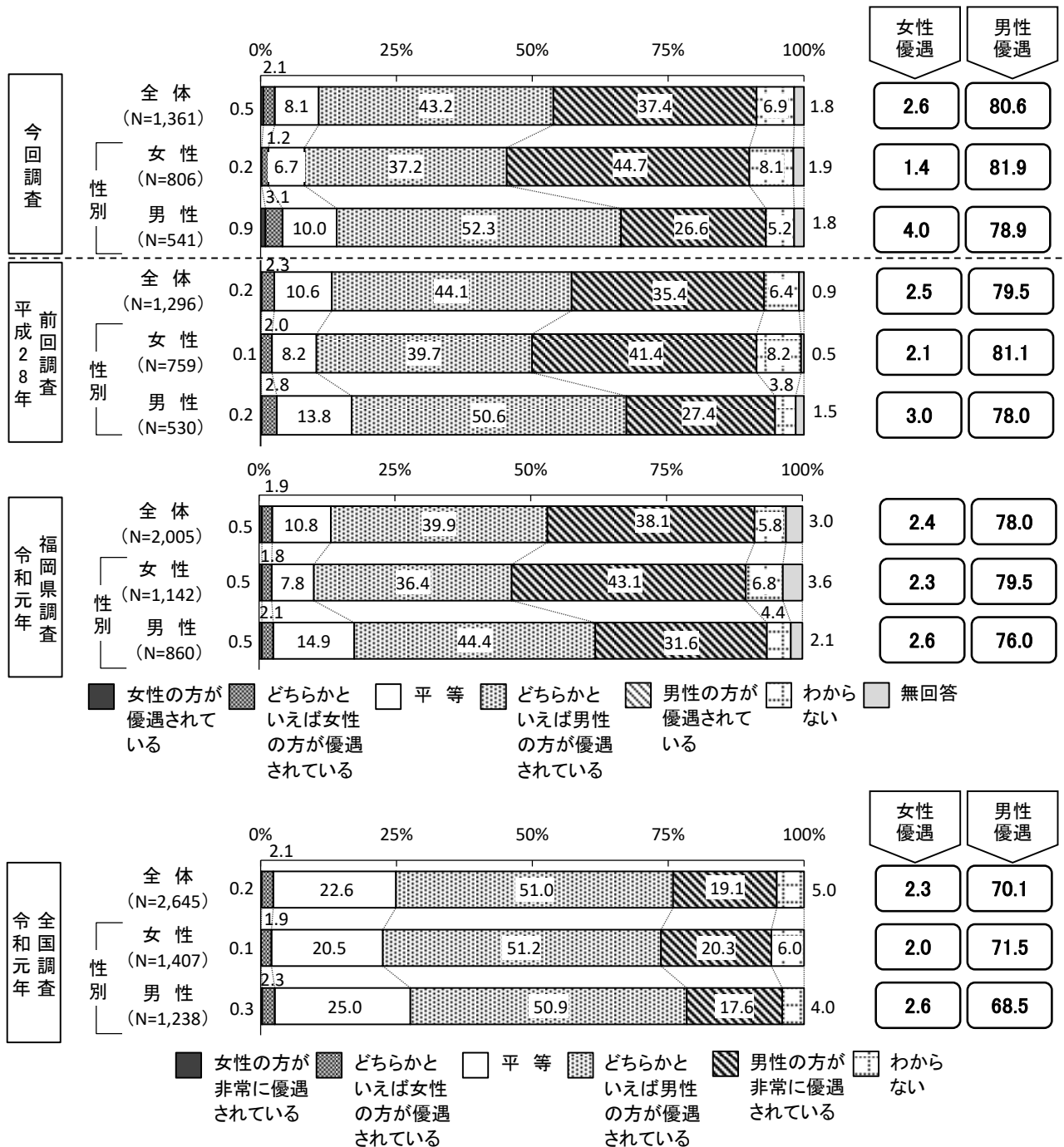
福岡県調査と比べると、『男性優遇』の割合は男女ともに今回調査の方が約4～5ポイント高くなっている。

全国調査と比べると、「平等」の割合が男女ともに今回調査の方が低くなっており、特に女性は11.5ポイントと差が大きい。

II 調査結果

⑦ 社会通念・慣習・しきたりなどで

図表 1-11 社会通念・慣習・しきたりなどでの男女の地位の平等感
 [全体、性別] (前回・福岡県・全国調査比較)



「社会通念・慣習・しきたりなど」における男女の地位については、『男性優遇』が80.6%と8割を占めており、「政治の場」に次いで高くなっている。「平等」は8.1%と1割にも満たない。

性別で見ると、『男性優遇』は女性が81.9%、男性が78.9%となっており大差はないが、内訳をみると、「男性の方が優遇されている」は女性が44.7%、男性が26.6%と18.1ポイントの差があり、男性が優遇されていると強く感じている人は女性の方が大幅に多い。

前回調査と比べても男女ともにほとんど変化はみられない。

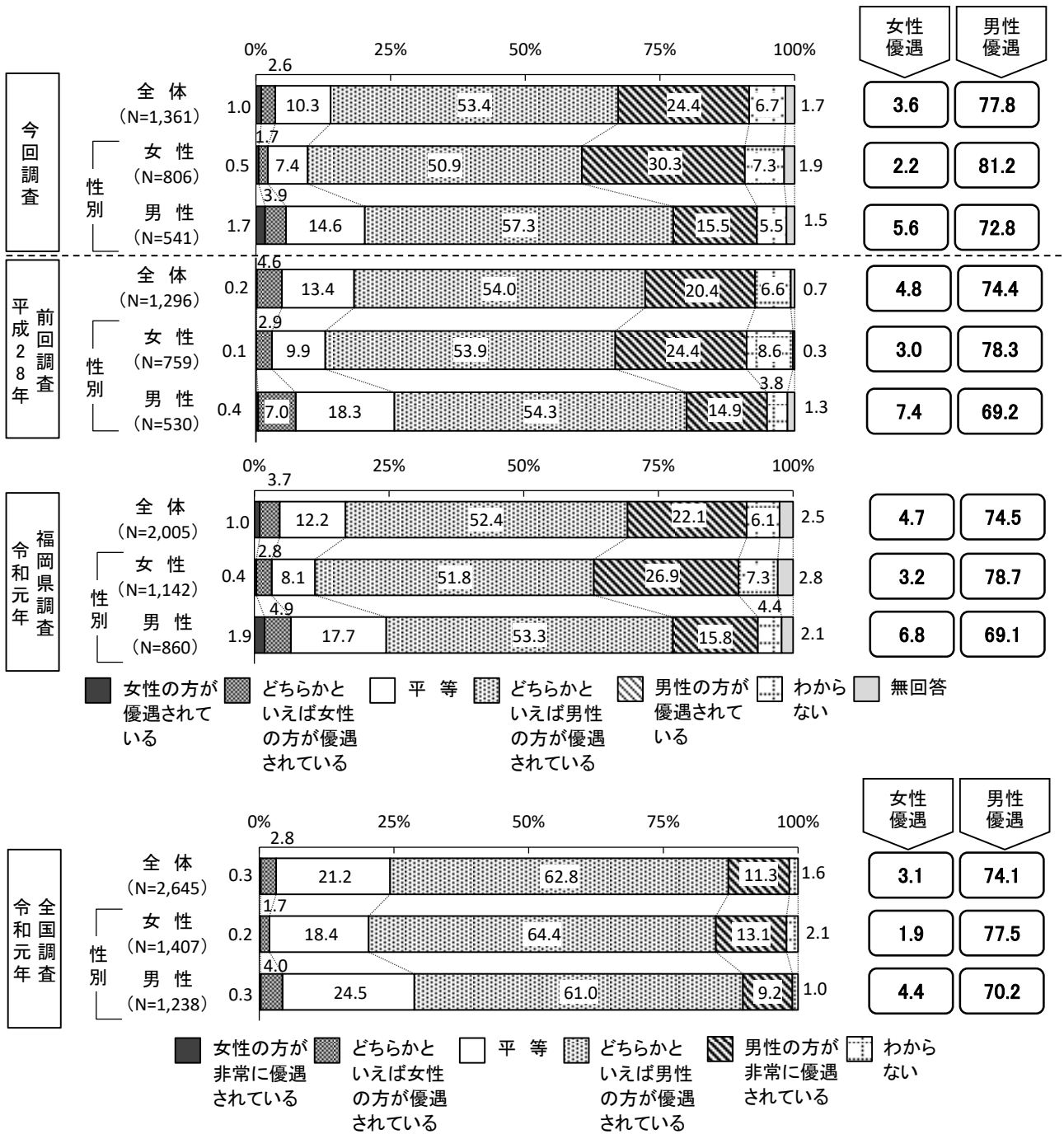
福岡県調査と比べると、全体的に大差はないが、男性では今回調査の方が「平等」の割合が4.9ポイント低くなっている。

全国調査と比べると、『男性優遇』の割合は男女ともに今回調査の方が約10ポイント高く、「平等」は約14~15ポイント低くなっており、全国的な傾向に比べて不平等感が強くなっている。

II 調査結果

⑧ 社会全体で見た場合

図表 1-12 社会全体で見た場合の男女の地位の平等感 [全体、性別]
(前回・福岡県・全国調査比較)



「社会全体で見た場合」の男女の地位については、『男性優遇』が 77.8%と 8割近くを占めており、社会全体でみた場合も不平等感は強い。

性別でみると、『男性優遇』は女性の方が 8.4 ポイント高く、多くの分野と同様に女性の不平等感がより強くなっている。

前回調査と比べると、『男性優遇』が男女ともに今回調査の方が約 3～4 ポイント高くなっており、不平等感がやや高まっている傾向がみられる。

福岡県調査と比べると、『男性優遇』が男女ともに今回調査の方が約 3～4 ポイント高くなっており、県の傾向よりも今回調査の方がやや不平等感が高い。

全国調査と比べても『男性優遇』の割合は男女ともに今回調査の方がやや高く、「平等」の割合で比較すると今回調査の方が約 10～11 ポイント低くなっている。

年代別でみると、『男性優遇』が女性では 50代で 88.1%と 9割近くに達しており、男性では 70歳以上で 87.1%と高くなっている。

図表 1-13 社会全体で見た場合の男女の地位の平等感 [全体、年代別]

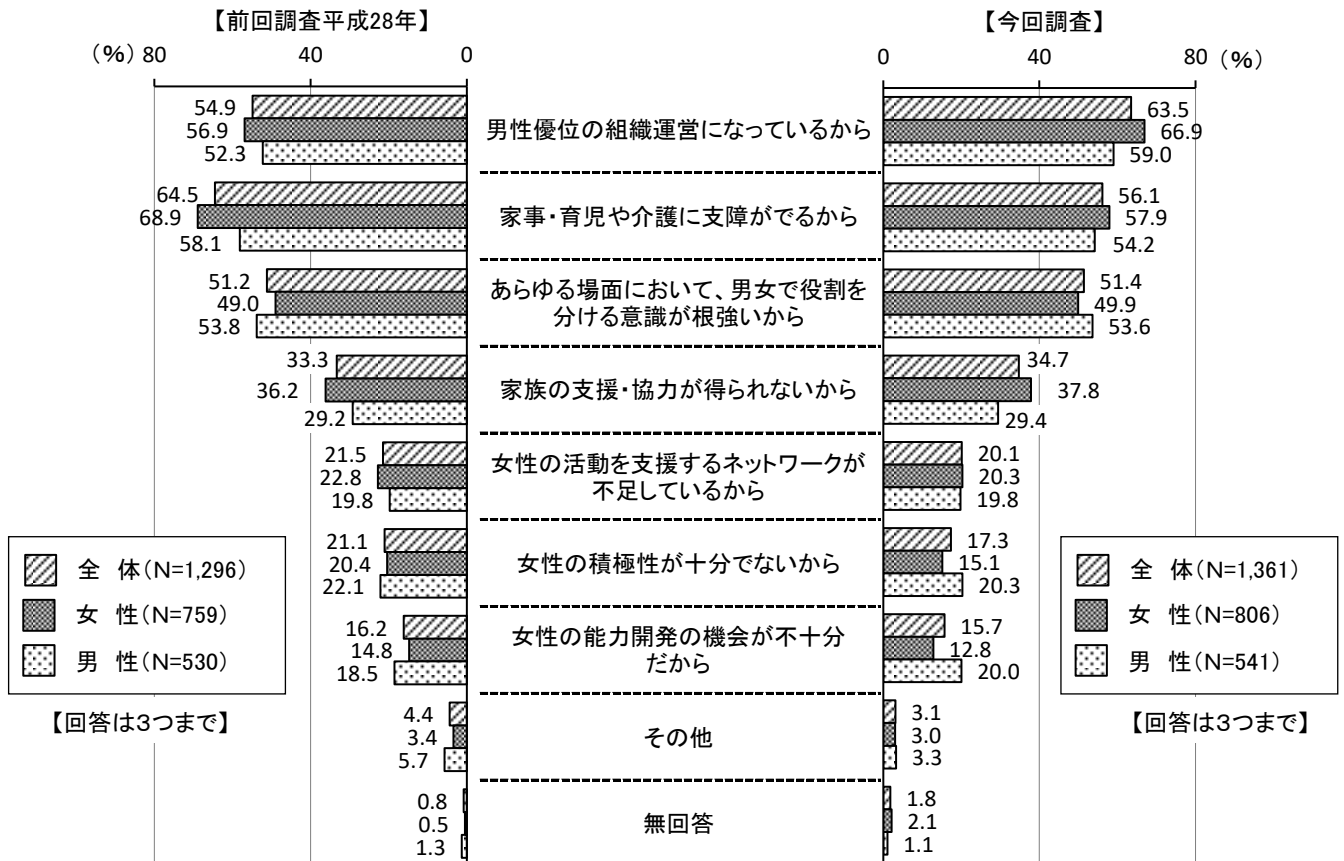
		標本数	い女性の方が優遇されて	のどちがら優遇さえれば女性	平等	のどちがら優遇さえれば男性	い男性の方が優遇されて	わからない	無回答	『女性優遇』	『男性優遇』
全体		1,361 100.0	13 1.0	35 2.6	140 10.3	727 53.4	332 24.4	91 6.7	23 1.7	48 3.6	1,059 77.8
年代別	女性:10・20代	81	1.2	7.4	7.4	50.6	17.3	14.8	1.2	1.2	67.9
	女性:30代	111	0.9	-	10.8	47.7	30.6	9.0	0.9	0.9	78.3
	女性:40代	164	-	1.8	4.9	48.2	34.8	8.5	1.8	1.8	83.0
	女性:50代	151	-	0.7	6.0	55.6	32.5	4.0	1.3	1.3	88.1
	女性:60代	181	1.1	0.6	8.8	53.0	28.7	5.5	2.2	2.2	81.7
	女性:70歳以上	116	-	2.6	7.8	49.1	31.0	6.0	3.4	3.4	80.1
	男性:10・20代	48	6.3	-	18.8	58.3	4.2	12.5	-	-	62.5
	男性:30代	74	2.7	8.1	13.5	48.6	17.6	9.5	-	-	66.2
	男性:40代	81	2.5	6.2	13.6	59.3	11.1	6.2	1.2	1.2	70.4
	男性:50代	90	2.2	5.6	16.7	55.6	11.1	7.8	1.1	1.1	66.7
	男性:60代	139	-	2.9	16.5	57.6	17.3	3.6	2.2	2.2	74.9
男性:70歳以上	108	-	0.9	9.3	63.0	24.1	-	2.8	2.8	87.1	
無回答	17	-	-	11.8	41.2	35.3	11.8	-	-	76.5	

II 調査結果

3. 政策・方針決定の場で女性が少ない理由

問3. 女性の社会進出は進みつつありますが、政治、行政、企業、地域などの政策・方針決定の場にはまだまだ女性が少ないのが現状です。そこにはどのような理由があると思いますか。あてはまるものを3つまで選び番号に○印をつけてください。

図表1-14 政策・方針決定の場で女性が少ない理由〔全体、性別〕（前回調査比較）



政策・方針決定の場に女性が少ない現状について、その理由をたずねたところ、「男性優位の組織運営になっているから」が63.5%で最も高く、次いで「家事・育児や介護に支障がでるから」が56.1%、「あらゆる場面において、男女で役割を分ける意識が根強いから」が51.4%となっている。

性別でみると、女性の方が男性より割合が高い項目は「家族の支援・協力が得られないから」（女性37.8%、男性29.4%）で8.4ポイントの差があり、また、「男性優位の組織運営になっているから」（同66.9%、59.0%）も7.9ポイントの差がある。男性の方が高い項目は、「女性の能力開発の機会が不十分だから」（同12.8%、20.0%）で7.2ポイント差となっている。

前回調査と比べると、「男性優位の組織運営になっているから」は男女とも約7～10ポイント増加し、今回調査の第1位となっている。「家事・育児や介護に支障がでるから」は男女とも減少しているが、男性は3.9ポイント減に対し、女性では11ポイント減と下げ幅が大きい。

年代別でみると、女性の40代から60代では「男性優位の組織運営になっているから」が約7割と高くなっており、この年代では「家事・育児や介護に支障がでるから」も6割前後と30代以下に比べて高い。男性では「家事・育児や介護に支障がでるから」の割合が年代による差が大きく、10・20代と40代が4割台であるのに対して、30代と70歳以上では約6割と高くなっている。

図表1-15 政策・方針決定の場で女性が少ない理由〔全体、年代別〕

		標本数	男性優位の組織運営に	男性意識が強いから	女性活躍の場を分け	家族の支援・協力が得	家事・育児や介護に支	女性能力開発の機会	女性の活動が不足する	女性の積極性が十分で	その他	無回答
全体		1,361 100.0	864 63.5	699 51.4	472 34.7	764 56.1	213 15.7	274 20.1	235 17.3	42 3.1	25 1.8	
年代別	女性:10・20代	81	66.7	43.2	32.1	49.4	18.5	22.2	12.3	7.4	1.2	
	女性:30代	111	65.8	55.0	41.4	55.0	7.2	20.7	9.0	2.7	2.7	
	女性:40代	164	70.1	51.8	42.7	63.4	7.9	9.1	11.0	3.0	1.2	
	女性:50代	151	68.9	46.4	44.4	58.9	13.9	17.9	14.6	3.3	2.0	
	女性:60代	181	69.1	50.8	35.4	58.0	15.5	24.9	17.1	2.2	2.8	
	女性:70歳以上	116	56.9	49.1	26.7	58.6	15.5	31.0	26.7	0.9	2.6	
	男性:10・20代	48	56.3	56.3	25.0	43.8	25.0	10.4	16.7	4.2	-	
	男性:30代	74	58.1	51.4	28.4	58.1	16.2	23.0	13.5	2.7	-	
	男性:40代	81	54.3	44.4	39.5	45.7	16.0	17.3	13.6	7.4	2.5	
	男性:50代	90	58.9	55.6	28.9	53.3	22.2	15.6	24.4	1.1	1.1	
男性:60代	139	66.9	54.7	26.6	56.1	21.6	23.0	24.5	4.3	0.7		
男性:70歳以上	108	54.6	58.3	28.7	60.2	19.4	23.1	23.1	0.9	1.9		
無回答		17	47.1	52.9	52.9	29.4	11.8	17.6	17.6	-	11.8	

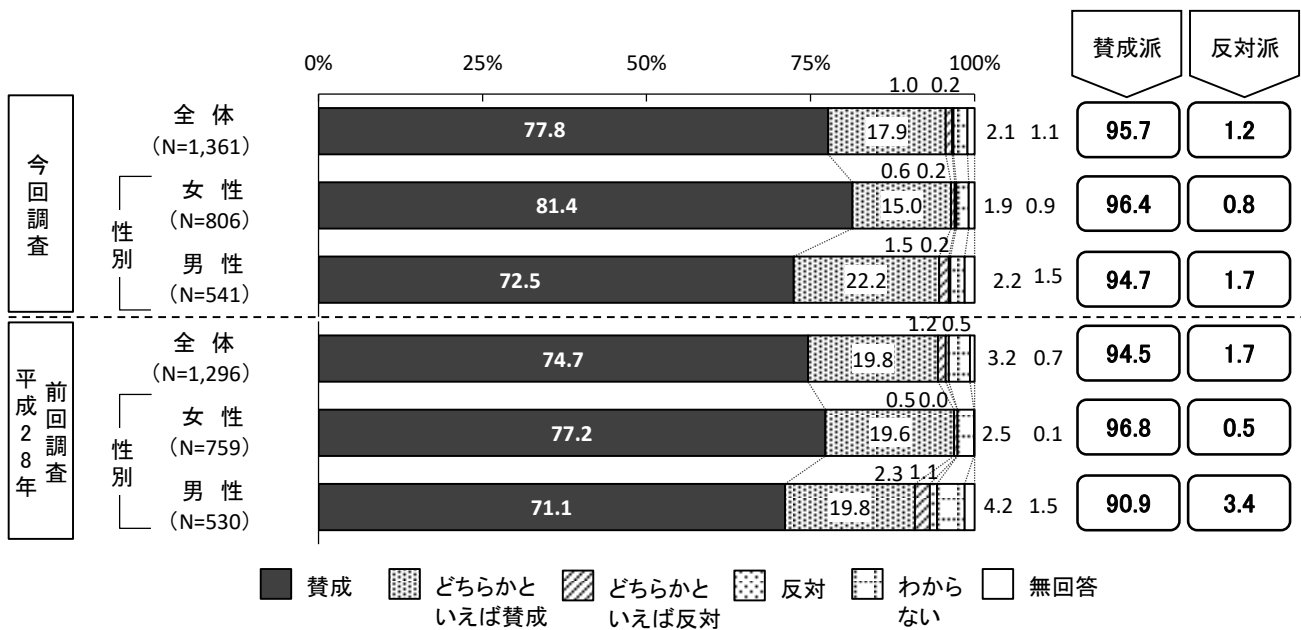
第2章 子育て・教育に関する考え方について

1. 子どもの育て方について

問4. あなたは、子どもの育て方についてどのような考え方をお持ちですか。次の①～②のそれぞれについて、あなたの考えに近いものを1つ選び番号に○印をつけてください。【現在、子育て中でない方も、お答えください。】

①女の子も男の子も同等に経済的に自立できるよう職業人としての教育が必要だ

図表2-1 女の子も男の子も同等に経済的に自立できるよう職業人としての教育が必要だ
[全体、性別] (前回調査比較)



子どもの育て方についての考え方をたずねたところ、「女の子も男の子も同等に経済的に自立できるよう職業人としての教育が必要だ」に「賛成」は77.8%、「どちらかといえば賛成」は17.9%でこれらを合わせた『賛成派』は95.7%と大部分を占めており、「反対」(0.2%)と「どちらかといえば反対」(1.0%)を合わせた『反対派』は1.2%とわずかである。

性別で見ると、男女とも『賛成派』が9割台と高くなっているが、その内訳をみると、積極的な「賛成」は女性の方が8.9ポイント高くなっている。

前回調査と比較すると、女性は『賛成派』の割合がほとんど変わっていないが、そのうち積極的な「賛成」が4.2ポイント増加している。男性は『賛成派』が3.8ポイント増加している。

年代別でみると、男女とも10・20代と女性の30代で『賛成派』の割合が他の年代よりもやや低くなっている。

性別役割分担意識別でみると、性別役割分担に強く「同感する」場合に、『反対派』の割合が女性5.0%、男性12.5%とやや高くなっている。

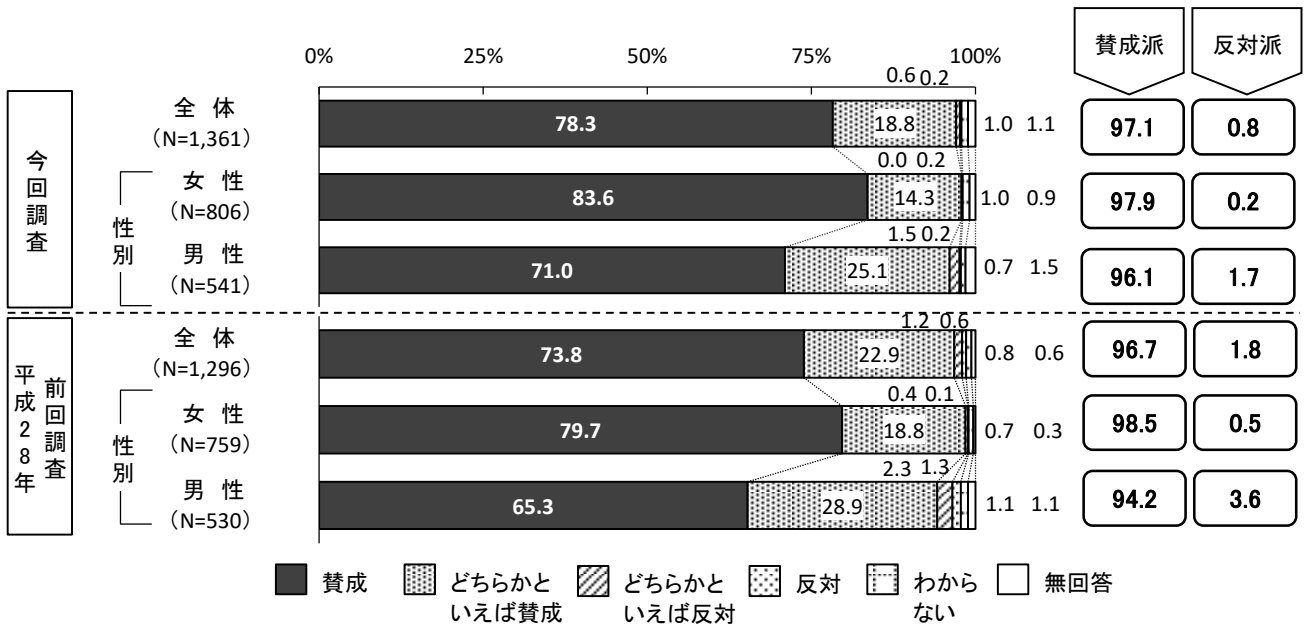
図表2-2 女の子も男の子も同等に経済的に自立できるよう職業人としての教育が必要だ
[全体、年代別、性別役割分担意識別]

			賛成	いど えち ばら 賛か 成と	いど えち ばら 反か 対と	反 対	わ か ら な い	無 回 答	『 賛 成 派 』	『 反 対 派 』
全体		1,361 100.0	1,059 77.8	243 17.9	13 1.0	3 0.2	28 2.1	15 1.1	1,302 95.7	16 1.2
年代別	女性:10・20代	81	80.2	12.3	-	2.5	4.9	-	92.5	2.5
	女性:30代	111	83.8	9.0	1.8	-	4.5	0.9	92.8	1.8
	女性:40代	164	79.3	17.1	1.2	-	1.2	1.2	96.4	1.2
	女性:50代	151	85.4	11.9	-	-	2.0	0.7	97.3	-
	女性:60代	181	80.7	18.8	-	-	0.6	-	99.5	-
	女性:70歳以上	116	78.4	18.1	0.9	-	-	2.6	96.5	0.9
	男性:10・20代	48	68.8	22.9	2.1	-	6.3	-	91.7	2.1
	男性:30代	74	74.3	21.6	1.4	-	2.7	-	95.9	1.4
	男性:40代	81	79.0	17.3	1.2	-	1.2	1.2	96.3	1.2
	男性:50代	90	76.7	17.8	2.2	-	2.2	1.1	94.5	2.2
	男性:60代	139	70.5	24.5	1.4	-	1.4	2.2	95.0	1.4
男性:70歳以上	108	66.7	26.9	0.9	0.9	1.9	2.8	93.6	1.8	
	無回答	17	82.4	11.8	-	-	5.9	-	94.2	-
性別 役割 分担 意識 別	女性:同感する	20	80.0	10.0	5.0	-	5.0	-	90.0	5.0
	女性:ある程度同感する	195	72.8	24.1	0.5	0.5	1.5	0.5	96.9	1.0
	女性:あまり同感しない	250	81.2	16.0	0.4	0.4	2.0	-	97.2	0.8
	女性:同感しない	326	88.7	9.5	0.6	-	1.2	-	98.2	0.6
	男性:同感する	24	58.3	29.2	8.3	4.2	-	-	87.5	12.5
	男性:ある程度同感する	160	65.0	29.4	2.5	-	1.9	1.3	94.4	2.5
	男性:あまり同感しない	160	71.9	26.3	-	-	1.3	0.6	98.2	-
	男性:同感しない	184	83.7	11.4	0.5	-	3.3	1.1	95.1	0.5
	無回答	42	52.4	14.3	2.4	-	9.5	21.4	66.7	2.4

II 調査結果

②男の子も女の子も炊事・掃除・洗濯など生活に必要な技術を身につけさせる方がよい

図表 2-3 男の子も女の子も炊事・掃除・洗濯など生活に必要な技術を身につけさせる方がよい
[全体、性別] (前回調査比較)



「男の子も女の子も炊事・掃除・洗濯など生活に必要な技術を身につけさせる方がよい」については、『賛成派』は97.1%、『反対派』は0.8%となっており、この考え方にもほとんどの人が賛成している。

性別でみると、積極的な「賛成」は女性が83.6%と男性(71.0%)より12.6ポイント高い。

前回調査と比べると、男女とも積極的な「賛成」が約4~6ポイント増加している。

年代別でみると、男女ともに積極的な「賛成」は年代が高い層で、割合が低くなる傾向がみられ、特に70歳以上では女性が66.4%、男性が56.5%と他の年代よりも低くなっている。

性別役割分担意識別でみると、男女ともに性別役割分担に「同感しない」と回答した場合に積極的な「賛成」の割合が9割前後と高くなっている。

図表2-4 男の子も女の子も炊事・掃除・洗濯など生活に必要な技術を身につけさせる方がよい
[全体、年代別、性別役割分担意識別]

		標本数	賛成	いどえちばら賛か成と	いどえちばら反か対と	反対	わからない	無回答	『賛成派』	『反対派』
全体		1,361 100.0	1,066 78.3	256 18.8	8 0.6	3 0.2	13 1.0	15 1.1	1,322 97.1	11 0.8
年代別	女性:10・20代	81	91.4	8.6	-	-	-	-	100.0	-
	女性:30代	111	88.3	8.1	-	-	2.7	0.9	96.4	-
	女性:40代	164	87.8	11.0	-	-	-	1.2	98.8	-
	女性:50代	151	90.1	7.9	-	-	1.3	0.7	98.0	-
	女性:60代	181	79.6	19.3	-	-	1.1	-	98.9	-
	女性:70歳以上	116	66.4	28.4	-	1.7	0.9	2.6	94.8	1.7
	男性:10・20代	48	83.3	16.7	-	-	-	-	100.0	-
	男性:30代	74	86.5	12.2	1.4	-	-	-	98.7	1.4
	男性:40代	81	81.5	14.8	1.2	-	1.2	1.2	96.3	1.2
	男性:50代	90	73.3	22.2	1.1	-	2.2	1.1	95.5	1.1
	男性:60代	139	61.9	32.4	1.4	-	0.7	3.6	94.3	1.4
	男性:70歳以上	108	56.5	38.9	2.8	0.9	-	0.9	95.4	3.7
	無回答	17	58.8	35.3	-	-	5.9	-	94.1	-
性別役割分担意識別	女性:同感する	20	85.0	10.0	-	5.0	-	-	95.0	5.0
	女性:ある程度同感する	195	72.3	25.1	-	0.5	1.5	0.5	97.4	0.5
	女性:あまり同感しない	250	85.2	13.6	-	-	1.2	-	98.8	-
	女性:同感しない	326	90.5	9.2	-	-	0.3	-	99.7	-
	男性:同感する	24	50.0	41.7	4.2	4.2	-	-	91.7	8.4
	男性:ある程度同感する	160	60.0	35.0	1.9	-	1.9	1.3	95.0	1.9
	男性:あまり同感しない	160	69.4	28.8	1.3	-	0.6	-	98.2	1.3
	男性:同感しない	184	85.9	12.0	1.1	-	-	1.1	97.9	1.1
	無回答	42	54.8	16.7	-	-	4.8	23.8	71.5	-

第3章 家庭に関することについて

1. 家庭内の役割分担の状況

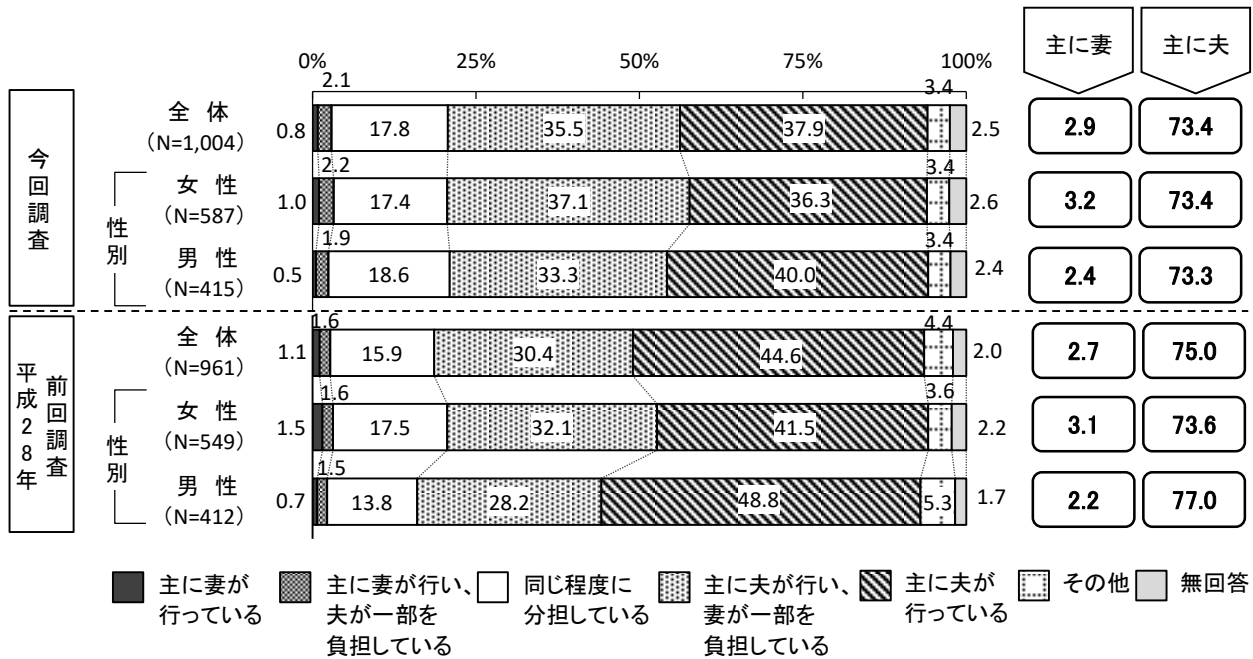
【この質問は、配偶者・パートナーと同居している方がお答えください。】

問5. あなたのご家庭では、次のような家庭内の仕事を主にどなたがしていますか。①～⑨のそれぞれについてあてはまるものを1つ選び数字に○印をつけてください。

現在、配偶者・パートナーと同居している人に家庭内の役割、9分野について主に誰が行っているかたずねた。

①生活費を稼ぐ

図表3-1 生活費を稼ぐ [全体、性別] (前回調査比較)



「生活費を稼ぐ」は、「主に夫が行っている」(37.9%)と「主に夫が行い、妻が一部を負担している」(35.5%)がともに3割台で高く、これらを合わせた『主に夫』は73.4%となっており、7割以上の家庭で生活費を稼ぐのは夫の役割となっている。「同じ程度に分担している」は17.8%、『主に妻』は2.9%となっている。

性別で見ると、男女ともに『主に夫』の割合は7割強と同程度であるが、その内訳が男性は「主に夫が行っている」が40.0%と最も高いのに対して、女性は「主に夫が行い、妻が一部を負担している」が37.1%と最も高い。

前回調査と比べると、男女ともに『主に夫』の割合はほとんど変わらないが、「主に夫が行っている」が約5～9ポイント減少し、「主に夫が行い、妻が一部を負担している」が約5ポイント増加している。

職業や立場別でみると、女性の「会社役員・管理職」と「正社員・正規職員」では「同じ程度に分担している」が5割台半ばから6割台半ばと高くなっているが、『主に夫』も3割台と少なくない。

性別役割分担意識別でみると、男女とも性別役割分担に同感しない人ほど『主に夫』の割合が低くなり、「同じ程度に分担している」の割合が高くなる傾向が顕著である。

図表3-2 生活費を稼ぐ〔全体、職業や立場別、性別役割分担意識別〕

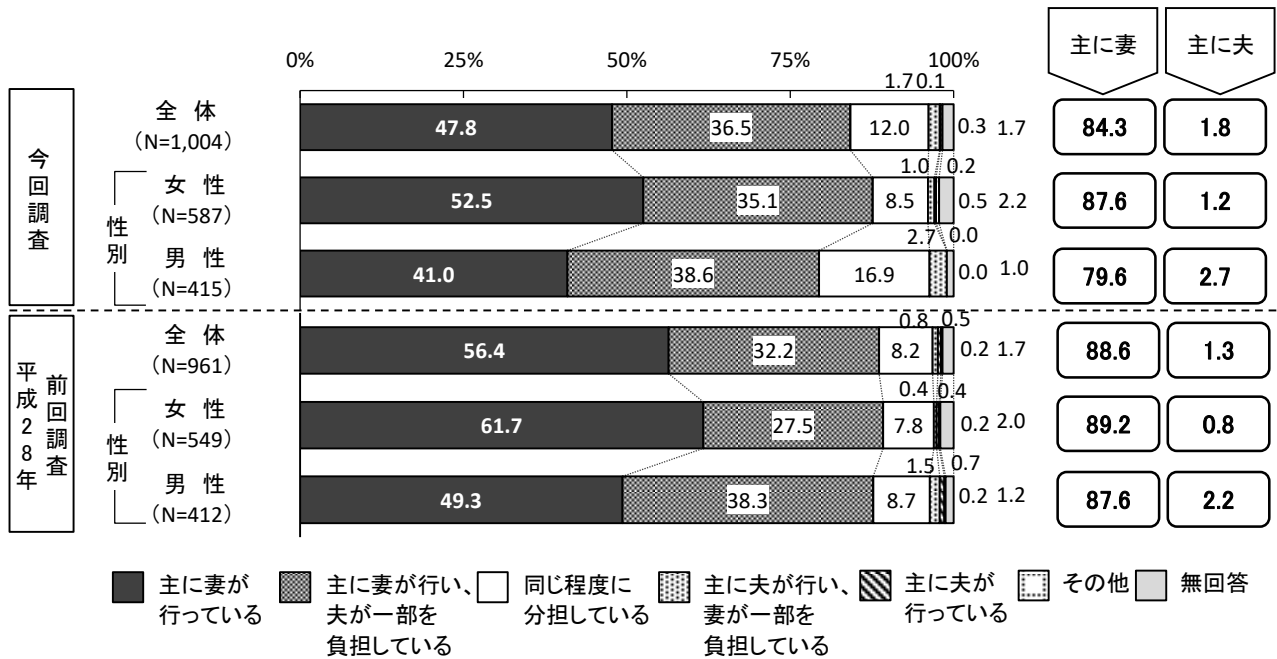
(%)

		標本数	主に妻が行って	主夫がいて妻が負担、主が負担	同じ程度に分担	主妻がいて夫が負担、主が負担	主に夫が行って	その他	無回答	『主に妻』	『主に夫』	
全体		1,004 100.0	8 0.8	21 2.1	179 17.8	356 35.5	381 37.9	34 3.4	25 2.5	29 2.9	737 73.4	
職業や立場別	女性:会社役員・管理職	9	-	-	66.7	22.2	11.1	-	-	-	33.3	
	女性:正社員・正規職員	101	4.0	4.0	54.5	30.7	4.0	2.0	1.0	8.0	34.7	
	女性:非正規、パート、アルバイト	209	0.5	2.4	7.2	60.3	25.4	2.9	1.4	2.9	85.7	
	女性:自営業	22	-	4.5	27.3	36.4	27.3	-	4.5	4.5	63.7	
	女性:自営業の家族従業員	16	-	6.3	6.3	31.3	43.8	6.3	6.3	6.3	75.1	
	女性:専業主婦・学生・無職	227	0.4	0.9	7.9	19.4	62.6	4.8	4.0	1.3	82.0	
	女性:その他	1	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	100.0
	男性:会社役員・管理職	60	-	-	8.3	35.0	53.3	-	3.3	-	-	88.3
	男性:正社員・正規職員	166	-	0.6	22.3	34.3	41.6	-	1.2	0.6	75.9	
	男性:非正規、パート、アルバイト	55	-	3.6	21.8	25.5	47.3	-	1.8	3.6	72.8	
	男性:自営業	39	-	2.6	28.2	35.9	30.8	-	2.6	2.6	66.7	
	男性:自営業の家族従業員	3	-	33.3	33.3	33.3	-	-	-	33.3	33.3	
	男性:専業主婦・学生・無職	85	2.4	3.5	11.8	32.9	30.6	15.3	3.5	5.9	63.5	
	男性:その他	5	-	-	20.0	40.0	20.0	20.0	-	-	-	60.0
無回答	6	-	-	16.7	33.3	33.3	-	16.7	-	-	66.6	
性別役割分担意識別	女性:同感する	13	-	7.7	7.7	46.2	38.5	-	-	7.7	84.7	
	女性:ある程度同感する	138	-	1.4	9.4	34.8	46.4	5.8	2.2	1.4	81.2	
	女性:あまり同感しない	189	-	1.6	13.8	38.6	40.7	3.7	1.6	1.6	79.3	
	女性:同感しない	238	2.5	2.9	25.6	37.0	27.7	2.1	2.1	5.4	64.7	
	男性:同感する	19	-	-	-	21.1	73.7	5.3	-	-	-	94.8
	男性:ある程度同感する	125	-	2.4	9.6	32.8	46.4	5.6	3.2	2.4	79.2	
	男性:あまり同感しない	124	-	1.6	21.8	33.9	39.5	2.4	0.8	1.6	73.4	
	男性:同感しない	139	1.4	2.2	25.9	36.7	29.5	2.2	2.2	3.6	66.2	
	無回答	19	-	-	15.8	15.8	36.8	-	31.6	-	-	52.6

II 調査結果

②炊事、掃除、洗濯などの家事をする

図表 3-3 炊事、掃除、洗濯などの家事をする [全体、性別] (前回調査比較)



「炊事、掃除、洗濯などの家事をする」については、「主に妻が行っている」が 47.8% と約 5 割を占めており、次いで「主に妻が行い、夫が一部を負担している」が 36.5% でこれらを合わせた『主に妻』が 84.3% と、9つの分野のなかで最も高くなっている。「同じ程度に分担している」は 12.0% に過ぎない。

性別で見ると、「主に妻が行っている」は女性が 52.5% で男性 (41.0%) より 11.5 ポイント高く、「同じ程度に分担している」(女性 8.5%、男性 16.9%) は男性の方が 8.4 ポイント高くなっており、男女で認識の違いがみられる。

前回調査と比べると、女性では「主に妻が行っている」が 9.2 ポイント減少し、「主に妻が行い、夫が一部を負担している」が 7.6 ポイント増加している。また、男性でも「主に妻が行っている」が 8.3 ポイント減少し、「同じ程度に分担している」が 8.2 ポイント増加していることから、男女ともに夫が分担する程度が増える傾向が認められる。

年代別でみると、男女ともに「同じ程度に分担している」は年代が低い層で割合が高くなっており、女性では10・20代と30代で約2割、男性では10・20代で7割を超え、30代と40代も2割台と比較的高くなっている。

配偶関係別でみると、共働きの場合でも『主に妻』が女性85.8%、男性70.5%と高いが、共働きでない場合よりは「同じ程度に分担している」割合が高くなっている。

図表3-4 炊事、掃除、洗濯などの家事をする〔全体、年代別、配偶関係別〕

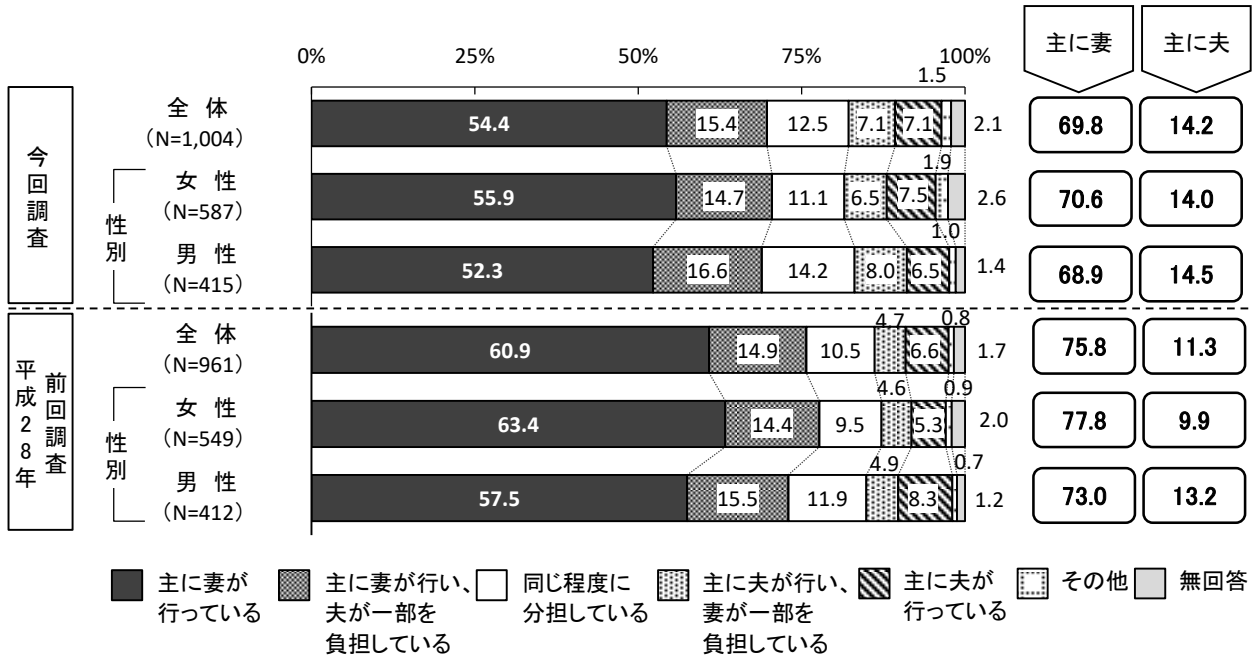
(%)

		標本数	主に妻が行って	主夫が一部を負担、主妻が一部を負担	同じ程度に分担	主妻が一部を負担、主夫が一部を負担	主に夫が行って	その他	無回答	『主に妻』	『主に夫』
全体		1,004 100.0	480 47.8	366 36.5	120 12.0	17 1.7	1 0.1	3 0.3	17 1.7	846 84.3	18 1.8
年代別	女性:10・20代	21	33.3	42.9	19.0	-	-	-	4.8	76.2	-
	女性:30代	81	27.2	48.1	19.8	-	-	1.2	3.7	75.3	-
	女性:40代	138	56.5	35.5	5.8	-	-	-	2.2	92.0	-
	女性:50代	115	60.0	32.2	3.5	1.7	-	0.9	1.7	92.2	1.7
	女性:60代	151	58.3	29.8	9.3	2.0	-	-	0.7	88.1	2.0
	女性:70歳以上	80	53.8	33.8	5.0	1.3	1.3	1.3	3.8	87.6	2.6
	男性:10・20代	11	9.1	9.1	72.7	9.1	-	-	-	18.2	9.1
	男性:30代	55	29.1	45.5	21.8	3.6	-	-	-	74.6	3.6
	男性:40代	61	39.3	34.4	23.0	3.3	-	-	-	73.7	3.3
	男性:50代	70	40.0	41.4	15.7	1.4	-	-	1.4	81.4	1.4
	男性:60代	129	44.2	43.4	8.5	2.3	-	-	1.6	87.6	2.3
男性:70歳以上	89	49.4	31.5	15.7	2.2	-	-	1.1	80.9	2.2	
無回答		3	100.0	-	-	-	-	-	-	100.0	-
配偶関係別	女性:配偶者・パートナーがいる(共働きである)	318	44.0	41.8	11.6	-	-	0.6	1.9	85.8	-
	女性:配偶者・パートナーがいる(共働きでない)	269	62.5	27.1	4.8	2.2	0.4	0.4	2.6	89.6	2.6
	男性:配偶者・パートナーがいる(共働きである)	203	29.1	41.4	24.6	3.4	-	-	1.5	70.5	3.4
	男性:配偶者・パートナーがいる(共働きでない)	212	52.4	35.8	9.4	1.9	-	-	0.5	88.2	1.9
	無回答		2	100.0	-	-	-	-	-	-	100.0

II 調査結果

③日々の家計を管理する

図表3-5 日々の家計を管理する [全体、性別] (前回調査比較)



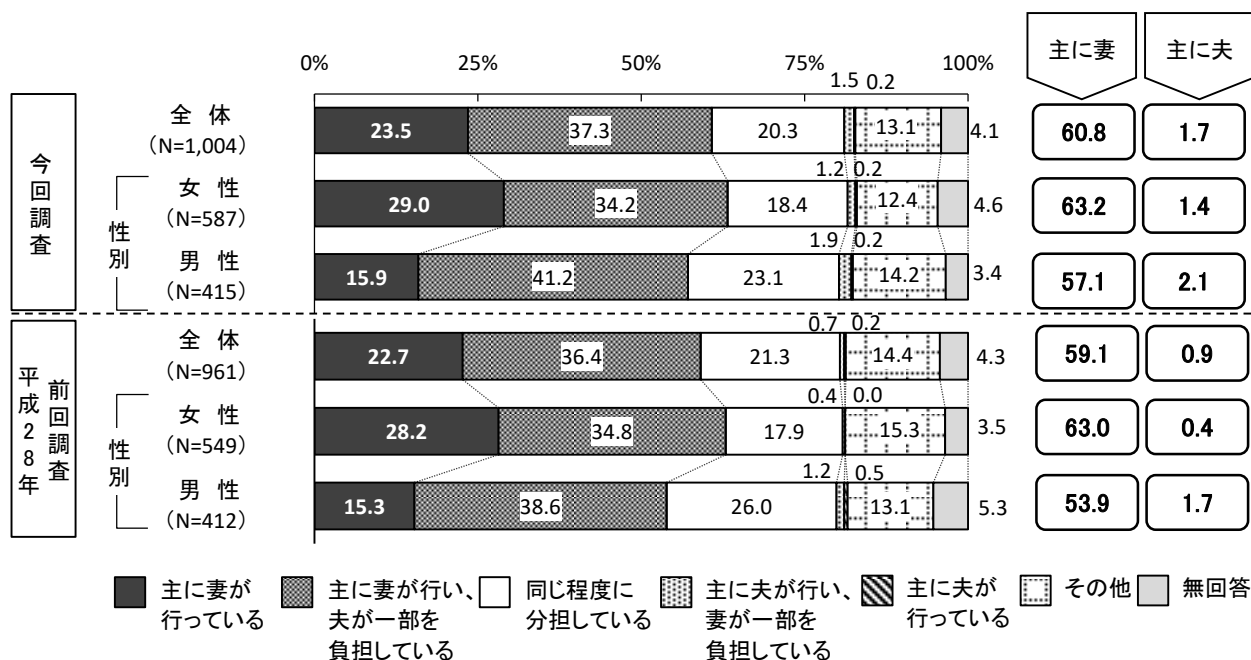
「日々の家計を管理する」のは『主に妻』が69.8%となっており、家事と同様に妻の担当となっている場合が多い。

性別でみると、「主に妻が行っている」(女性 55.9%、男性 52.3%)は女性の方が3.6ポイント男性より高く、「主に妻が行い、夫が一部を負担している」(同 14.7%、16.6%)と「同じ程度に分担している」(同 11.1%、14.2%)は男性の方がやや高いが、炊事、掃除、洗濯などの家事などに比べると男女の認識の差は小さい。

前回調査と比べると、男女とも「主に妻が行っている」の割合が約5~8ポイント減少し、「同じ程度に分担している」や「主に夫が行い、妻が一部を負担している」が若干増加していることから、夫が分担する程度が増加する傾向がみられる。

④ 育児・子どものしつけをする

図表3-6 育児・子どものしつけをする〔全体、性別〕（前回調査比較）



「育児・子どものしつけをする」の分担は、『主に妻』が60.8%、「同じ程度に分担している」が20.3%で、『主に夫』は1.7%とごくわずかである。

性別で見ると、女性は「主に妻が行っている」（女性29.0%、男性15.9%）が男性より13.1ポイント高く、男性は「主に妻が行い、夫が一部を負担している」（同34.2%、41.2%）が7ポイント、「同じ程度に分担している」（同18.4%、23.1%）も4.7ポイント女性より高いことから、男女の認識には隔たりがあり、男性は女性が思うより育児・しつけを分担して行っていると認識しているようである。

前回調査と比べても男女ともあまり大きな変化はみられない。

II 調査結果

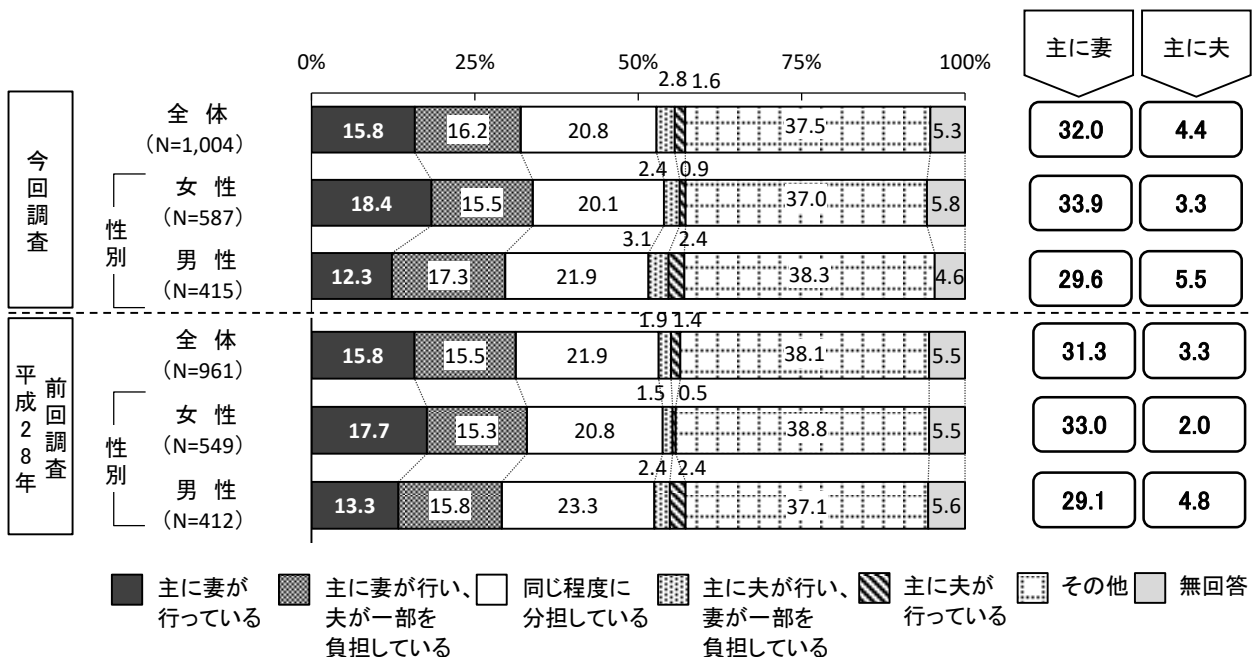
年代別でみると、男女とも「同じ程度に分担している」は30代で最も高く、40代でも2割台と、子どもに手がかかると思われる年代の2割から3割弱は同じ程度に分担して行っているようである。

図表3-7 育児・子どものしつけをする〔全体、年代別〕

		標本数	主に妻が行っている	主夫が一部を負担、主妻が一部を負担	同じ程度に分担している	主妻が一部を負担、主夫が一部を負担	主に夫が行っている	その他	無回答	主に妻	主に夫
全体		1,004 100.0	236 23.5	374 37.3	204 20.3	15 1.5	2 0.2	132 13.1	41 4.1	610 60.8	17 1.7
年代別	女性:10・20代	21	4.8	38.1	-	-	-	47.6	9.5	42.9	-
	女性:30代	81	16.0	35.8	22.2	-	-	21.0	4.9	51.8	-
	女性:40代	138	27.5	37.0	20.3	-	-	11.6	3.6	64.5	-
	女性:50代	115	33.0	37.4	19.1	3.5	-	4.3	2.6	70.4	3.5
	女性:60代	151	35.1	31.1	18.5	0.7	-	9.3	5.3	66.2	0.7
	女性:70歳以上	80	32.5	28.8	15.0	2.5	1.3	13.8	6.3	61.3	3.8
	男性:10・20代	11	-	18.2	9.1	-	-	72.7	-	18.2	-
	男性:30代	55	12.7	40.0	29.1	3.6	-	14.5	-	52.7	3.6
	男性:40代	61	18.0	42.6	24.6	1.6	-	13.1	-	60.6	1.6
	男性:50代	70	14.3	48.6	22.9	-	-	12.9	1.4	62.9	-
	男性:60代	129	16.3	43.4	25.6	-	-	10.9	3.9	59.7	-
	男性:70歳以上	89	19.1	34.8	16.9	5.6	1.1	13.5	9.0	53.9	6.7
無回答		3	33.3	66.7	-	-	-	-	-	100.0	-

⑤親の世話（介護）をする

図表3-8 親の世話（介護）をする〔全体、性別〕（前回調査比較）



「親の世話（介護）をする」については、『主に妻』が32.0%、「同じ程度に分担している」が20.8%となっており、夫よりも妻が多く担っている。「その他」が37.5%と高くなっているが、該当しない人や要介護者の配偶者やヘルパーが担っている場合などが含まれるものと考えられる。

性別でみると、「主に妻が行っている」（女性18.4%、男性12.3%）は女性の方が6.1ポイント男性より高く、「主に妻が行い、夫が一部を負担している」（同15.5%、17.3%）と「同じ程度に分担している」（同20.1%、21.9%）は男性の方が若干高いことから、親の世話（介護）についても男性は女性が思うより分担して行っていると認識しているようである。

前回調査と比べてもあまり大きな変化はみられない。

年代別でみると、男女とも50代以上で『主に妻』の割合が比較的高く、女性の60代と70歳以上では約5割を占めている。男女の40代では「同じ程度に分担している」が3割台と他の年代より高くなっている。

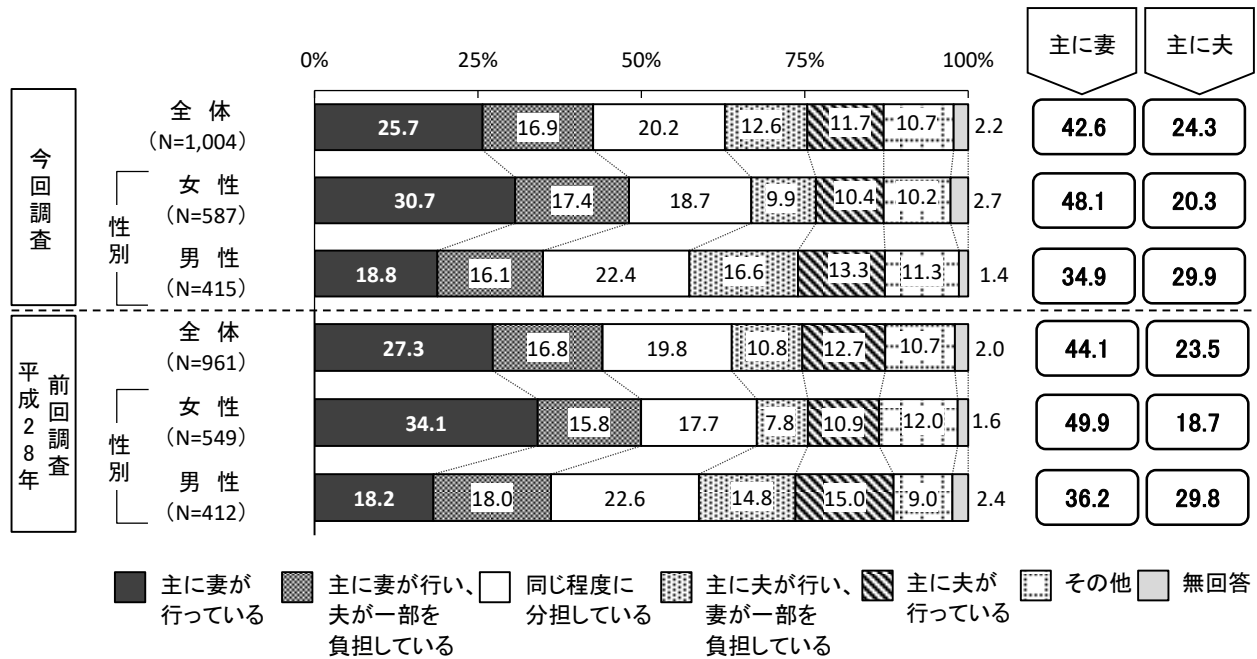
図表3-9 親の世話（介護）をする [全体、年代別]

		標本数	主に妻が行っている	主に妻が行い、夫が一部を負担している	同じ程度に分担している	主に妻が行い、夫が一部を負担している	主に妻が行っている	その他	無回答	『主に妻』	『主に夫』
全体		1,004 100.0	159 15.8	163 16.2	209 20.8	28 2.8	16 1.6	376 37.5	53 5.3	322 32.0	44 4.4
年代別	女性:10・20代	21	4.8	-	14.3	-	-	71.4	9.5	4.8	-
	女性:30代	81	3.7	7.4	21.0	-	-	61.7	6.2	11.1	-
	女性:40代	138	8.7	10.9	31.2	2.2	-	42.0	5.1	19.6	2.2
	女性:50代	115	22.6	15.7	20.9	5.2	3.5	28.7	3.5	38.3	8.7
	女性:60代	151	30.5	21.2	16.6	3.3	-	21.9	6.6	51.7	3.3
	女性:70歳以上	80	23.8	25.0	7.5	-	1.3	35.0	7.5	48.8	1.3
	男性:10・20代	11	9.1	-	-	-	-	90.9	-	9.1	-
	男性:30代	55	1.8	1.8	25.5	-	-	70.9	-	3.6	-
	男性:40代	61	6.6	9.8	32.8	1.6	1.6	47.5	-	16.4	3.2
	男性:50代	70	12.9	14.3	28.6	2.9	5.7	34.3	1.4	27.2	8.6
	男性:60代	129	14.0	26.4	20.2	6.2	2.3	25.6	5.4	40.4	8.5
男性:70歳以上	89	20.2	23.6	12.4	2.2	2.2	27.0	12.4	43.8	4.4	
無回答	3	33.3	-	-	-	33.3	33.3	-	-	33.3	66.6

II 調査結果

⑥自治会・町内会などの地域活動を行う

図表 3-10 自治会・町内会などの地域活動を行う [全体、性別] (前回調査比較)



「自治会・町内会などの地域活動を行う」のは『主に妻』が 42.6%、『主に夫』が 24.3%、「同じ程度に分担している」が 20.2%となっている。

性別でみると、『主に妻』が女性は 48.1%、男性は 34.9%と 13.2 ポイントの差があり、『主に夫』(女性 20.3%、29.9%)は男性の方が 9.6 ポイント高い。男女の認識の隔たりが大きい分野のひとつとなっている。

前回調査と比べてもあまり大きな変化はみられない。

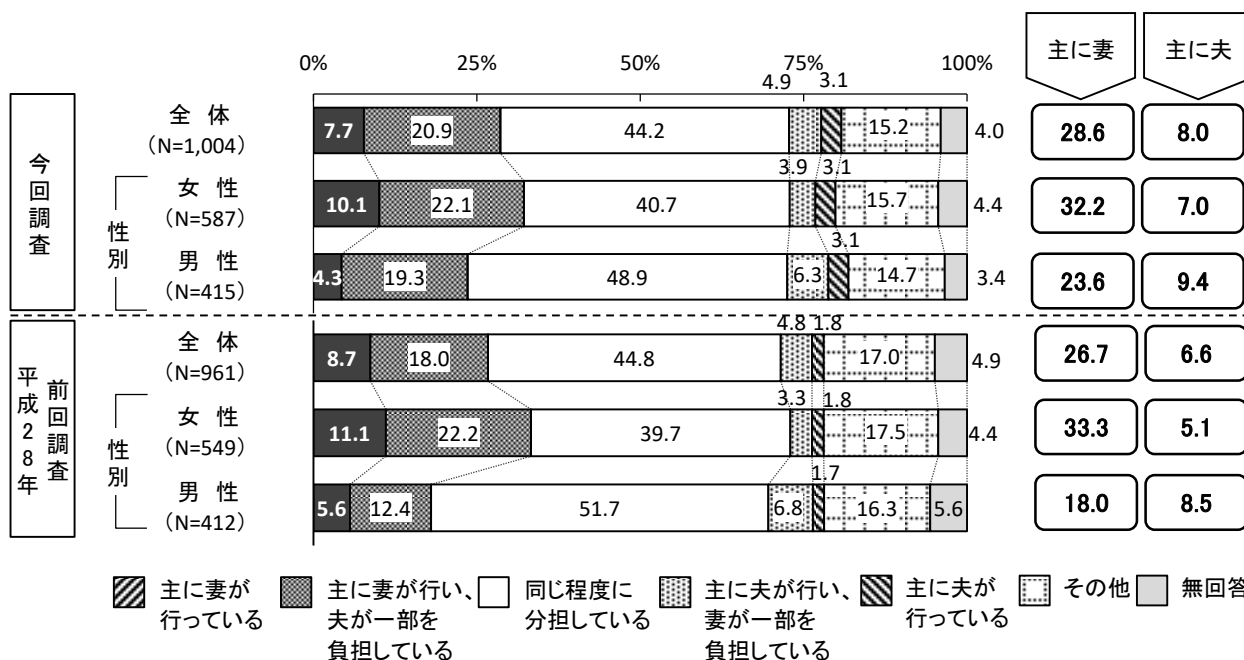
年代別でみると、女性では 40 代から 60 代で『主に妻』が 5 割台と高くなっており、男性では 50 代以上で『主に夫』が 3 割台と高くなっている。

図表 3-11 自治会・町内会などの地域活動を行う [全体、年代別]

		標本数	主に妻が行っている (%)	主に妻が行い、夫が一部を負担している (%)	同じ程度に分担している (%)	主に妻が行い、夫が一部を負担している (%)	主に夫が行っている (%)	その他 (%)	無回答 (%)	『主に妻』 (%)	『主に夫』 (%)	
全体		1,004	25.7	16.9	20.2	12.6	11.7	10.7	2.2	42.6	24.3	
年代別	女性:10・20代	21	9.5	4.8	14.3	4.8	4.8	52.4	9.5	14.3	9.6	
	女性:30代	81	14.8	14.8	23.5	4.9	8.6	28.4	4.9	29.6	13.5	
	女性:40代	138	38.4	20.3	17.4	8.0	5.8	7.2	2.9	58.7	13.8	
	女性:50代	115	35.7	19.1	15.7	10.4	10.4	7.0	1.7	54.8	20.8	
	女性:60代	151	33.1	17.2	23.2	9.3	11.9	4.0	1.3	50.3	21.2	
	女性:70歳以上	80	26.3	16.3	13.8	20.0	18.8	2.5	2.5	42.6	38.8	
	男性:10・20代	11	9.1	-	27.3	-	-	18.2	45.5	-	9.1	18.2
	男性:30代	55	12.7	7.3	34.5	12.7	-	32.7	-	-	20.0	12.7
	男性:40代	61	31.1	9.8	19.7	14.8	9.8	14.8	-	-	40.9	24.6
	男性:50代	70	14.3	17.1	20.0	18.6	20.0	8.6	1.4	-	31.4	38.6
	男性:60代	129	19.4	20.9	20.9	19.4	10.9	6.2	2.3	-	40.3	30.3
	男性:70歳以上	89	18.0	20.2	20.2	16.9	21.3	1.1	2.2	-	38.2	38.2
無回答		3	33.3	33.3	-	-	33.3	-	-	66.6	33.3	

⑦子どもの教育方針・進路目標を決める

図表3-12 子どもの教育方針・進路目標を決める〔全体、性別〕（前回調査比較）



「子どもの教育方針・進路目標を決める」は、「同じ程度に分担している」が44.2%と9つの分野のなかで2番目に高く、『主に妻』は28.6%、『主に夫』は8.0%となっている。

性別で見ると、「同じ程度に分担している」は女性が40.7%、男性が48.9%で男性の方が8.2ポイント高く、『主に妻』は女性が32.2%、男性が23.6%で女性の方が8.6ポイント高いことから、子どもの教育方針・進路目標の決定についても男性は女性が思うより分担して行っていると認識しているようである。

前回調査と比べると、女性は大きな変化がみられないが、男性は『主に妻』が5.6ポイント増加している。

II 調査結果

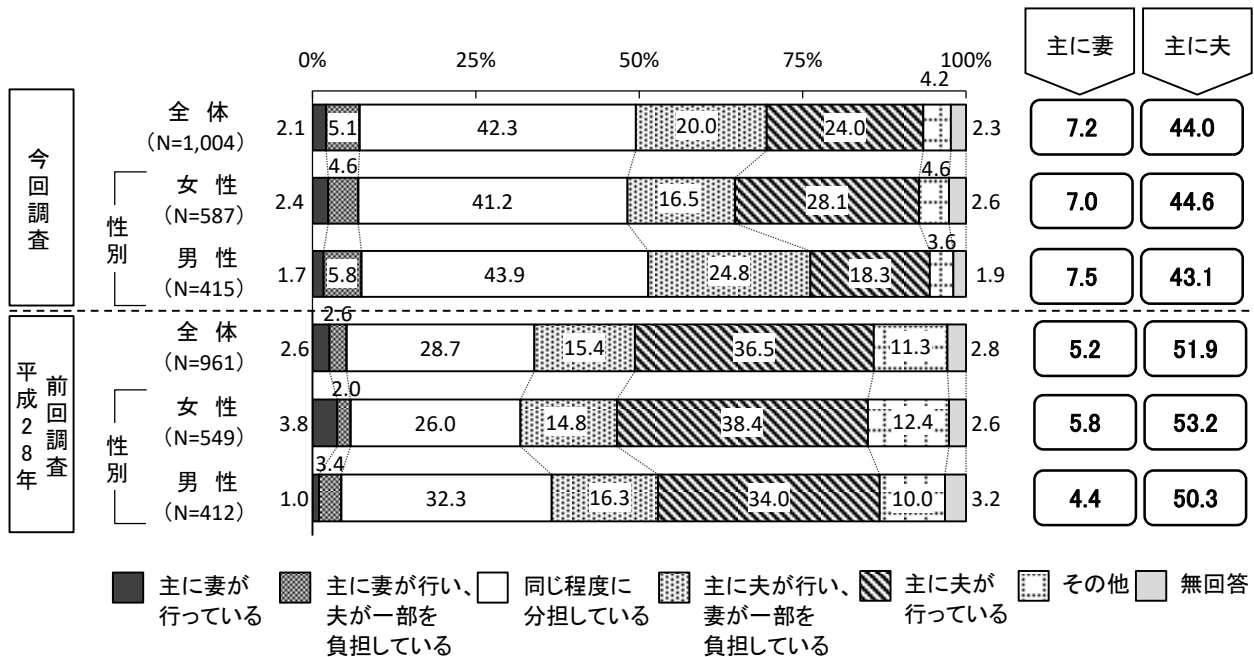
年代別でみると、男性では30代から60代で「同じ程度に分担している」が高くなっており、30代では6割、40代から60代では5割前後となっている。

図表3-13 子どもの教育方針・進路目標を決める [全体、年代別]

		標本数	主に妻が行っている	主夫が一部を負担、し	同じ程度に分担	主妻が一部を負担、し	主に夫が行っている	その他	無回答	『主に妻』	『主に夫』
全体		1,004	77	210	444	49	31	153	40	287	80
		100.0	7.7	20.9	44.2	4.9	3.1	15.2	4.0	28.6	8.0
年代別	女性:10・20代	21	4.8	9.5	23.8	-	-	52.4	9.5	14.3	-
	女性:30代	81	4.9	22.2	43.2	1.2	2.5	21.0	4.9	27.1	3.7
	女性:40代	138	10.9	29.0	40.6	2.9	1.4	11.6	3.6	39.9	4.3
	女性:50代	115	16.5	27.0	36.5	5.2	5.2	7.8	1.7	43.5	10.4
	女性:60代	151	7.9	21.2	43.7	4.0	2.6	15.9	4.6	29.1	6.6
	女性:70歳以上	80	8.8	8.8	43.8	7.5	5.0	18.8	7.5	17.6	12.5
	男性:10・20代	11	-	18.2	9.1	-	-	63.6	9.1	18.2	-
	男性:30代	55	7.3	12.7	60.0	3.6	1.8	14.5	-	20.0	5.4
	男性:40代	61	3.3	32.8	49.2	-	1.6	13.1	-	36.1	1.6
	男性:50代	70	7.1	24.3	50.0	4.3	1.4	11.4	1.4	31.4	5.7
	男性:60代	129	1.6	19.4	52.7	6.2	3.1	12.4	4.7	21.0	9.3
	男性:70歳以上	89	5.6	10.1	40.4	14.6	6.7	15.7	6.7	15.7	21.3
無回答		3	33.3	-	66.7	-	-	-	-	33.3	-

⑧土地・家屋などの高額商品を購入する

図表3-14 土地・家屋などの高額商品を購入する [全体、性別]



「土地・家屋などの高額商品を購入する」については、『主に夫』が 44.0%で「生活費を稼ぐ」に次いで高くなっている。「同じ程度に分担している」も 42.3%とほぼ同程度の割合になっている。

性別でみると、『主に夫』の割合は男女とも4割強と同程度であるが、内訳をみると女性は「主に夫が行っている」が 28.1%で「主に夫が行い、妻が一部を負担している」(16.5%) よりも高いが、男性は「主に夫が行い、妻が一部を負担している」が 24.8%で、「主に夫が行っている」(18.3%) よりも高いなど男女で異なっている。

前回調査と比べると、男女とも「同じ程度に分担している」が約 12~15 ポイントと大きく増加しており、『主に夫』と「その他」が減少している。

年代別でみると、男性では年代が高くなるほど『主に夫』の割合が高くなっているのが顕著である。女性も同様の傾向がみられるが、70歳以上は50代や60代よりも低くなっている。

性別役割分担意識別でみると、男女とも性別役割分担に強く同感しない場合に「同じ程度に分担している」の割合は高く、『主に夫』の割合が低くなっている。

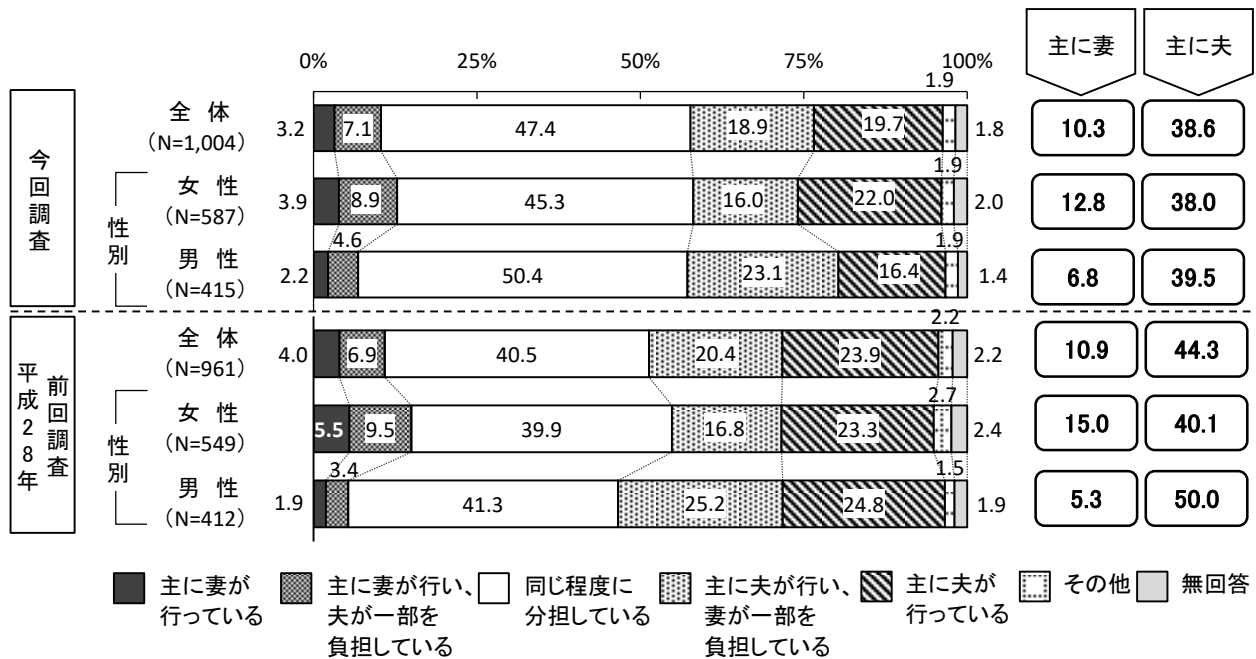
図表3-15 土地・家屋などの高額商品を購入する [全体、年代別、性別役割分担意識別]

		標本数	主に妻が行っている	主に夫が行い、妻が一部を負担している	同じ程度に分担している	主に夫が行い、妻が一部を負担している	主に夫が行っている	その他	無回答	『主に妻』	『主に夫』
全体		1,004 100.0	21 2.1	51 5.1	425 42.3	201 20.0	241 24.0	42 4.2	23 2.3	72 7.2	442 44.0
年代別	女性:10・20代	21	4.8	-	52.4	14.3	4.8	14.3	9.5	4.8	19.1
	女性:30代	81	4.9	4.9	46.9	16.0	18.5	4.9	3.7	9.8	34.5
	女性:40代	138	1.4	5.8	43.5	16.7	23.9	6.5	2.2	7.2	40.6
	女性:50代	115	-	5.2	36.5	18.3	32.2	5.2	2.6	5.2	50.5
	女性:60代	151	2.6	4.6	35.1	16.6	37.7	2.6	0.7	7.2	54.3
	女性:70歳以上	80	3.8	2.5	47.5	15.0	26.3	1.3	3.8	6.3	41.3
	男性:10・20代	11	-	-	45.5	18.2	-	27.3	9.1	-	18.2
	男性:30代	55	1.8	7.3	49.1	18.2	18.2	5.5	-	9.1	36.4
	男性:40代	61	-	13.1	45.9	14.8	23.0	3.3	-	13.1	37.8
	男性:50代	70	-	5.7	51.4	30.0	10.0	1.4	1.4	5.7	40.0
	男性:60代	129	2.3	2.3	46.5	31.0	11.6	3.9	2.3	4.6	42.6
男性:70歳以上	89	3.4	5.6	29.2	23.6	33.7	1.1	3.4	9.0	57.3	
無回答	3	-	-	33.3	33.3	33.3	-	-	-	-	66.6
性別役割分担意識別	女性:同感する	13	15.4	15.4	23.1	15.4	30.8	-	-	30.8	46.2
	女性:ある程度同感する	138	0.7	4.3	40.6	16.7	33.3	2.9	1.4	5.0	50.0
	女性:あまり同感しない	189	1.1	4.8	35.4	22.2	28.6	6.3	1.6	5.9	50.8
	女性:同感しない	238	3.4	4.2	47.9	12.6	24.8	4.6	2.5	7.6	37.4
	男性:同感する	19	10.5	5.3	31.6	31.6	15.8	-	5.3	15.8	47.4
	男性:ある程度同感する	125	1.6	4.0	39.2	30.4	21.6	1.6	1.6	5.6	52.0
	男性:あまり同感しない	124	-	8.1	47.6	22.6	14.5	7.3	-	8.1	37.1
	男性:同感しない	139	2.2	5.8	47.5	21.6	18.7	2.9	1.4	8.0	40.3
無回答	19	5.3	-	26.3	10.5	21.1	-	36.8	5.3	31.6	

II 調査結果

⑨家庭の問題における最終的な決定をしている

図表 3-16 家庭の問題における最終的な決定をしている [全体、性別] (前回調査比較)



「家庭の問題における最終的な決定をしている」は、「同じ程度に分担している」が47.4%と5割近くを占めており、9つの分野のなかで最も高くなっている。一方で、『主に夫』は38.6%で『主に妻』の10.3%よりも28.3ポイントと大幅に高いことから、男性の役割となっている傾向もうかがわれる。

性別で見ると、「同じ程度に分担している」(女性 45.3%、男性 50.4%)は男性の方が5.1ポイント女性よりも高くなっているが、その他は大差ない結果となっている。

前回調査と比べると、男性では『主に夫』が10.5ポイント減少し、「同じ程度に分担している」が9.1ポイント増加している。女性も、男性ほど大きな変化ではないが同様の傾向がみられる。

年代別でみると、男女とも『主に夫』は年代が高い層で割合が高くなる傾向が顕著である。

性別役割分担意識別でみると、男女とも性別役割分担に同感しない人ほど「同じ程度に分担している」割合が高くなっている。

図表3-17 家庭の問題における最終的な決定をしている
[全体、年代別、性別役割分担意識別]

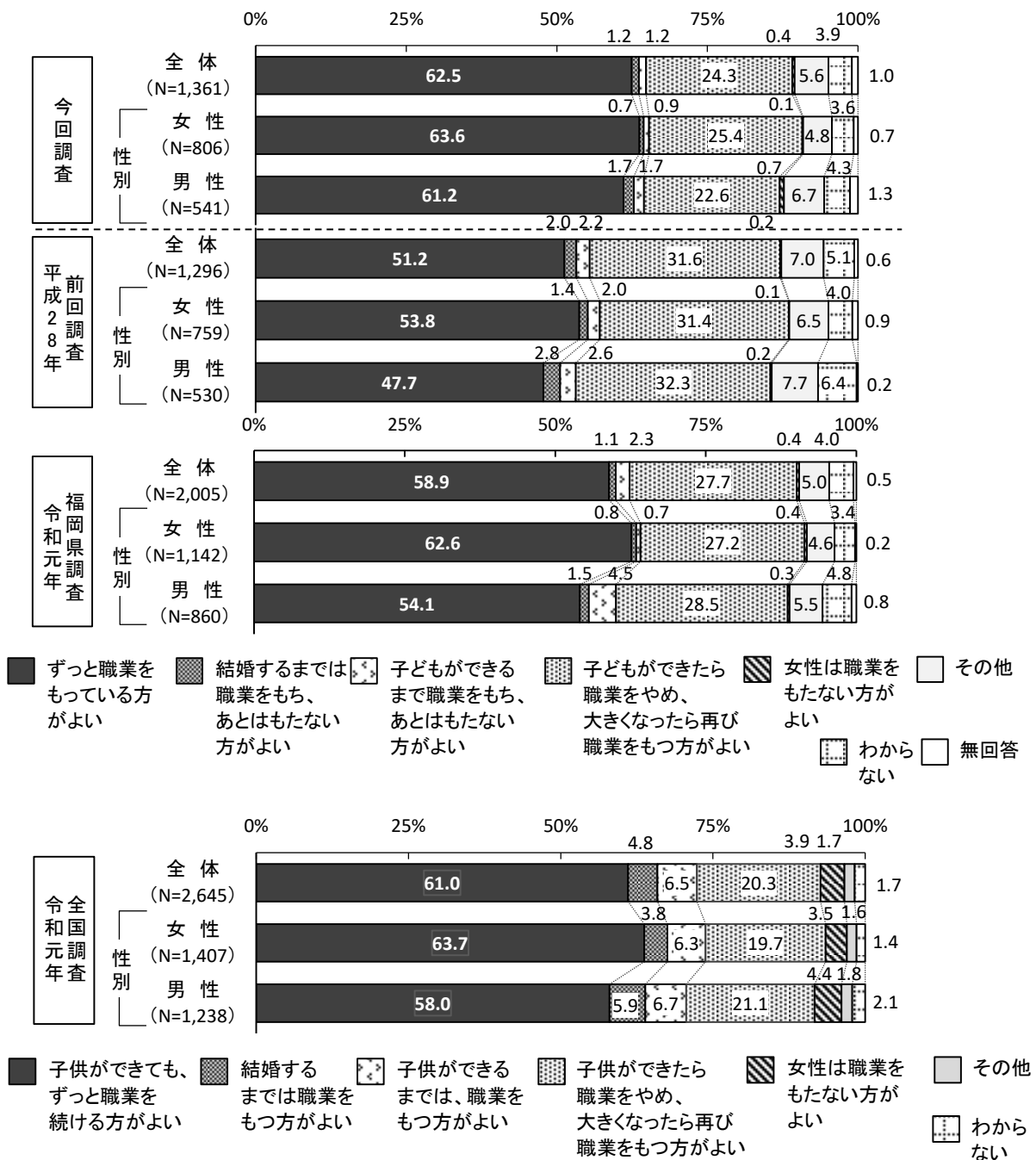
		標本数	主に妻が行って	主夫に妻が一部を負担、	同じ程度に分担	主妻に夫が一部を負担、	主に夫が行って	その他	無回答	『主に妻』	『主に夫』
全体		1,004 100.0	32 3.2	71 7.1	476 47.4	190 18.9	198 19.7	19 1.9	18 1.8	103 10.3	388 38.6
年代別	女性:10・20代	21	4.8	14.3	57.1	9.5	9.5	-	4.8	19.1	19.0
	女性:30代	81	1.2	8.6	59.3	13.6	11.1	2.5	3.7	9.8	24.7
	女性:40代	138	4.3	12.3	50.0	11.6	18.1	1.4	2.2	16.6	29.7
	女性:50代	115	5.2	11.3	36.5	23.5	20.0	1.7	1.7	16.5	43.5
	女性:60代	151	4.0	5.3	43.0	15.9	29.8	1.3	0.7	9.3	45.7
	女性:70歳以上	80	2.5	5.0	37.5	17.5	31.3	3.8	2.5	7.5	48.8
	男性:10・20代	11	-	18.2	54.5	9.1	9.1	9.1	-	18.2	18.2
	男性:30代	55	5.5	5.5	54.5	20.0	12.7	1.8	-	11.0	32.7
	男性:40代	61	3.3	6.6	54.1	16.4	14.8	4.9	-	9.9	31.2
	男性:50代	70	1.4	4.3	54.3	25.7	11.4	1.4	1.4	5.7	37.1
	男性:60代	129	2.3	2.3	51.2	27.1	13.2	1.6	2.3	4.6	40.3
	男性:70歳以上	89	-	4.5	40.4	23.6	29.2	-	2.2	4.5	52.8
	無回答	3	33.3	-	33.3	-	33.3	-	-	33.3	33.3
性別役割分担意識別	女性:同感する	13	7.7	15.4	38.5	7.7	30.8	-	-	23.1	38.5
	女性:ある程度同感する	138	1.4	7.2	41.3	18.1	30.4	0.7	0.7	8.6	48.5
	女性:あまり同感しない	189	3.7	7.9	46.0	18.0	20.6	2.1	1.6	11.6	38.6
	女性:同感しない	238	4.6	10.5	48.3	14.3	18.1	2.5	1.7	15.1	32.4
	男性:同感する	19	5.3	10.5	21.1	31.6	26.3	-	5.3	15.8	57.9
	男性:ある程度同感する	125	3.2	3.2	46.4	21.6	24.8	-	0.8	6.4	46.4
	男性:あまり同感しない	124	1.6	5.6	52.4	26.6	8.9	4.8	-	7.2	35.5
	男性:同感しない	139	1.4	4.3	56.8	21.6	12.9	1.4	1.4	5.7	34.5
無回答	19	10.5	-	31.6	-	26.3	-	31.6	10.5	26.3	

第4章 仕事について

1. 女性が職業をもつことについての考え方

問6. 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどのようにお考えですか。あてはまるものを1つ選び番号に○印をつけてください。

図表4-1 女性が職業をもつことについての考え方 [全体、性別]
(前回・福岡県・全国調査比較)



女性が職業をもつことについての考え方をたずねたところ、「ずっと職業をもっている方がよい」という就労継続が62.5%で最も高く、次いで「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」という、いわゆるM字型就労が24.3%となっている。「結婚するまでは職業をもち、あとはもたない方がよい」(1.2%)や「子どもができるまで職業をもち、あとはもたない方がよい」(1.2%)など、その他の就労形態についてはいずれも低い割合となっている。

性別で見ると、「ずっと職業をもっている方がよい」(女性63.6%、男性61.2%)と「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」(同25.4%、22.6%)はいずれも女性の方が若干高い割合となっているが、全体的に大差はみられない。

前回調査と比べると、男女とも「ずっと職業をもっている方がよい」の割合が10~14ポイント増加しており、就労継続を肯定する人が増えている。

福岡県調査と比べると、男性の「ずっと職業をもっている方がよい」は、今回調査の方が7.1ポイント高くなっている。

全国調査と比べると、選択肢の文言が異なる点に留意が必要であるが、男女ともに「子どもができるまで職業をもち、あとはもたない方がよい」は今回調査の方が割合は低く、「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」は今回調査の方が高くなっている。

II 調査結果

配偶関係別でみると、「ずっと職業をもっている方がよい」の割合は、配偶者・パートナーがいる共働きの場合には男女ともに7割前後と高く、また、配偶者・パートナーがいる共働きでない場合も5割台と半数を超えている。就労継続を理想と考えているが、何らかの事情で就労していない女性が少なくないことがうかがえる。

性別役割分担意識別でみると、男女とも性別役割分担に同感しない場合に「ずっと職業をもっている方がよい」の割合が高い傾向がみられ、特に強く同感しない人では男女ともに7割を超えている。男性で性別役割分担に強く賛成の場合には、「子どもができるまで職業をもち、あとはもたない方がよい」が16.7%とやや高くなっている。

図表4-2 女性が職業をもつことについての考え方〔全体、配偶関係別、性別役割分担意識別〕

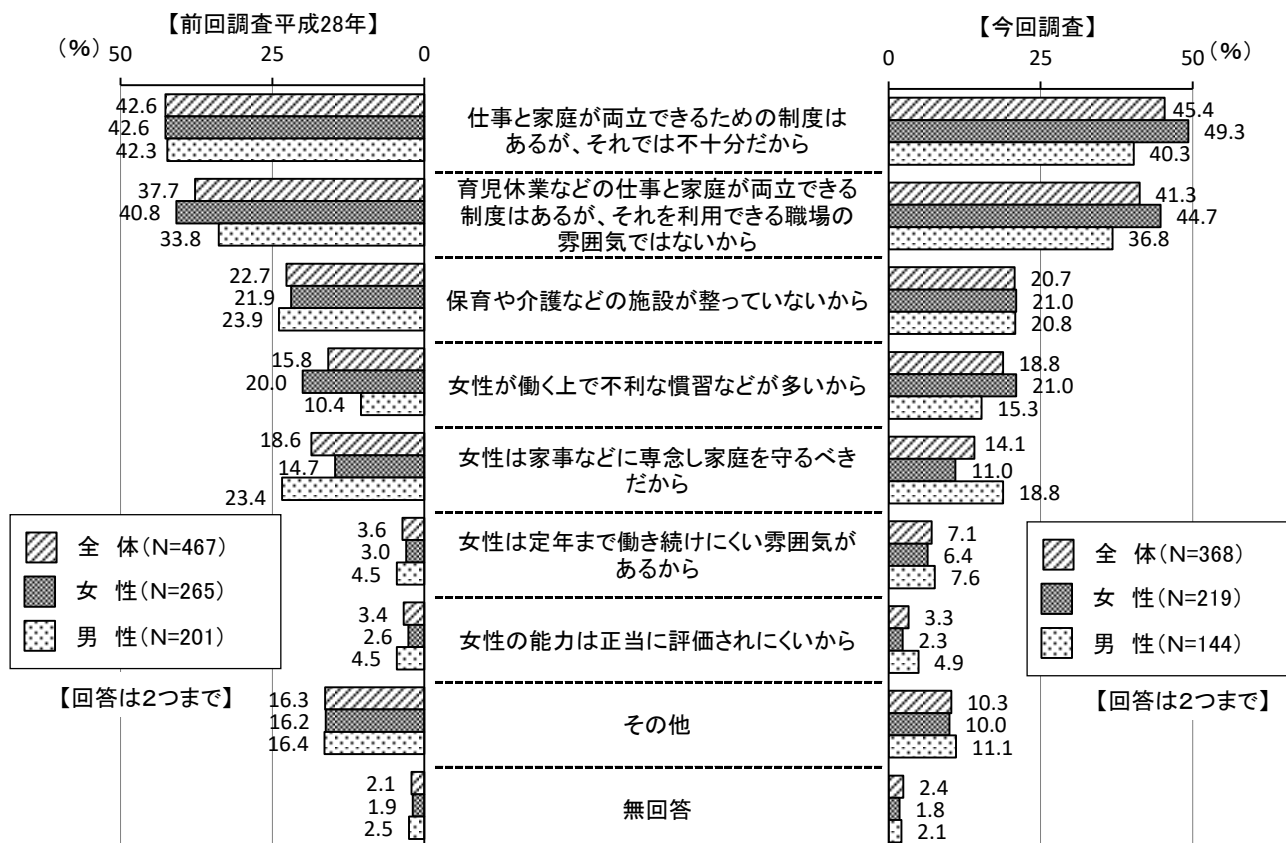
		標本数	(%)								
			ずっと職業をもっている	よち、結い、婚あすとはもたない方がよい	子どもがよち、あすとはもたない	子どもがよち、あすとはもたない	子どもがよち、あすとはもたない	子どもがよち、あすとはもたない	子どもがよち、あすとはもたない	子どもがよち、あすとはもたない	子どもがよち、あすとはもたない
全体		1,361 100.0	851 62.5	16 1.2	16 1.2	331 24.3	5 0.4	76 5.6	53 3.9	13 1.0	
配偶関係別	女性:配偶者・パートナーがいる(共働きである)	318	73.9	0.3	0.3	19.2	-	4.4	1.6	0.3	
	女性:配偶者・パートナーがいる(共働きでない)	269	52.8	1.1	1.5	34.9	0.4	4.1	4.5	0.7	
	女性:配偶者はいない(離別)	45	64.4	-	2.2	24.4	-	4.4	4.4	-	
	女性:配偶者はいない(死別)	40	62.5	-	-	25.0	-	5.0	5.0	2.5	
	女性:結婚していない	128	61.7	1.6	-	21.9	-	7.8	5.5	1.6	
	男性:配偶者・パートナーがいる(共働きである)	203	69.5	-	1.0	17.7	1.0	8.4	2.0	0.5	
	男性:配偶者・パートナーがいる(共働きでない)	212	54.2	2.8	1.9	28.8	0.9	6.1	3.3	1.9	
	男性:配偶者はいない(離別)	26	65.4	7.7	-	23.1	-	-	3.8	-	
	男性:配偶者はいない(死別)	10	60.0	-	10.0	20.0	-	-	10.0	-	
	男性:結婚していない	88	59.1	1.1	2.3	19.3	-	5.7	10.2	2.3	
	無回答	22	45.5	4.5	4.5	22.7	-	9.1	13.6	-	
性別役割分担意識別	女性:同感する	20	55.0	-	-	30.0	-	10.0	-	5.0	
	女性:ある程度同感する	195	42.1	1.5	2.6	44.1	-	2.6	5.6	1.5	
	女性:あまり同感しない	250	67.6	0.4	0.4	24.4	0.4	3.6	3.2	-	
	女性:同感しない	326	74.5	0.6	0.3	14.1	-	6.7	3.1	0.6	
	男性:同感する	24	58.3	4.2	16.7	12.5	8.3	-	-	-	
	男性:ある程度同感する	160	44.4	4.4	1.9	34.4	0.6	6.3	5.0	3.1	
	男性:あまり同感しない	160	61.9	0.6	0.6	24.4	-	6.3	5.6	0.6	
	男性:同感しない	184	76.1	-	0.5	12.5	-	8.2	2.2	0.5	
	無回答	42	52.4	2.4	-	28.6	2.4	7.1	7.1	-	

2. 女性が職業を続けない方がよいと思う理由

付問6-1【問6で、「2」～「5」のいずれかに○印をつけられた方は下の質問にお答えください。】

あなたがそう思われる理由は何ですか。あなたのお考えに近いものを2つまで選び数字に○印をつけてください。

図表4-3 女性が職業を続けない方がよいと思う理由〔全体、性別〕（前回調査比較）



女性が職業を続けない方がよいと考える人にその理由をたずねたところ、「仕事と家庭が両立できるための制度はあるが、それでは不十分だから」が45.4%で最も高く、次いで「育児休業などの仕事と家庭が両立できる制度はあるが、それを利用できる職場の雰囲気ではないから」が41.3%、「保育や介護などの施設が整っていないから」が20.7%、「女性が働く上で不利な慣習などが多いから」が18.8%となっている。

性別で見ると、上位4位はいずれも女性の方が割合は高くなっており、「仕事と家庭が両立できるための制度はあるが、それでは不十分だから」（女性49.3%、男性40.3%）は9ポイント、「育児休業などの仕事と家庭が両立できる制度はあるが、それを利用できる職場の雰囲気ではないから」（同44.7%、36.8%）は7.9ポイント男女の差がある。一方、男性の割合が高いのは「女性は家事などに専念し家庭を守るべきだから」（女性11.0%、男性18.8%）で女性を7.8ポイント上回っている。

前回調査と比べると、女性は「仕事と家庭が両立できるための制度はあるが、それでは不十分だから」が6.7ポイント、「育児休業などの仕事と家庭が両立できる制度はあるが、それを利用できる職場の雰囲気ではないから」が3.9ポイント増加し、「女性は家事などに専念し家庭を守るべきだから」は男女とも約4～5ポイント減少している。

II 調査結果

年代別でみると、「仕事と家庭が両立できるための制度はあるが、それでは不十分だから」は女性の10・20代と40代、50代、男性の40代以下で5割以上と高くなっている。

「育児休業などの仕事と家庭が両立できる制度はあるが、それを利用できる職場の雰囲気ではないから」は女性の40代と男性の30代以下で約5割と高い。「女性は家事などに専念し家庭を守るべきだから」は男性の50代で31.3%と他の年代よりも高くなっている。

性別役割分担意識別でみると、男女とも性別役割分担に強く同感する人は「女性は家事などに専念し家庭を守るべきだから」の割合が4割から5割と高くなっている。

図表5-4 女性が職業を続けない方がよいと思う理由〔全体、年代別、性別役割分担意識別〕

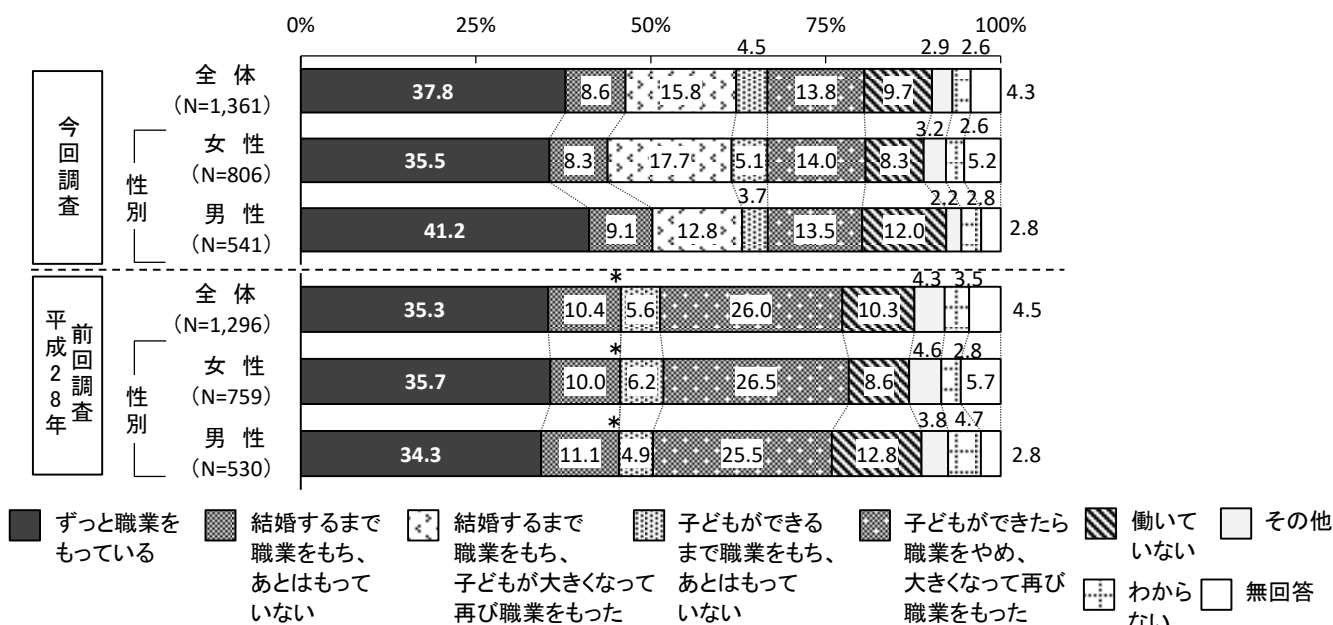
(%)

		標本数	庭女性を守るべきだから専念し家	く女性い雰囲気があるから続けに	れ女性にの能力は正当に評価さ	な女性が多働いから不利な慣習	れを立用できる職場の雰囲気	は不十分だから	め事と家庭が両立できるた	整保つていないから施設が	その他	無回答
全体		368 100.0	52 14.1	26 7.1	12 3.3	69 18.8	152 41.3	167 45.4	76 20.7	38 10.3	9 2.4	
年代別	女性:10・20代	23	4.3	4.3	4.3	26.1	39.1	56.5	21.7	8.7	4.3	
	女性:30代	20	-	-	-	20.0	40.0	40.0	25.0	40.0	-	
	女性:40代	35	5.7	2.9	2.9	31.4	48.6	57.1	17.1	8.6	-	
	女性:50代	34	5.9	5.9	2.9	17.6	44.1	52.9	29.4	11.8	-	
	女性:60代	63	19.0	12.7	1.6	23.8	46.0	44.4	22.2	3.2	1.6	
	女性:70歳以上	44	15.9	4.5	2.3	9.1	45.5	47.7	13.6	6.8	4.5	
	男性:10・20代	8	-	12.5	-	12.5	50.0	100.0	12.5	-	-	
	男性:30代	8	-	-	12.5	12.5	50.0	50.0	12.5	12.5	-	
	男性:40代	23	21.7	-	4.3	8.7	39.1	56.5	21.7	13.0	-	
	男性:50代	16	31.3	6.3	6.3	6.3	18.8	12.5	25.0	25.0	-	
男性:60代	45	17.8	17.8	-	17.8	35.6	40.0	17.8	11.1	2.2		
男性:70歳以上	44	20.5	2.3	9.1	20.5	38.6	29.5	25.0	6.8	4.5		
無回答		5	20.0	20.0	-	20.0	20.0	20.0	-	-	40.0	
性別役割分担意識別	女性:同感する	6	50.0	-	-	16.7	33.3	33.3	33.3	-	-	
	女性:ある程度同感する	94	14.9	9.6	3.2	19.1	45.7	45.7	13.8	10.6	1.1	
	女性:あまり同感しない	64	4.7	7.8	1.6	23.4	39.1	50.0	21.9	14.1	4.7	
	女性:同感しない	49	6.1	-	2.0	18.4	53.1	55.1	32.7	6.1	-	
	男性:同感する	10	40.0	-	-	20.0	40.0	40.0	10.0	20.0	-	
	男性:ある程度同感する	66	25.8	3.0	6.1	15.2	30.3	34.8	21.2	9.1	4.5	
	男性:あまり同感しない	41	9.8	12.2	4.9	12.2	41.5	46.3	17.1	14.6	-	
	男性:同感しない	24	4.2	12.5	4.2	20.8	50.0	41.7	33.3	4.2	-	
無回答		14	21.4	14.3	-	28.6	21.4	50.0	7.1	7.1	14.3	

3. 女性の実際の働き方

問7. では、あなた（男性の場合は、配偶者・パートナー）の今の働き方は次のどれにあてはまりますか。あてはまるものを1つ選び番号に○印をつけてください。【独身の方も、結婚した場合を想定してお答えください。】

図表4-5 女性の実際の働き方〔全体、性別〕（前回調査比較）



* 前回調査ではなかった項目

女性の実際の働き方については「ずっと職業をもっている」が37.8%と最も高く、次いで「結婚するまで職業をもち、子どもが大きくなって再び職業をもった」が15.8%、「子どもができた職業をやめ、大きくなって再び職業をもった」が13.8%、「働いていない」が9.7%、「結婚するまで職業をもち、あとはもっていない」が8.6%となっている。

性別で見ると、「ずっと職業をもっている」（女性35.5%、男性41.2%）は男性の方が5.7ポイント女性よりも高く、「働いていない」（同8.3%、12.0%）も男性の方が3.7ポイント高くなっている。「結婚するまで職業をもち、子どもが大きくなって再び職業をもった」（同17.7%、12.8%）は女性の方が4.9ポイント高い。

前回調査と比べると、今回調査で選択肢が増えている点に留意が必要であるが、男性の「ずっと職業をもっている」が6.9ポイント増加している。

Ⅱ 調査結果

年代別でみると、男女とも 40 代以下で「ずっと職業をもっている」が 4 割台半ばから 6 割強と高い。また、女性の 50 代と 60 代では「結婚するまで職業をもち、子どもが大きくなって再び職業をもった」が約 3 割と比較的高くなっている。

配偶関係別でみると、配偶者・パートナーがいる共働きの場合の「ずっと職業をもっている」は女性が 47.8%、男性が 62.1%となっており、共働き家庭の女性のおよそ半数程度はキャリアの中断を経験していることがうかがえる。結婚していない人に結婚した場合を想定して答えてもらった結果では、「ずっと職業をもっている」が女性は 57.8%、男性は 51.1%となっており、未婚の男女の約 4 割から 5 割は結婚後に自分（あるいは配偶者）がキャリアを中断することになると考えていることになる。

性別役割分担意識別でみると、男性では性別役割分担に同感しない人ほど「ずっと職業をもっている」の割合が高くなる傾向が顕著にみられるが、女性では明確な関連性はみられない。

図表4-6 女性の実際の働き方〔全体、年代別、配偶関係別、性別役割分担意識別〕

(%)

		標本数	ずっと職業をもっている	結婚するまで職業をもち、あとはもっていない	結婚するまで職業をもち、子どもが大きくなつて再び職業をもちた	結婚するまで職業をもち、子どもが大きくなつて再び職業をもち、あとはもっていない	子どもができたなら職業をやり、大きくなつて再び職業をもちた	働いていない	その他	わからない	無回答
全体		1,361 100.0	515 37.8	117 8.6	215 15.8	61 4.5	188 13.8	132 9.7	39 2.9	36 2.6	58 4.3
年代別	女性:10・20代	81	49.4	2.5	4.9	3.7	13.6	8.6	2.5	8.6	6.2
	女性:30代	111	55.0	8.1	2.7	9.9	11.7	1.8	2.7	3.6	4.5
	女性:40代	164	45.7	4.9	10.4	10.4	19.5	3.7	3.7	1.2	0.6
	女性:50代	151	31.8	5.3	29.1	4.0	16.6	5.3	5.3	1.3	1.3
	女性:60代	181	22.7	12.2	29.3	1.1	10.5	13.8	2.8	1.7	6.1
	女性:70歳以上	116	17.2	14.7	19.0	1.7	11.2	16.4	1.7	2.6	15.5
	男性:10・20代	48	50.0	-	6.3	2.1	16.7	8.3	2.1	8.3	6.3
	男性:30代	74	62.2	8.1	4.1	5.4	10.8	4.1	1.4	4.1	-
	男性:40代	81	51.9	8.6	9.9	3.7	12.3	7.4	3.7	2.5	-
	男性:50代	90	43.3	10.0	21.1	2.2	11.1	4.4	1.1	2.2	4.4
男性:60代	139	30.9	10.1	13.7	5.0	15.1	17.3	3.6	2.2	2.2	
男性:70歳以上	108	26.9	12.0	15.7	2.8	14.8	22.2	0.9	0.9	3.7	
	無回答	17	41.2	11.8	17.6	-	11.8	-	5.9	-	11.8
配偶関係別	女性:配偶者・パートナーがいる(共働きである)	318	47.8	0.6	22.0	1.6	21.1	1.3	4.1	-	1.6
	女性:配偶者・パートナーがいる(共働きでない)	269	8.9	21.2	20.1	11.9	9.3	18.6	3.3	1.9	4.8
	女性:配偶者はいない(離別)	45	51.1	2.2	11.1	4.4	8.9	4.4	-	6.7	11.1
	女性:配偶者はいない(死別)	40	27.5	12.5	15.0	2.5	5.0	10.0	2.5	2.5	22.5
	女性:結婚していない	128	57.8	1.6	5.5	0.8	10.9	4.7	2.3	9.4	7.0
	男性:配偶者・パートナーがいる(共働きである)	203	62.1	0.5	15.8	0.5	16.7	1.0	2.5	-	1.0
	男性:配偶者・パートナーがいる(共働きでない)	212	18.4	21.7	11.8	8.5	12.7	22.2	2.4	0.9	1.4
	男性:配偶者はいない(離別)	26	38.5	3.8	11.5	-	7.7	19.2	-	7.7	11.5
男性:配偶者はいない(死別)	10	30.0	10.0	10.0	-	-	30.0	-	10.0	10.0	
男性:結婚していない	88	51.1	-	9.1	1.1	11.4	9.1	2.3	10.2	5.7	
	無回答	22	36.4	4.5	18.2	-	13.6	4.5	4.5	4.5	13.6
性別役割分担意識別	女性:同感する	20	40.0	10.0	10.0	5.0	10.0	15.0	-	-	10.0
	女性:ある程度同感する	195	26.2	12.3	17.4	7.2	15.9	7.2	4.1	2.1	7.7
	女性:あまり同感しない	250	31.6	10.8	16.8	5.2	15.6	11.2	3.2	2.4	3.2
	女性:同感しない	326	44.5	4.3	18.7	4.0	12.0	6.1	3.1	2.8	4.6
	男性:同感する	24	8.3	20.8	8.3	4.2	8.3	25.0	8.3	8.3	8.3
	男性:ある程度同感する	160	35.0	12.5	11.9	4.4	17.5	12.5	0.6	3.8	1.9
	男性:あまり同感しない	160	38.1	8.8	14.4	2.5	16.3	11.3	3.8	1.9	3.1
男性:同感しない	184	54.3	4.9	13.6	4.3	7.6	9.8	1.6	1.1	2.7	
	無回答	42	31.0	4.8	16.7	-	16.7	11.9	2.4	9.5	7.1

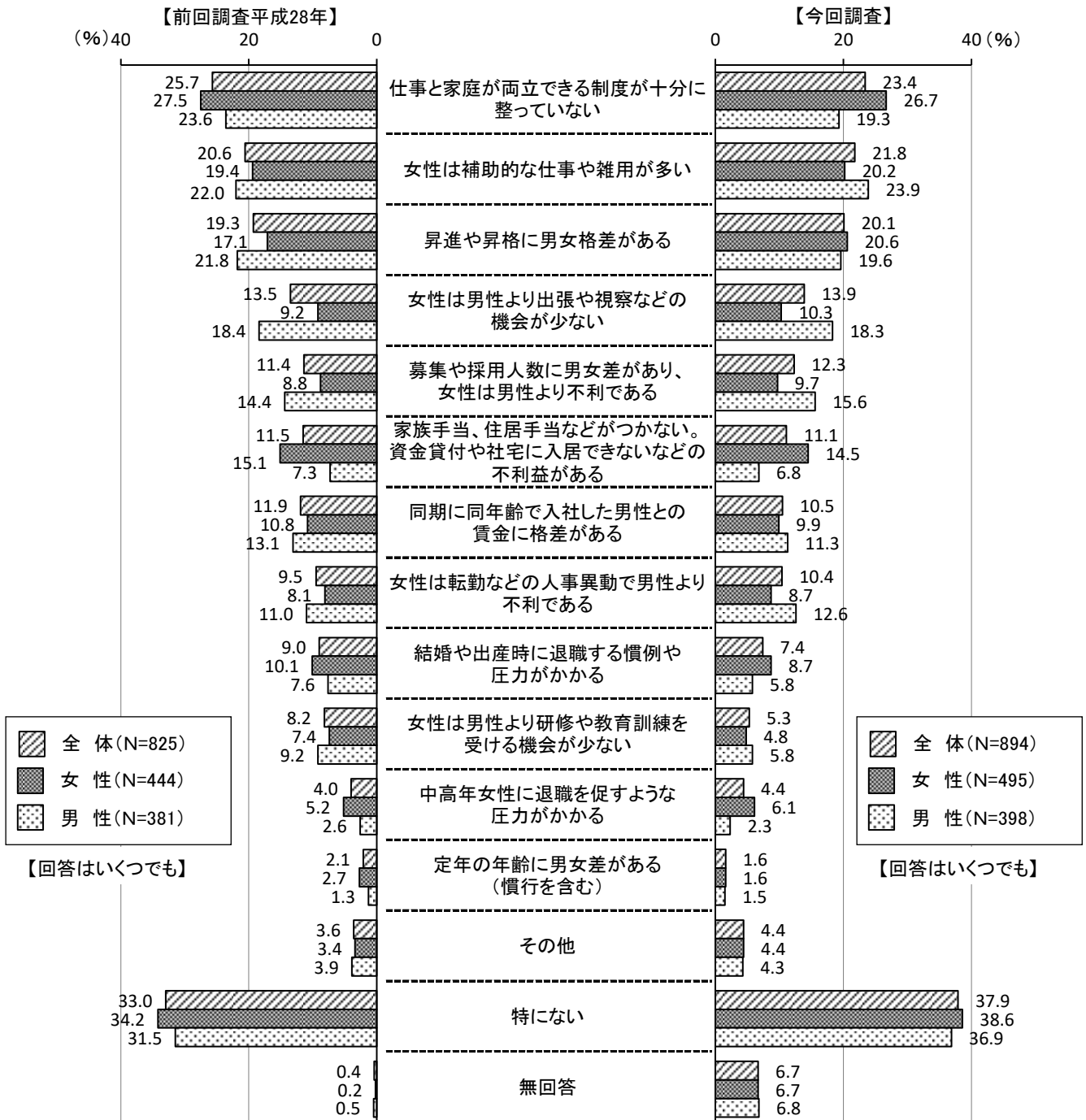
II 調査結果

4. 職場の環境

【現在職業を持っている方におたずねします。】

問8. 現在あなたの職場の女性の中に、下記のことからあてはまる方がいますか。あてはまるものをいくつでも選び数字に○印をつけてください。

図表4-7 職場の環境 [全体、性別] (前回調査比較)



現在職業をもっている人に、職場の女性が置かれている環境についてたずねたところ、「特にない」は37.9%となっており、約6割の人が職場の女性に何らかの困難や不平等があると感じていることになる。最も高い割合となっているのは「仕事と家庭が両立できる制度が十分に整っていない」で23.4%、次いで「女性は補助的な仕事や雑用が多い」が21.8%、「昇進や昇格に男女格差がある」が20.1%となっている。

性別でみると、女性の割合が男性を大きく上回っているのは「仕事と家庭が両立できる制度が十分に整っていない」（女性26.7%、男性19.3%）と「家族手当、住居手当などがつかない。賃金貸付や社宅に入居できないなどの不利益がある」（同14.5%、6.8%）で約7～8ポイントの差がある。一方、男性の割合が女性を上回っているのは「女性は男性より出張や視察などの機会が少ない」（同10.3%、18.3%）と「募集や採用人数に男女格差があり、女性は男性より不利である」（同9.7%、15.6%）で約6～8ポイントの差がある。

前回調査と比べると、「特にない」は男女ともに約4～5ポイント増加しているが、各項目の割合には大きな変化はみられない。

年代別でみると、「特にない」は男性では年代の低い層で割合が高く、40代以下では4割を超えている。女性は70歳以上を除く各年代で4割前後ある。「仕事と家庭が両立できる制度が十分に整っていない」は女性の30代から50代と70歳以上、男性の60代以上で約3割と高くなっている。「女性は補助的な仕事や雑用が多い」は女性の30代と40代、男性の30代から50代で2割台半ばと比較的高い。「女性は転勤などの人事異動で男性より不利である」や「同期に同年齢で入社した男性との賃金に格差がある」は男女ともに年代の高い層で割合が高い。その他「女性は男性より出張や視察などの機会が少ない」や「募集や採用人数に男女差があり、女性は男性より不利である」など男性の年代が高い層での割合が高い項目が多い。

図表4-8 職場の環境 [全体、年代別]

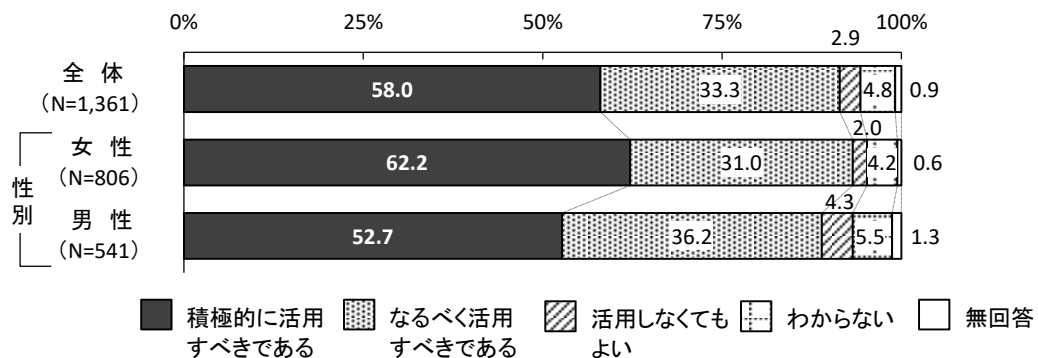
	標本数	女性募集や採用人数に男女差があり、賃金貸付や社宅に入居できないなどの不利益がある	女性同期に同年齢で入社した男性との賃金格差がある	女性は補助的な仕事や雑用が多い	昇進や昇格に男女格差がある	女性は男性より出張や視察などの機会が少ない	女性は男性より研修や教育訓練を受ける機会が少ない	女性が男性より研究や教育訓練を受けやすい	結婚や出産時に退職する慣例や圧力がかかる	中高年女性に退職を促すような圧力がかかる	定年の年齢に男女差がある（慣行を含む）	女性は転勤などの人事異動で男性より不利である	仕事と家庭が両立できる制度が十分に整っていない	家族手当、住居手当などがつかない。賃金貸付や社宅に入居できないなどの不利益がある	その他	特にない	無回答
全体	894 100.0	110 12.3	94 10.5	195 21.8	180 20.1	124 13.9	47 5.3	66 7.4	39 4.4	14 1.6	93 10.4	209 23.4	99 11.1	39 4.4	339 37.9	60 6.7	
年代別	女性:10・20代	49	6.1	4.1	10.2	22.4	8.2	4.1	12.2	-	-	8.2	22.4	10.2	4.1	40.8	6.1
	女性:30代	86	12.8	7.0	24.4	24.4	15.1	2.3	5.8	2.3	1.2	7.0	30.2	16.3	4.7	36.0	2.3
	女性:40代	132	9.1	9.8	25.8	18.9	9.1	4.5	6.1	6.8	1.5	5.3	26.5	18.9	5.3	40.9	3.8
	女性:50代	120	8.3	11.7	20.8	22.5	8.3	5.0	12.5	10.8	1.7	6.7	28.3	13.3	4.2	38.3	5.8
	女性:60代	85	9.4	10.6	15.3	15.3	9.4	7.1	8.2	4.7	1.2	15.3	22.4	11.8	3.5	42.4	10.6
	女性:70歳以上	22	13.6	18.2	4.5	18.2	13.6	4.5	4.5	4.5	9.1	18.2	27.3	4.5	4.5	18.2	31.8
	男性:10・20代	24	8.3	4.2	20.8	8.3	8.3	-	4.2	-	-	8.3	12.5	4.2	8.3	54.2	4.2
	男性:30代	72	15.3	6.9	25.0	19.4	12.5	5.6	6.9	-	2.8	6.9	19.4	8.3	2.8	40.3	2.8
	男性:40代	76	13.2	9.2	27.6	10.5	14.5	2.6	6.6	3.9	2.6	9.2	19.7	6.6	6.6	44.7	3.9
	男性:50代	82	14.6	9.8	25.6	23.2	18.3	2.4	2.4	2.4	-	7.3	8.5	4.9	2.4	37.8	3.7
	男性:60代	102	17.6	15.7	19.6	24.5	23.5	6.9	6.9	2.9	-	18.6	26.5	3.9	4.9	32.4	6.9
	男性:70歳以上	42	21.4	19.0	23.8	23.8	28.6	19.0	7.1	2.4	4.8	26.2	26.2	16.7	2.4	16.7	26.2
無回答	2	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	-	50.0	50.0	50.0	-	50.0	-	

第5章 育児・介護休業について

1. 男性が育児休業・介護休業・子の看護休暇制度を活用することについて

問9. 育児や家族の介護を行うために、法律に基づき育児休業・介護休業・子の看護休暇を取得できる制度があります。あなたは、男性がこの制度を活用することについて、どう思いますか。あなたの考えに近いものを1つ選び番号に○印をつけてください。

図表5-1 男性が育児休業・介護休業・子の看護休暇制度を活用することについて
[全体、性別]



男性が育児休業や介護休業、子の看護休暇を取得することについての考えは、「積極的に活用すべきである」が58.0%で最も高く、「なるべく活用すべきである」(33.3%)との合計は91.3%となっており、9割以上の人肯定的な考えを持っている。

性別でみると、「積極的に活用すべきである」(女性62.2%、男性52.7%)は女性の方が9.5ポイント高く、「なるべく活用すべきである」(同31.0%、36.2%)は男性の方が5.2ポイント高いことから、男性の方がこれらの制度を活用することにやや消極的である。

年代別でみると、男女とも年代が低い層で「積極的に活用すべきである」の割合が高くなる傾向がみられ、10・20代では8割前後を占めている。

職業や立場別でみると、男性の会社役員・管理職で「積極的に活用すべきである」が45.6%とやや低い割合となっており、また自営業でも43.9%と低い割合となっている。一方で、女性では会社役員・管理職や自営業の場合に「積極的に活用すべきである」が7割前後と高くなっており、同じ立場でも性別で考え方の違いがみられる。

性別役割分担意識別でみると、男女ともに分担意識に強く同感しない場合に「積極的に活用すべきである」が7割前後と高くなっている。

図表5-2 男性が育児休業・介護休業・子の看護休暇制度を活用することについて
[全体、年代別、職業や立場別、性別役割分担意識別]

(%)

		標 本 数	す 積 極 的 に あ 活 用	す な る べ き で あ 活 用	も 活 用 し な く て	わ か ら な い	無 回 答
全体		1,361 100.0	790 58.0	453 33.3	40 2.9	66 4.8	12 0.9
年代別	女性:10・20代	81	79.0	16.0	-	3.7	1.2
	女性:30代	111	73.0	20.7	0.9	5.4	-
	女性:40代	164	61.6	29.3	4.9	4.3	-
	女性:50代	151	62.9	31.1	2.0	4.0	-
	女性:60代	181	54.1	41.4	1.1	3.3	-
	女性:70歳以上	116	51.7	37.9	1.7	5.2	3.4
	男性:10・20代	48	83.3	12.5	-	4.2	-
	男性:30代	74	58.1	33.8	2.7	5.4	-
	男性:40代	81	51.9	37.0	3.7	6.2	1.2
	男性:50代	90	55.6	31.1	6.7	5.6	1.1
	男性:60代	139	43.9	43.9	5.0	4.3	2.9
	男性:70歳以上	108	45.4	42.6	4.6	6.5	0.9
	無回答	17	35.3	41.2	5.9	17.6	-
職業や立場別	女性:会社役員・管理職	16	68.8	25.0	6.3	-	-
	女性:正社員・正規職員	166	70.5	20.5	2.4	6.6	-
	女性:非正規、パート、アルバイト	263	57.4	36.9	1.9	3.4	0.4
	女性:自営業	31	74.2	22.6	3.2	-	-
	女性:自営業の家族従業員	17	52.9	47.1	-	-	-
	女性:専業主婦・学生・無職	305	62.3	30.5	1.6	4.6	1.0
	女性:その他	2	-	50.0	-	-	50.0
	男性:会社役員・管理職	68	45.6	44.1	7.4	2.9	-
	男性:正社員・正規職員	202	55.4	33.7	3.5	6.9	0.5
	男性:非正規、パート、アルバイト	78	51.3	37.2	2.6	7.7	1.3
	男性:自営業	41	43.9	43.9	2.4	4.9	4.9
	男性:自営業の家族従業員	3	66.7	33.3	-	-	-
	男性:専業主夫・学生・無職	139	56.1	32.4	5.8	3.6	2.2
	男性:その他	6	33.3	66.7	-	-	-
	無回答	24	25.0	58.3	4.2	12.5	-
性別役割分担意識別	女性:同感する	20	55.0	30.0	5.0	5.0	5.0
	女性:ある程度同感する	195	42.1	46.7	3.6	6.2	1.5
	女性:あまり同感しない	250	60.0	32.8	1.6	5.6	-
	女性:同感しない	326	76.4	20.2	1.2	2.1	-
	男性:同感する	24	50.0	41.7	8.3	-	-
	男性:ある程度同感する	160	40.6	42.5	8.1	7.5	1.3
	男性:あまり同感しない	160	46.9	43.8	3.1	5.6	0.6
男性:同感しない	184	67.4	25.5	1.1	4.3	1.6	
	無回答	42	52.4	31.0	4.8	7.1	4.8

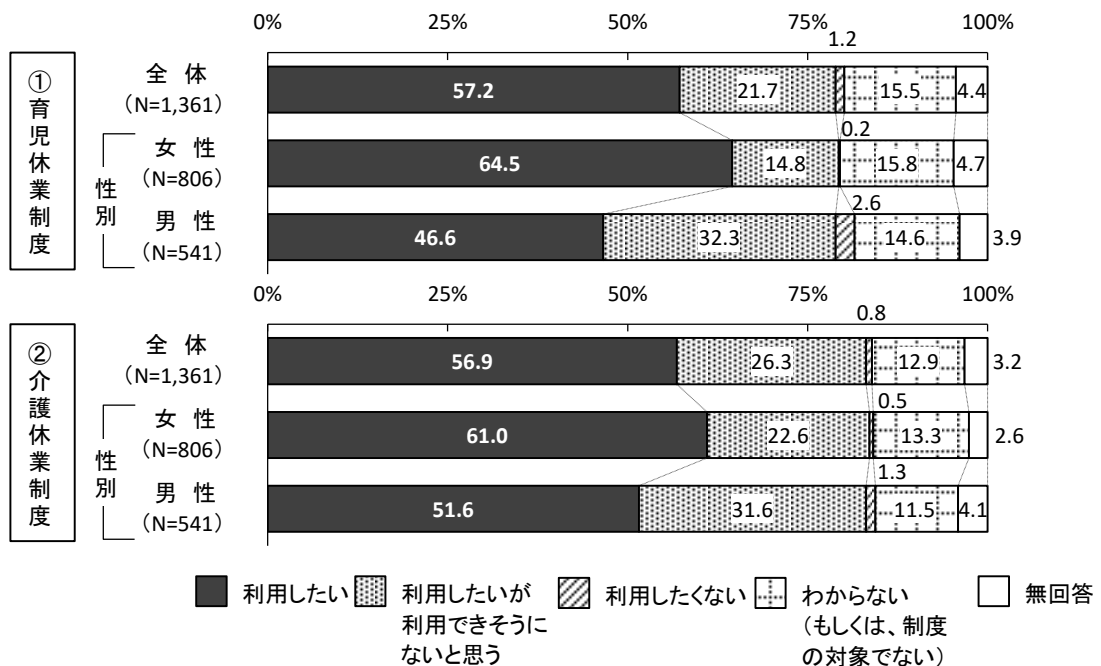
II 調査結果

2. 育児休業・介護休業制度の利用について

(1) 利用意向

問 10. あなたは、あなた自身が育児や介護に直面したときに「育児休業制度」や「介護休業制度」を利用したいと思いますか。あなたの考えに近いものを1つ選び番号に○印をつけてください。
【現在、必要のない方も必要になった場合を想定してお答えください。】

図表 5 - 3 育児休業・介護休業制度の利用意向 [全体、性別]



育児休業制度と介護休業制度の利用意向についてたずねたところ、育児休業については「利用したい」が 57.2%、次いで「利用したいが利用できそうにないと思う」が 21.7% となっており、約 8 割の人が利用したいという意向を持っている。「利用したくない」は 1.2% とごくわずかである。

性別でみると、「利用したい」は女性が 64.5%、男性が 46.6% で女性の方が 17.9 ポイント高く、「利用したいが利用できそうにないと思う」は女性が 14.8%、男性が 32.3% で男性の方が 17.5 ポイント高くなっていることから、女性と男性で利用したいという意向を持っている人の割合は同等であるが、何らかの理由でそれが困難であると考える人は男性の方が多くなっている。

年代別でみると、「利用したい」は、女性では 10・20 代と 30 代で約 8 割、男性では 10・20 代で 7 割と年代の低い層で高い。一方で、「利用したいが利用できそうにないと思う」は、女性では 50 代で 25.8%、男性では 30 代で 47.3% と比較的高くなっている。

職業や立場別でみると、「利用したい」は、女性では会社役員・管理職と正社員・正規職員の場合に 8 割前後と高い割合になっているが、男性の同じ立場では 3 割強から 4 割台半ばと低く、男女の差が大きい。男性では、非正規・パート・アルバイトや専業主婦・学生・無職の場合に「利用したい」が 5 割台と比較的高くなっている。

介護休業については、「利用したい」が 56.9%、次いで「利用したいが利用できそうにないと思う」が 26.3%となっており、利用の意向を持つ人が多い点は育児休業と変わらないが、何らかの理由で利用できそうにないと考える人は介護休業の方が多し。「利用したくない」は 0.8%と、育児休業と同様にわずかである。

性別でみると、「利用したい」（女性 61.0%、男性 51.6%）は女性の方が 9.4 ポイント高く、「利用したいが利用できそうにないと思う」（同 22.6%、31.6%）は男性の方が 9 ポイント高くなっており、育児休業の場合と同じ傾向がみられる。

年代別でみると、「利用したいが利用できそうにないと思う」の割合が高いのは、育児休業の場合と同様に、女性では 50 代で 33.1%、男性では 30 代で 45.9%となっている。

職業や立場別でみると、「利用したい」の割合が高いのは、女性では会社役員・管理職で 81.3%、男性では専業主夫・学生・無職で 59.7%となっている。

図表 5-4 育児休業・介護休業制度の利用意向〔全体、全体、年代別、職業や立場別〕

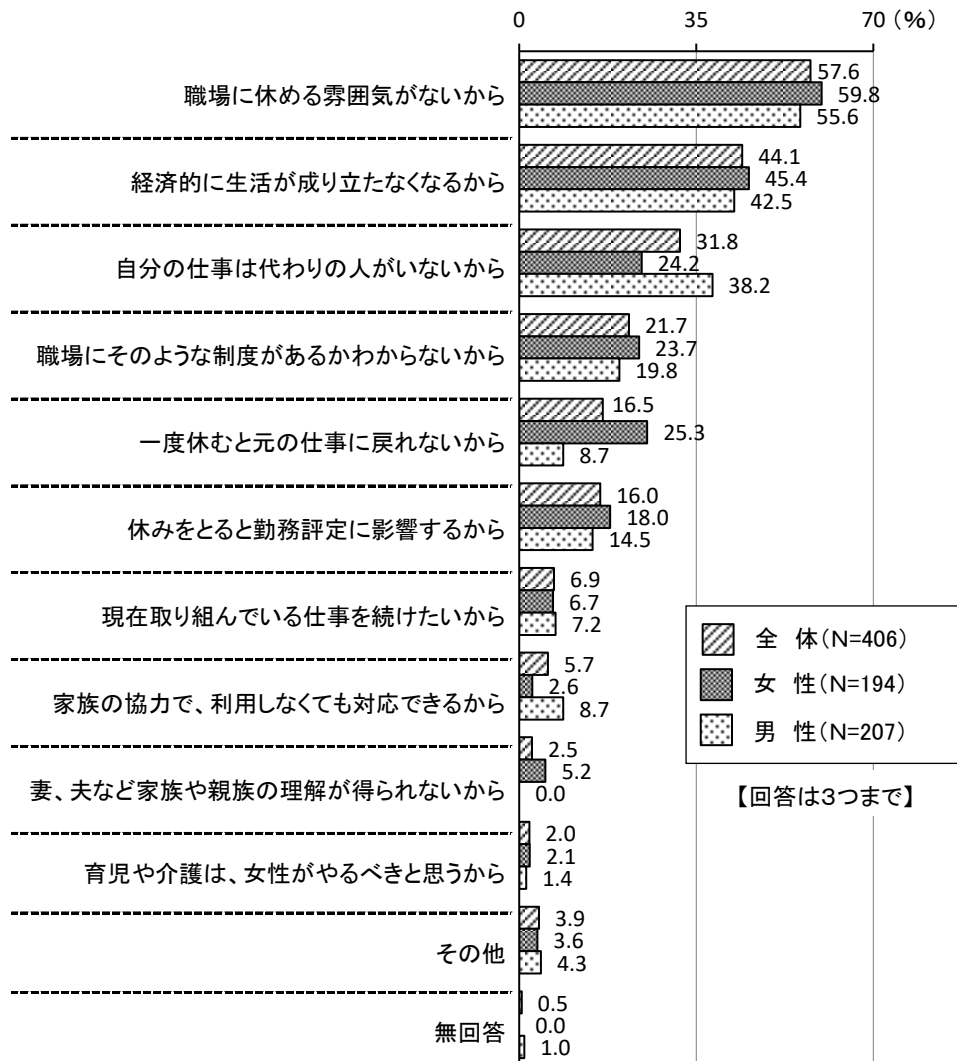
		標本数	①育児休業制度					②介護休業制度				
			利用したい	そ利用にしたいが利用できない	利用したくない	象（わかでもかなくない）はい、制度の対	無回答	利用したい	そ利用にしたいが利用できない	利用したくない	象（わかでもかなくない）はい、制度の対	無回答
			(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
全体		1,361	779	295	16	211	60	774	358	11	175	43
		100.0	57.2	21.7	1.2	15.5	4.4	56.9	26.3	0.8	12.9	3.2
年代別	女性:10・20代	81	81.5	12.3	-	4.9	1.2	70.4	19.8	1.2	7.4	1.2
	女性:30代	111	82.0	12.6	-	5.4	-	64.0	27.9	0.9	7.2	-
	女性:40代	164	65.2	17.7	-	15.2	1.8	60.4	28.0	0.6	9.8	1.2
	女性:50代	151	47.0	25.8	-	21.9	5.3	53.0	33.1	-	11.9	2.0
	女性:60代	181	64.1	9.9	0.6	20.4	5.0	63.5	15.5	-	19.9	1.1
	女性:70歳以上	116	57.8	7.8	0.9	19.0	14.7	58.6	9.5	0.9	19.8	11.2
	男性:10・20代	48	70.8	20.8	-	6.3	2.1	58.3	22.9	4.2	10.4	4.2
	男性:30代	74	45.9	47.3	4.1	2.7	-	45.9	45.9	1.4	5.4	1.4
	男性:40代	81	50.6	33.3	3.7	8.6	3.7	54.3	33.3	1.2	6.2	4.9
	男性:50代	90	32.2	40.0	6.7	17.8	3.3	44.4	41.1	2.2	7.8	4.4
男性:60代	139	51.1	25.2	1.4	18.0	4.3	59.7	24.5	0.7	12.2	2.9	
男性:70歳以上	108	39.8	28.7	-	24.1	7.4	46.3	25.0	-	22.2	6.5	
	無回答	17	52.9	11.8	-	29.4	5.9	29.4	35.3	-	35.3	-
職業や立場別	女性:会社役員・管理職	16	81.3	12.5	-	6.3	-	81.3	18.8	-	-	-
	女性:正社員・正規職員	166	76.5	12.7	-	9.6	1.2	63.3	27.7	0.6	7.8	0.6
	女性:非正規、パート、アルバイト	263	57.4	19.8	-	19.0	3.8	56.7	28.5	0.4	12.5	1.9
	女性:自営業	31	67.7	9.7	-	19.4	3.2	64.5	16.1	-	19.4	-
	女性:自営業の家族従業員	17	58.8	41.2	-	-	-	58.8	41.2	-	-	-
	女性:専業主婦・学生・無職	305	63.0	10.8	0.7	17.7	7.9	62.0	14.8	0.7	18.0	4.6
	女性:その他	2	-	50.0	-	-	50.0	-	50.0	-	-	50.0
	男性:会社役員・管理職	68	32.4	42.6	1.5	20.6	2.9	39.7	48.5	1.5	8.8	1.5
	男性:正社員・正規職員	202	46.0	39.1	4.5	8.4	2.0	50.5	38.6	1.0	6.9	3.0
	男性:非正規、パート、アルバイト	78	52.6	25.6	1.3	17.9	2.6	53.8	24.4	-	16.7	5.1
	男性:自営業	41	46.3	31.7	4.9	7.3	9.8	48.8	29.3	4.9	7.3	9.8
	男性:自営業の家族従業員	3	33.3	66.7	-	-	-	33.3	66.7	-	-	-
	男性:専業主夫・学生・無職	139	52.5	20.1	0.7	20.1	6.5	59.7	17.3	1.4	16.5	5.0
	男性:その他	6	50.0	33.3	-	16.7	-	50.0	33.3	-	16.7	-
	無回答	24	54.2	12.5	-	29.2	4.2	41.7	25.0	-	33.3	-

II 調査結果

(2) 利用できない、利用したくない理由

付問 10-1 【問 10 いずれかで「2」または「3」と答えた方に】
 あなたがそう思う理由は何ですか。(○印は3つまで)

図表 5-5 育児休業・介護休業制度を利用できない、利用したくない理由 [全体、性別]



育児休業や介護休業を利用できない、あるいは利用したくないとする理由は、「職場に休める雰囲気がないから」が 57.6%で最も高く、次いで「経済的に生活が成り立たなくなるから」が 44.1%、「自分の仕事は代替りの人がいないから」が 31.8%、「職場にそのような制度があるかわからないから」が 21.7%となっている。

性別でみると、上位2位の項目の割合は男女とも同程度であるが、「一度休むと元の仕事に戻れないから」(女性 25.3%、男性 8.7%)は女性の方が 16.6 ポイント男性より高く、「自分の仕事は代替りの人がいないから」(同 24.2%、38.2%)は男性の方が 14 ポイント高いなど、性別による差が大きい。

年代別でみると、「職場に休める雰囲気がないから」は女性の10・20代で82.4%、70歳以上で76.9%と高くなっている。男性の40代では「経済的に生活が成り立たなくなるから」が66.7%と高い。また、男性の40代と50代では「自分の仕事は代わりの人がいないから」も5割前後と高くなっている。「一度休むと元の仕事に戻れないから」は女性の60代以上で3割を超えている。「職場にそのような制度があるかわからないから」は女性の50代、男性の30代で約3割と比較的高くなっている。

図表5-6 育児休業・介護休業制度を利用できない、利用したくない理由〔全体、年代別〕

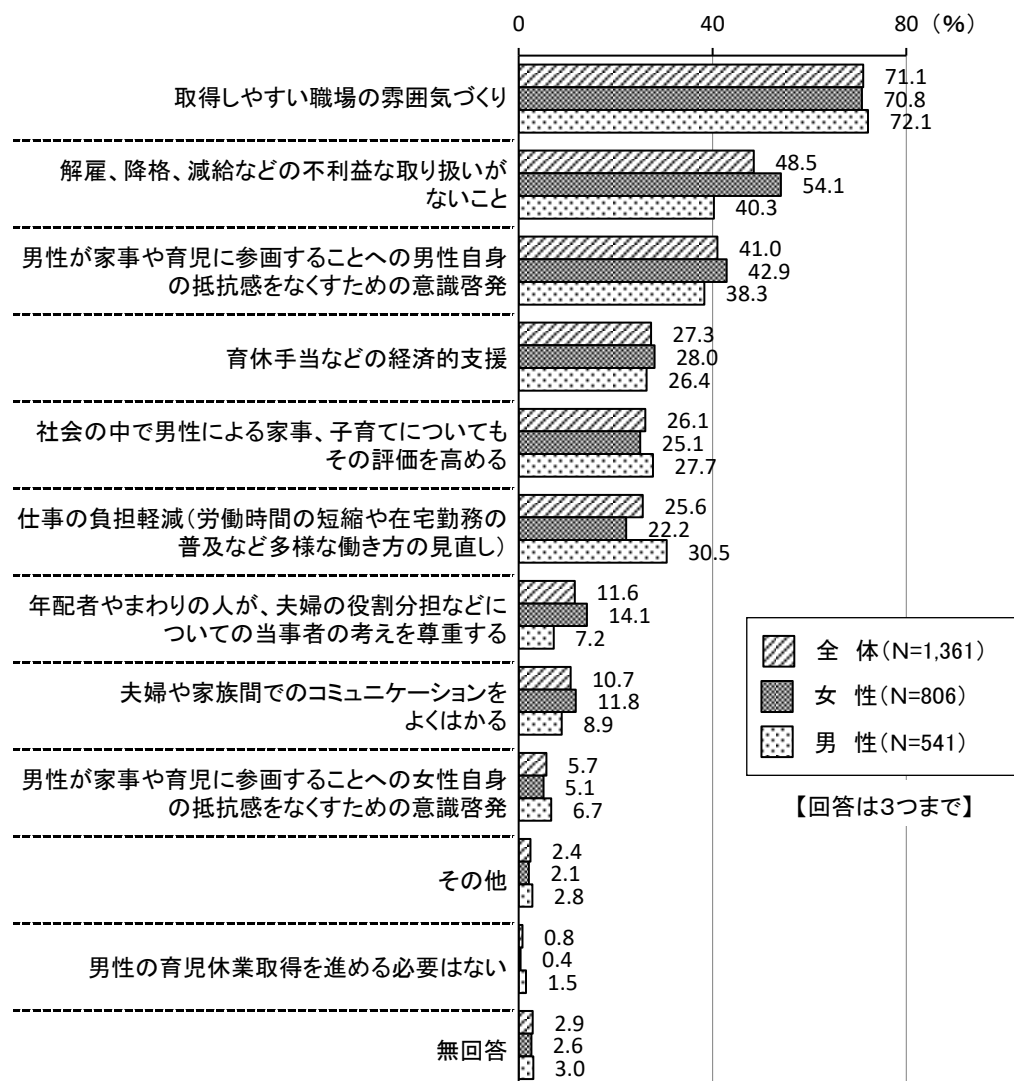
		標本数	く なる から	か 職 場 に 休 め る 雰 囲 気 が な い	響 休 み を と る と 勤 務 評 定 に 影 響 を 与 え る	い 自 分 の 仕 事 は 代 わ り の 人 が い な い	な 一 度 休 む と 元 の 仕 事 に 戻 れ な い	続 現 在 取 り 組 み を 続 け たい	解 妻 が 得 ら れ な い	て 家 族 の 協 力 で は な い	る 職 場 に そ の よ う な 制 度 が あ る	べ 育 児 や 介 護 は 、 女 性 が や る	そ の 他	無 回 答
全 体		406 100.0	179 44.1	234 57.6	65 16.0	129 31.8	67 16.5	28 6.9	10 2.5	23 5.7	88 21.7	8 2.0	16 3.9	2 0.5
年 代 別	女性:10・20代	17	52.9	82.4	11.8	23.5	23.5	5.9	-	-	23.5	-	5.9	-
	女性:30代	34	41.2	64.7	14.7	17.6	14.7	5.9	2.9	2.9	26.5	2.9	2.9	-
	女性:40代	48	56.3	50.0	22.9	29.2	25.0	4.2	2.1	2.1	18.8	-	2.1	-
	女性:50代	52	50.0	50.0	15.4	21.2	26.9	9.6	7.7	-	30.8	1.9	3.8	-
	女性:60代	30	26.7	66.7	23.3	33.3	33.3	10.0	13.3	6.7	16.7	6.7	3.3	-
	女性:70歳以上	13	30.8	76.9	15.4	15.4	30.8	-	-	7.7	23.1	-	7.7	-
	男性:10・20代	15	20.0	46.7	20.0	20.0	13.3	13.3	-	20.0	6.7	-	6.7	-
	男性:30代	39	48.7	56.4	17.9	17.9	2.6	-	-	10.3	30.8	-	7.7	-
	男性:40代	33	66.7	60.6	18.2	48.5	15.2	3.0	-	3.0	18.2	-	3.0	-
	男性:50代	47	23.4	48.9	10.6	53.2	6.4	10.6	-	10.6	17.0	2.1	2.1	2.1
	男性:60代	41	46.3	61.0	14.6	39.0	7.3	9.8	-	7.3	12.2	2.4	4.9	-
男性:70歳以上	31	41.9	58.1	9.7	38.7	12.9	9.7	-	-	6.5	29.0	3.2	3.2	
無回答		6	66.7	50.0	-	50.0	-	-	-	-	16.7	16.7	-	-

II 調査結果

3. 男性の育児休業取得を進めるために必要なこと

問 11. 女性の育児休業取得率は 81.6% であるのに対し、男性の育児休業取得率は 12.65% (厚生労働省：2020 年度雇用均等基本調査 (全国)) となっています。あなたは男性の育児休業取得を進めるためにどのようなことが必要だと思いますか。あなたのお考えに近いものを 3 つまで選び番号に○印をつけてください。

図表 5-7 男性の育児休業取得を進めるために必要なこと [全体、性別]



男性の育児休業取得を進めるために必要なことは、「取得しやすい職場の雰囲気づくり」が 71.1% で最も高く、次いで「解雇、降格、減給などの不利益な取り扱いがないこと」が 48.5%、「男性が家事や育児に参画することへの男性自身の抵抗感をなくすための意識啓発」が 41.0% となっている。

性別でみると、「解雇、降格、減給などの不利益な取り扱いがないこと」は女性が 54.1%、男性が 40.3% で女性の方が 13.8 ポイント高く差が大きい。また、「仕事の負担軽減 (労働時間の短縮や在宅勤務の普及など多様な働き方の見直し)」は男性で 30.5% と女性 (22.2%) よりも 8.3 ポイント高い。

年代別でみると、「取得しやすい職場の雰囲気づくり」は女性の10・20代と30代、男性の10・20代で8割前後と高くなっている。女性の30代以下と男性の40代以下では「育休手当などの経済的支援」が3割台と比較的高くなっている。

職業や立場別でみると、「取得しやすい職場の雰囲気づくり」は男性の正社員・正規職員で74.3%と専業主夫・学生・無職（74.8%）に次いで高い。

図表5-8 男性の育児休業取得を進めるために必要なこと〔全体、性別、職業や立場別〕

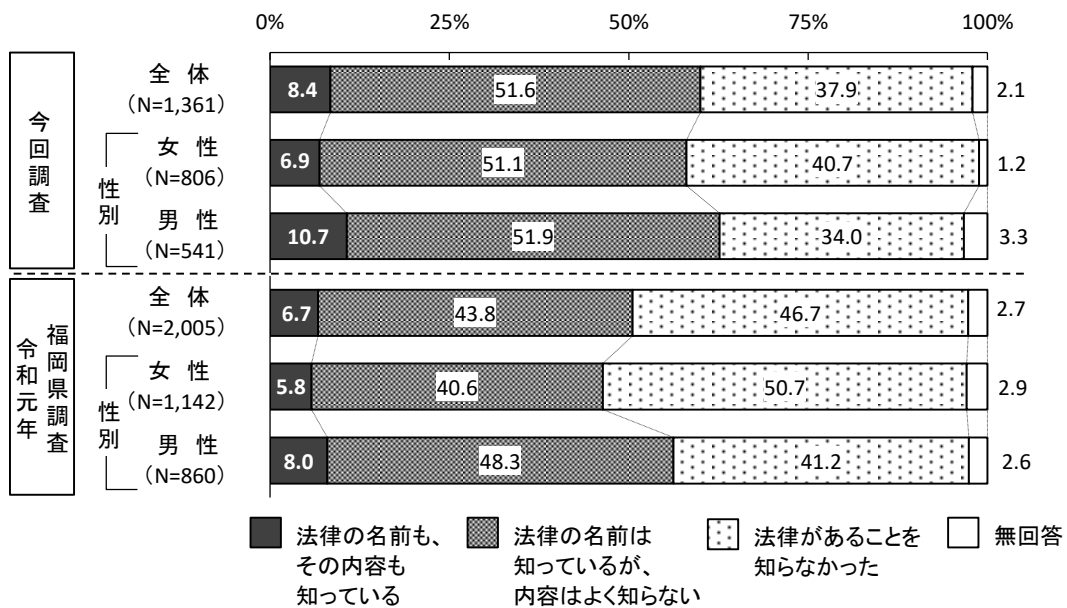
		標本数	男性が家事や育児の意識啓発を拒否する	男性が家事や育児の意識啓発を拒否する	取得しやすい職場の雰囲気づくり	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる	事業者の考えを尊重する	年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担について、夫の役割を担うのを認める	子育ての中で男性による評価を、社会の中で男性による家事、子育ての負担軽減（労働時間の短縮や在宅勤務の普及など）	解雇、降格、減給などの不利	育休手当などの経済的支援	その他	男性の育児休業取得を進める	無回答	
全体		1,361	558	78	968	145	158	355	660	348	372	32	11	39	
		100.0	41.0	5.7	71.1	10.7	11.6	26.1	48.5	25.6	27.3	2.4	0.8	2.9	
年代別	女性:10・20代	81	42.0	6.2	76.5	9.9	12.3	23.5	51.9	17.3	37.0	-	-	3.7	
	女性:30代	111	39.6	2.7	77.5	12.6	14.4	20.7	50.5	28.8	31.5	5.4	-	-	
	女性:40代	164	36.6	4.3	70.1	9.8	14.0	32.3	61.6	23.2	23.2	3.7	1.2	1.2	
	女性:50代	151	43.0	4.6	70.9	7.3	14.6	23.8	58.3	26.5	27.2	-	0.7	1.3	
	女性:60代	181	50.3	5.0	69.1	17.7	16.0	26.5	49.2	19.3	26.0	0.6	-	2.2	
	女性:70歳以上	116	44.8	8.6	64.7	12.1	11.2	19.8	50.0	16.4	29.3	3.4	-	8.6	
	男性:10・20代	48	35.4	4.2	83.3	6.3	6.3	27.1	41.7	27.1	33.3	2.1	-	2.1	
	男性:30代	74	27.0	4.1	68.9	8.1	10.8	28.4	52.7	39.2	32.4	5.4	-	-	
	男性:40代	81	25.9	7.4	71.6	6.2	6.2	23.5	35.8	40.7	39.5	4.9	1.2	2.5	
	男性:50代	90	37.8	4.4	67.8	5.6	7.8	35.6	36.7	27.8	21.1	1.1	4.4	2.2	
男性:60代	139	49.6	7.2	70.5	11.5	7.2	28.1	36.0	29.5	25.9	3.6	1.4	3.6		
男性:70歳以上	108	42.6	10.2	75.9	12.0	5.6	24.1	43.5	22.2	13.9	-	0.9	5.6		
無回答	17	29.4	5.9	47.1	11.8	35.3	17.6	47.1	29.4	29.4	-	-	11.8		
職業や立場別	女性:会社役員・管理職	16	50.0	-	68.8	12.5	6.3	31.3	56.3	18.8	12.5	-	6.3	-	
	女性:正社員・正規職員	166	47.0	5.4	70.5	10.8	15.7	32.5	48.8	21.7	24.7	3.0	-	1.2	
	女性:非正規、パート、アルバイト	263	42.2	3.8	74.1	11.0	14.8	24.0	53.2	22.4	29.3	2.3	0.8	3.0	
	女性:自営業	31	58.1	9.7	58.1	16.1	16.1	29.0	51.6	25.8	25.8	-	-	-	
	女性:自営業の家族従業員	17	58.8	11.8	52.9	11.8	11.8	17.6	47.1	17.6	17.6	5.9	-	5.9	
	女性:専業主夫・学生・無職	305	39.0	5.6	70.2	12.1	13.1	22.0	59.3	21.6	30.8	1.3	-	3.0	
	女性:その他	2	-	-	50.0	50.0	-	-	-	50.0	-	-	-	-	50.0
	男性:会社役員・管理職	68	36.8	5.9	66.2	5.9	8.8	38.2	29.4	38.2	35.3	2.9	1.5	-	
	男性:正社員・正規職員	202	34.2	4.0	74.3	6.4	7.4	31.2	38.6	33.7	29.7	3.0	1.5	1.5	
	男性:非正規、パート、アルバイト	78	38.5	11.5	70.5	11.5	6.4	23.1	47.4	21.8	30.8	1.3	1.3	3.8	
	男性:自営業	41	41.5	2.4	65.9	19.5	7.3	12.2	39.0	29.3	17.1	2.4	4.9	7.3	
	男性:自営業の家族従業員	3	-	33.3	33.3	-	-	66.7	33.3	33.3	66.7	33.3	-	-	
	男性:専業主夫・学生・無職	139	45.3	8.6	74.8	9.4	7.2	25.2	44.6	28.1	15.8	2.2	0.7	4.3	
男性:その他	6	33.3	16.7	100.0	-	-	16.7	50.0	16.7	50.0	16.7	-	-		
無回答	24	33.3	4.2	62.5	16.7	25.0	16.7	33.3	33.3	20.8	4.2	-	12.5		

第6章 政治分野における男女共同参画について

1. 「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」の認知

問 12. あなたは、「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」について、知っていますか。あてはまるものを1つ選び番号に○印をつけてください。

図表6-1 「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」の認知
[全体、性別] (福岡県調査比較)



「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」の認知度は、「法律の名前は知っているが、内容はよく知らない」は51.6%と約半数を占めており、「法律があることを知らなかった」(37.9%)も4割近くを占めている。「法律の名前も、その内容も知っている」は8.4%で1割に満たない。

性別でみると、「法律の名前も、その内容も知っている」(女性6.9%、男性10.7%)は男性の方が3.8ポイント上回っていることから、この法律の認知度は男性の方が若干高い。

福岡県調査と比べると、「法律の名前も、その内容も知っている」は男女ともに今回調査の方が若干高く、また「法律の名前は知っているが、内容はよく知らない」は女性で今回調査の方が10.5ポイント高いことから、今回調査の方が認知度は福岡県よりも若干高い。

年代別でみると、「法律の名前も、その内容も知っている」は男女とも10・20代で高くなっており、特に男性では27.1%と3割近くの認知度となっている。

図表6-2 「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」の認知〔全体、年代別〕

(%)

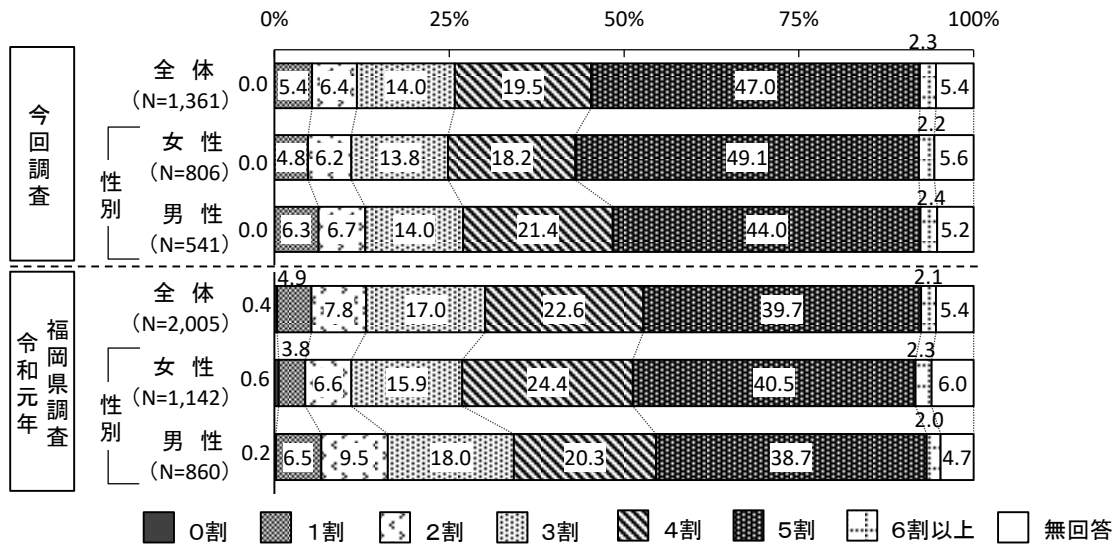
		標本数	てそ法の いの律 る内の 容の名 も前 も知 もつ、	な内知法 い容っ律 はての よい名 くる前 知がは ら、	を法 知律 らがあ るな かある こと た	無 回 答
全体		1,361 100.0	115 8.4	702 51.6	516 37.9	28 2.1
年代別	女性:10・20代	81	13.6	53.1	33.3	-
	女性:30代	111	5.4	50.5	44.1	-
	女性:40代	164	4.3	43.3	51.8	0.6
	女性:50代	151	6.0	45.7	47.7	0.7
	女性:60代	181	8.3	55.2	35.9	0.6
	女性:70歳以上	116	6.0	62.9	25.0	6.0
	男性:10・20代	48	27.1	39.6	31.3	2.1
	男性:30代	74	4.1	56.8	39.2	-
	男性:40代	81	6.2	53.1	37.0	3.7
	男性:50代	90	11.1	40.0	46.7	2.2
	男性:60代	139	10.8	58.3	27.3	3.6
	男性:70歳以上	108	11.1	55.6	26.9	6.5
無回答		17	11.8	52.9	35.3	-

II 調査結果

2. 地方議会における女性議員の理想の割合

問 13. あなたは、地方議会（県議会・市町村議会）における女性議員の割合は何割程度が理想だと考えますか。下の枠内に0から10までの整数をご記入ください。

図表6-3 地方議会における女性議員の理想の割合 [全体、性別] (福岡県調査比較)



地方議会における女性議員の理想の割合をたずねたところ、「5割」が47.0%で最も高く、次いで「4割」が19.5%、「3割」が14.0%となっている。

性別で見ると、「5割」は女性が49.1%、男性が44.0%と女性の方が5.1ポイント高くなっている。

福岡県調査と比べると、「5割」の割合は男女とも今回調査の方が約5～9ポイント高くなっている。

年代別でみると、女性の70歳以上と男性の60代以上で「5割」の割合が4割前後と他の年代よりも低くなっている。

図表6-4 地方議会における女性議員の理想の割合〔全体、年代別〕

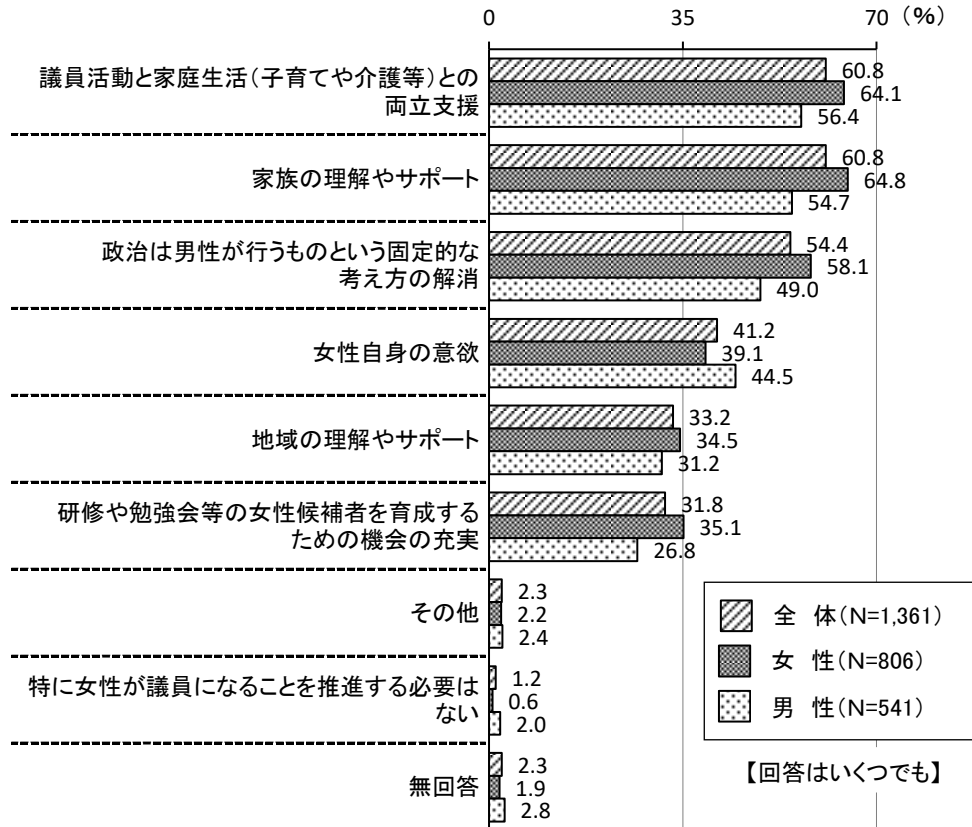
		標本数	0	1割	2割	3割	4割	5割	6割以上	無回答
全体		1,361 100.0	-	73 5.4	87 6.4	190 14.0	266 19.5	640 47.0	31 2.3	74 5.4
年代別	女性:10・20代	81	-	3.7	8.6	12.3	21.0	49.4	3.7	1.2
	女性:30代	111	-	4.5	7.2	6.3	22.5	51.4	3.6	4.5
	女性:40代	164	-	7.9	4.9	11.0	15.9	54.3	3.0	3.0
	女性:50代	151	-	4.6	6.6	13.9	18.5	52.3	0.7	3.3
	女性:60代	181	-	4.4	6.1	17.1	18.8	44.8	1.7	7.2
	女性:70歳以上	116	-	2.6	5.2	20.7	14.7	41.4	1.7	13.8
	男性:10・20代	48	-	4.2	8.3	8.3	27.1	50.0	-	2.1
	男性:30代	74	-	10.8	5.4	9.5	20.3	48.6	1.4	4.1
	男性:40代	81	-	6.2	7.4	6.2	28.4	43.2	4.9	3.7
	男性:50代	90	-	6.7	5.6	10.0	21.1	50.0	-	6.7
	男性:60代	139	-	5.8	7.2	18.7	20.9	39.6	2.9	5.0
	男性:70歳以上	108	-	4.6	5.6	23.1	15.7	39.8	3.7	7.4
無回答	17	-	-	11.8	17.6	17.6	47.1	-	5.9	

II 調査結果

3. 女性が地方議員になるために必要なこと

問 14. あなたは、女性が地方議員になるためには何が必要だと思いますか。あてはまるものをいくつでも選び数字に○印をつけてください。

図表 6-5 女性が地方議員になるために必要なこと [全体、性別]



女性が地方議員になるために必要だと思うことは、「議員活動と家庭生活（子育てや介護等）との両立支援」と「家族の理解やサポート」が同率の 60.8%で高く、次いで「政治は男性が行うものという固定的な考え方の解消」が 54.4%、「女性自身の意欲」が 41.2%となっている。

性別でみると、「議員活動と家庭生活（子育てや介護等）との両立支援」（女性 64.1%、男性 56.4%）と「家族の理解やサポート」（同 64.8%、54.7%）、「政治は男性が行うものという固定的な考え方の解消」（58.1%、49.0%）の上位3位はいずれも女性の方が約8～10ポイント高くなっている。また、「研修や勉強会等の女性候補者を育成するための機会の充実」（同 35.1%、26.8%）も女性の方が8.3ポイント高くなっている。一方で、「女性自身の意欲」（同 39.1%、44.5%）は男性の方が5.4ポイント高くなっている。

年代別でみると、「政治は男性が行うものという固定的な考え方の解消」は、男女とも年代が低い層で、「女性自身の意欲」は年代が高い層で割合が高くなる傾向がみられる。「議員活動と家庭生活（子育てや介護等）との両立支援」は、女性の30代と40代で7割強、「家族の理解やサポート」は女性の50代と60代で約7割と高くなっている。

図表6-6 女性が地方議員になるために必要なこと [全体、年代別]

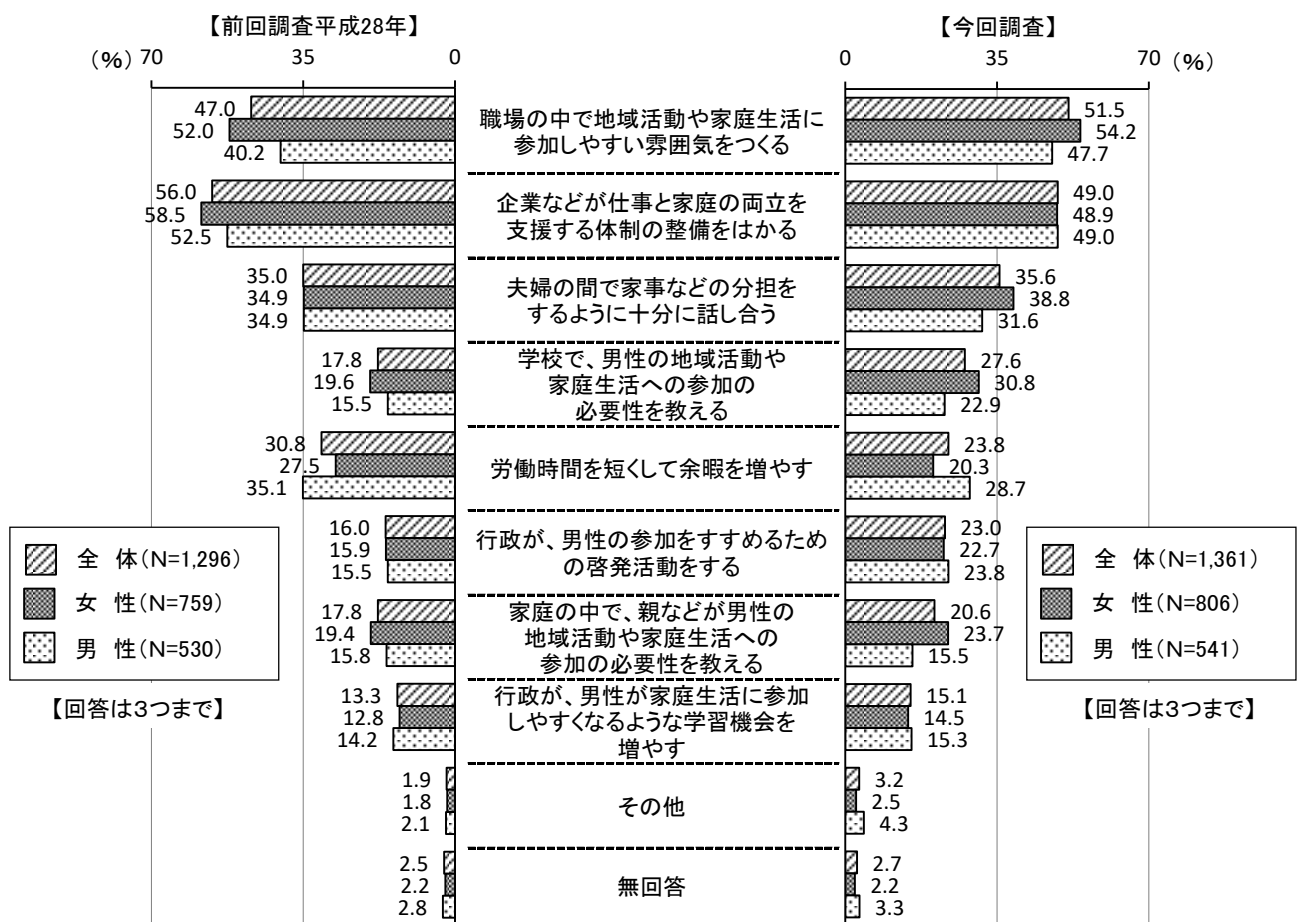
		(%)											
		標本数	家族の理解やサポート	地域の理解やサポート	の(議員活動と家庭生活との両立支援)	の候補者の養成等のため	の研修や勉強会等のため	の政治は男性が行うものという固定的な考え方の解消	女性自身の意欲	その他	ない	特に女性が進む必要はない	無回答
全 体		1,361 100.0	827 60.8	452 33.2	828 60.8	433 31.8	741 54.4	561 41.2	31 2.3	17 1.2	31 2.3		
年 代 別	女性:10・20代	81	49.4	37.0	48.1	21.0	64.2	34.6	6.2	-	-		
	女性:30代	111	63.1	38.7	70.3	35.1	65.8	27.9	2.7	1.8	-		
	女性:40代	164	64.0	31.7	72.6	32.9	58.5	31.7	3.0	1.2	0.6		
	女性:50代	151	69.5	31.8	64.2	35.8	57.6	39.7	1.3	-	0.7		
	女性:60代	181	71.3	32.6	63.0	37.0	54.1	45.3	-	0.6	2.2		
	女性:70歳以上	116	62.1	38.8	60.3	44.8	51.7	52.6	2.6	-	7.8		
	男性:10・20代	48	35.4	39.6	56.3	20.8	64.6	35.4	-	6.3	2.1		
	男性:30代	74	44.6	36.5	52.7	28.4	51.4	37.8	5.4	2.7	-		
	男性:40代	81	51.9	29.6	51.9	21.0	51.9	35.8	2.5	2.5	3.7		
	男性:50代	90	66.7	35.6	55.6	25.6	44.4	50.0	3.3	1.1	3.3		
	男性:60代	139	59.0	33.1	63.3	27.3	50.4	41.0	2.2	1.4	2.9		
	男性:70歳以上	108	57.4	19.4	54.6	33.3	39.8	59.3	0.9	0.9	3.7		
無回答		17	58.8	35.3	35.3	29.4	64.7	41.2	-	5.9	5.9		

第7章 社会活動などへの参加・参画について

1. 男性が地域活動や家庭生活へ参加しやすくするために必要なこと

問 15. 男性が地域活動（自治会・コミュニティの活動・子ども会など）や家庭生活（家事・育児・介護など）へ参加しやすくするには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまるものを3つまで選び数字に○印をつけてください。

図表7-1 男性が地域活動や家庭生活へ参加しやすくするために必要なこと
[全体、性別]（前回調査比較）



男性が地域活動や家庭生活へ参加しやすくするために必要と思うことは、「職場の中で地域活動や家庭生活に参加しやすい雰囲気をつくる」（51.5%）と「企業などが仕事と家庭の両立を支援する体制の整備をはかる」（49.0%）がともに約5割で高くなっている。以下、「夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合う」が35.6%、「学校で、男性の地域活動や家庭生活への参加の必要性を教える」が27.6%、「労働時間を短くして余暇を増やす」が23.8%となっている。

性別でみると、「職場の中で地域活動や家庭生活に参加しやすい雰囲気をつくる」（女性 54.2%、男性 47.7%）と「夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合う」（同 38.8%、31.6%）、「学校で、男性の地域活動や家庭生活への参加の必要性を教える」（同 30.8%、22.9%）、「家庭の中で、男性の地域活動や家庭生活への参加の必要性を教える」（同 23.7%、15.5%）は、いずれも女性の方が約7～8ポイント男性より高くなっている。「労働時間を短くして余暇を増やす」（同 20.3%、28.7%）は男性の方が 8.4 ポイント女性より高い。

前回調査と比べると、男女とも「学校で、男性の地域活動や家庭生活への参加の必要性を教える」は約7～11ポイント増加しており、教育の場での取り組み強化を望む人が増えている。

年代別でみると、「職場の中で地域活動や家庭生活に参加しやすい雰囲気をつくる」は女性の10・20代と30代で6割台と高く、「企業などが仕事と家庭の両立を支援する体制の整備をはかる」は、男女とも30代と40代で5割台と他の年代よりも高くなっている。また、男性の10・20代と30代では、「労働時間を短くして余暇を増やす」が4割前後と高い。

図表7-2 男性が地域活動や家庭生活へ参加しやすくするために必要なこと [全体、年代別]

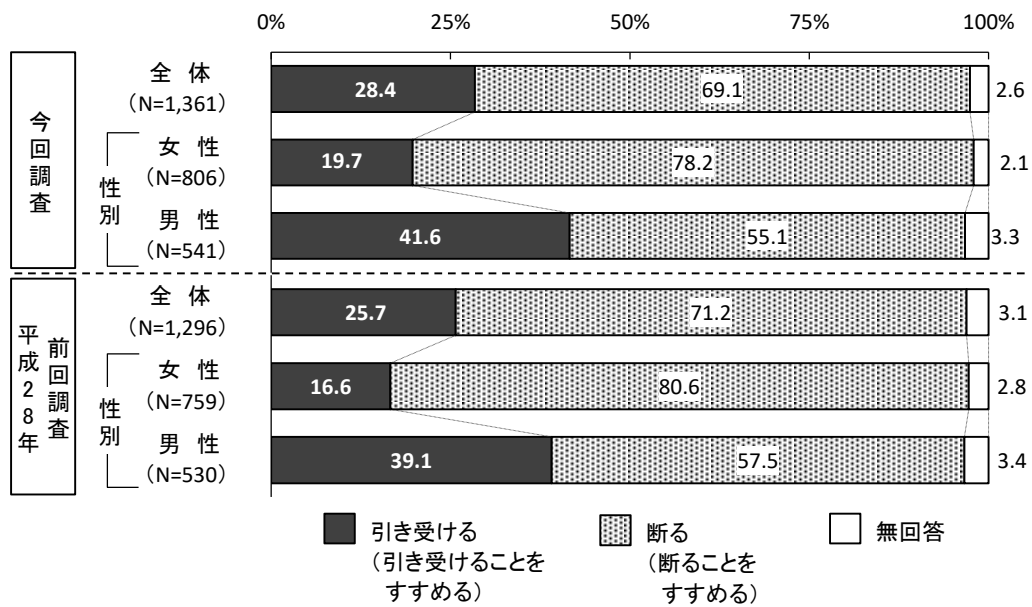
		(%)												
		標本数	め行政が、男性の啓発の参加をすすす	習参加が、男性の増やす	参加が、男性の増やす	参加が、男性の増やす	家庭の必要を教える	学校の生活への必要性を教える	うを夫婦の間に家事など話し分	増労働時間を短くして余暇を増やす	を生活場に積極的に参加しやす	は立企業などが支援する体制の整備を両	その他	無回答
全体		1,361 100.0	313 23.0	205 15.1	280 20.6	375 27.6	485 35.6	324 23.8	701 51.5	667 49.0	43 3.2	37 2.7		
年代別	女性:10・20代	81	7.4	16.0	22.2	39.5	43.2	23.5	67.9	37.0	2.5	-		
	女性:30代	111	19.8	15.3	17.1	28.8	34.2	28.8	60.4	52.3	0.9	0.9		
	女性:40代	164	21.3	12.2	23.8	22.0	33.5	26.2	54.3	59.8	2.4	0.6		
	女性:50代	151	23.8	9.3	27.8	33.1	31.8	24.5	56.3	47.0	3.3	2.0		
	女性:60代	181	27.1	16.6	28.2	33.7	47.5	12.2	46.4	45.9	2.8	2.2		
	女性:70歳以上	116	30.2	19.8	19.0	31.9	43.1	9.5	49.1	44.8	2.6	7.8		
	男性:10・20代	48	22.9	20.8	14.6	22.9	27.1	37.5	50.0	37.5	2.1	2.1		
	男性:30代	74	10.8	9.5	17.6	21.6	25.7	43.2	47.3	56.8	10.8	-		
	男性:40代	81	28.4	7.4	13.6	14.8	33.3	30.9	45.7	55.6	3.7	1.2		
	男性:50代	90	24.4	7.8	14.4	24.4	32.2	32.2	48.9	46.7	3.3	5.6		
男性:60代	139	28.8	22.3	15.8	26.6	34.5	23.7	48.2	48.9	2.2	4.3			
男性:70歳以上	108	23.1	20.4	16.7	24.1	32.4	16.7	47.2	45.4	3.7	4.6			
無回答	17	5.9	29.4	29.4	17.6	11.8	29.4	35.3	64.7	5.9	5.9			

II 調査結果

2. 地域の役職に女性が推薦された場合の対処

問 16. 区長やPTA会長などの地域の役職についておたずねします。女性の場合は、もしあなた自身が推薦されたら引き受けますか。男性の場合は、妻などが推薦されたら引き受けることをすすめますか。あてはまるものを1つ選び番号に○印をつけてください。

図表7-3 地域の役職に女性が推薦された場合の対処 [全体、性別]
(前回調査比較)



地域の役職に、女性は自分が、男性は妻などが推薦された場合に引き受けるかどうかたずねたところ、「引き受ける (引き受けることをすすめる)」は 28.4%、「断る (断ることをすすめる)」は 69.1%となっており、地域の役職につくことに消極的な人が多い。

性別で見ると、女性は「断る」が 78.2%を占めており、「引き受ける」は 19.7%と2割に過ぎない。男性では「引き受けることをすすめる」が 41.6%となっており、積極的な人が女性の約2倍存在するが、「断ることをすすめる」は 55.1%となっており、半数以上の人は消極的である。

前回調査と比べると、男女ともに「引き受ける (引き受けることをすすめる)」が約3ポイント増加している。

年代別でみると、男女ともに「引き受ける（引き受けることをすすめる）」は40代と50代で他の年代よりも低くなっており、女性の40代では11.0%と最も低い。男性では、10・20代と70歳以上で「引き受けることをすすめる」が半数を超えている。

性別役割分担意識別でみると、女性で性別役割に強く同感しない人では「引き受ける」割合が26.7%とやや高くなっている。

図表7-4 地域の役職に女性が推薦された場合の対処〔全体、年代別、性別役割分担意識別〕

(%)

		標本数	め受引 るけき けるこ とを（ 引き すす め）	す断 する（ 断る こと を）	無 回 答
全体		1,361 100.0	386 28.4	940 69.1	35 2.6
年代別	女性:10・20代	81	24.7	75.3	-
	女性:30代	111	22.5	77.5	-
	女性:40代	164	11.0	89.0	-
	女性:50代	151	17.9	80.8	1.3
	女性:60代	181	24.3	73.5	2.2
	女性:70歳以上	116	21.6	69.0	9.5
	男性:10・20代	48	54.2	43.8	2.1
	男性:30代	74	37.8	60.8	1.4
	男性:40代	81	29.6	65.4	4.9
	男性:50代	90	34.4	61.1	4.4
	男性:60代	139	43.9	54.0	2.2
	男性:70歳以上	108	50.9	45.4	3.7
	無回答	17	11.8	82.4	5.9
性別 役割 分担 意識 別	女性:同感する	20	15.0	80.0	5.0
	女性:ある程度同感する	195	14.9	81.5	3.6
	女性:あまり同感しない	250	15.2	84.4	0.4
	女性:同感しない	326	26.7	71.5	1.8
	男性:同感する	24	41.7	54.2	4.2
	男性:ある程度同感する	160	35.0	60.6	4.4
	男性:あまり同感しない	160	43.1	54.4	2.5
	男性:同感しない	184	45.1	51.6	3.3
	無回答	42	26.2	69.0	4.8

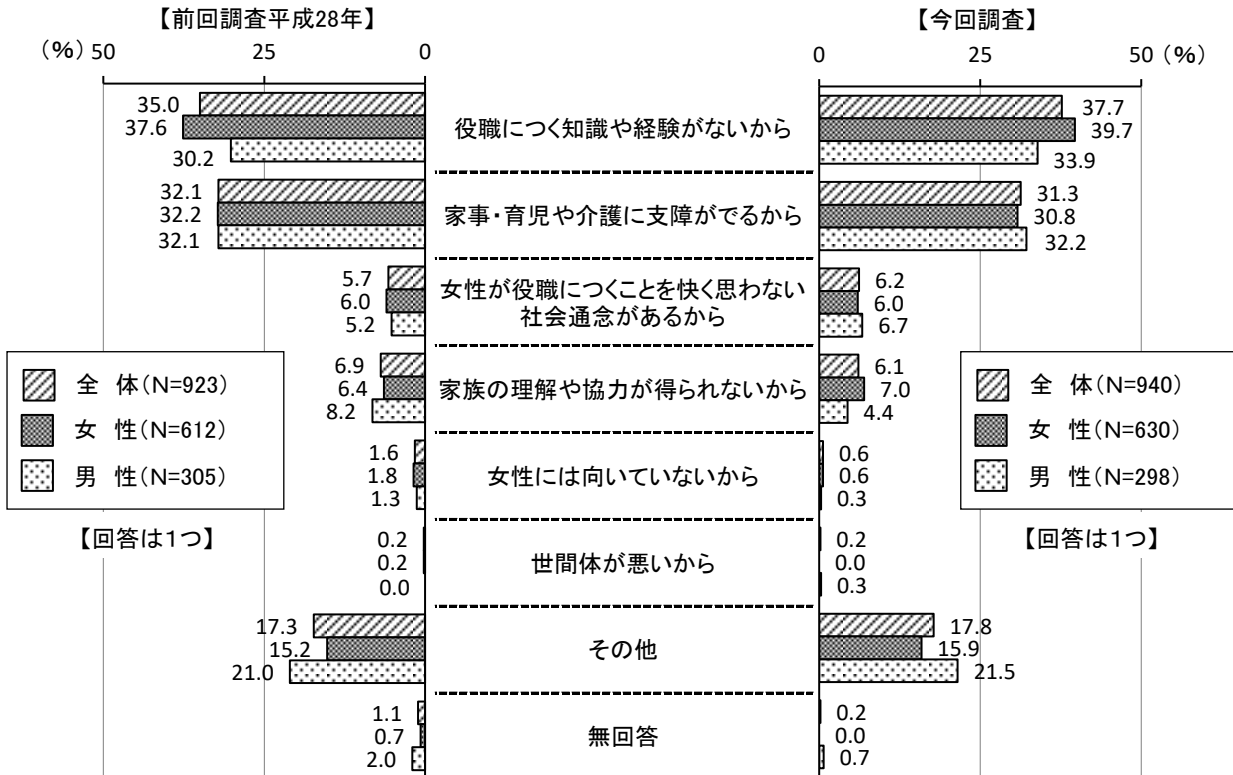
II 調査結果

3. 断る（断ることをすすめる）理由

付問 16-1 【問 16 で「2. 断る（断ることをすすめる）」と答えた方は、下の質問にお答えください。】

その理由は何ですか。あてはまるものを1つ選び番号に○印をつけてください。

図表 7-5 断る（断ることをすすめる）理由 [全体、性別] (前回調査比較)



地域の役職に推薦された場合に「断る（断ることをすすめる）」とする理由は、「役職につく知識や経験がないから」（37.7%）と「家事・育児や介護に支障がでるから」（31.3%）が3割台で高くなっている。

性別でみると、「役職につく知識や経験がないから」（女性 39.7%、男性 33.9%）は女性の方が 5.8 ポイント高くなっている。

前回調査と比べてもあまり大きな変化はみられない。

年代別でみると、「役職につく知識や経験がないから」は男女ともに年代が高い層で割合が高くなる傾向が顕著である。一方で、「家事・育児や介護に支障がでるから」は年代が低い層で割合が高くなっており、男女ともに10・20代と30代では4割前後となっている。

性別役割分担意識別でみると、男女ともに性別役割分担に強く同感する人は「家事・育児や介護に支障がでるから」の割合が4割台半ばから5割と高くなっている。

図表7-6 断る（断ることをすすめる）理由〔全体、年代別、性別役割分担意識別〕

(%)

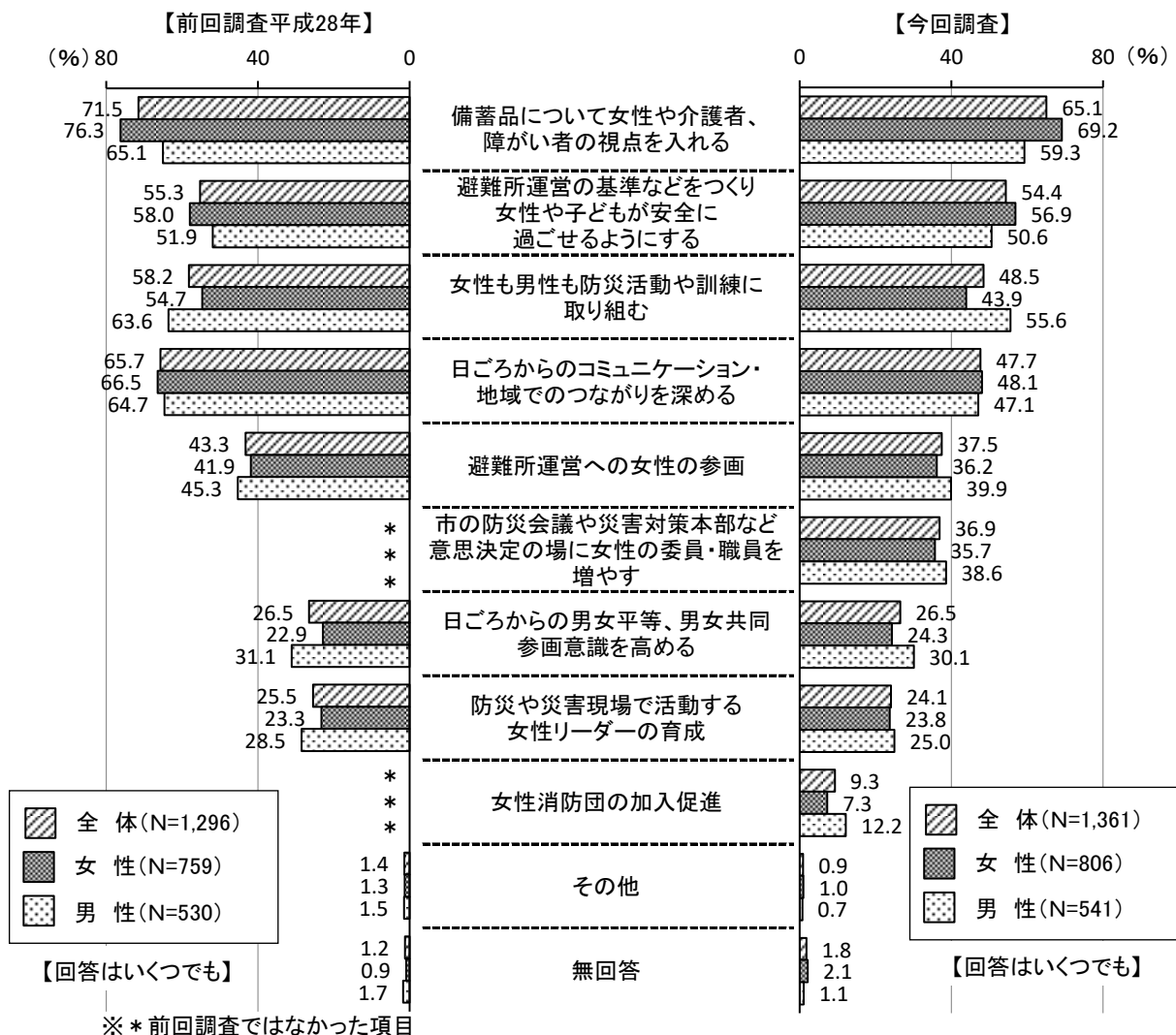
		標本数	得られ ない 理由 から	家族 の 理解 や 協 力が	会 通 が 思 わ な い 社 会	女 性 が 役 職 に 関 与 し な い こ	支 障 が あ る こ ろ に	家 事 ・ 育 児 や 介 護 に	験 が な い こ ろ に	い か ら は 向 い て い な	世 間 体 が 悪 い こ ら	そ の 他	無 回 答
全 体		940 100.0	57 6.1	58 6.2	294 31.3	354 37.7	6 0.6	2 0.2	167 17.8	2 0.2			
年 代 別	女性:10・20代	61	6.6	4.9	44.3	27.9	-	-	16.4	-			
	女性:30代	86	5.8	4.7	38.4	30.2	-	-	20.9	-			
	女性:40代	146	4.8	4.1	35.6	34.2	0.7	-	20.5	-			
	女性:50代	122	11.5	5.7	30.3	36.1	0.8	-	15.6	-			
	女性:60代	133	6.8	6.8	21.8	53.4	1.5	-	9.8	-			
	女性:70歳以上	80	6.3	10.0	18.8	52.5	-	-	12.5	-			
	男性:10・20代	21	4.8	4.8	42.9	19.0	-	-	28.6	-			
	男性:30代	45	4.4	-	46.7	15.6	-	-	31.1	2.2			
	男性:40代	53	1.9	7.5	35.8	28.3	-	-	26.4	-			
	男性:50代	55	3.6	3.6	30.9	34.5	-	1.8	23.6	1.8			
	男性:60代	75	2.7	10.7	28.0	41.3	1.3	-	16.0	-			
	男性:70歳以上	49	10.2	10.2	18.4	51.0	-	-	10.2	-			
無回答		14	-	7.1	35.7	21.4	7.1	7.1	21.4	-			
性 別 役 割 分 担 意 識 別	女性:同感する	16	12.5	12.5	50.0	25.0	-	-	-	-			
	女性:ある程度同感する	159	6.9	6.3	25.8	46.5	1.3	-	13.2	-			
	女性:あまり同感しない	211	6.6	5.2	29.9	42.2	0.9	-	15.2	-			
	女性:同感しない	233	6.4	6.4	34.3	33.0	-	-	19.7	-			
	男性:同感する	13	7.7	7.7	46.2	30.8	-	-	7.7	-			
	男性:ある程度同感する	97	4.1	8.2	38.1	33.0	1.0	-	15.5	-			
	男性:あまり同感しない	87	3.4	8.0	31.0	37.9	-	-	18.4	1.1			
	男性:同感しない	95	5.3	4.2	27.4	29.5	-	1.1	31.6	1.1			
無回答		29	6.9	-	20.7	44.8	3.4	3.4	20.7	-			

第8章 防災に関することについて

1. 災害に備えるために必要なこと

問7. 過去の災害対応における経験から、男女共同参画の視点による対策や対応が求められています。災害に備えるために、これからどのようなことが必要だと思いますか。あてはまるものをすべて選び番号に○印をつけてください。

図表8-1 災害に備えるために必要なこと [全体、性別] (前回調査比較)



男女共同参画の視点で防災に必要なだと思うことをたずねたところ、「備蓄品について女性や介護者、障がい者の視点を入れる」が65.1%で最も高く、次いで「避難所運営の基準などをつくり女性や子どもが安全に過ごせるようにする」が54.4%、「女性も男性も防災活動や訓練に取り組む」が48.5%、「日ごろからのコミュニケーション・地域でのつながりを大切にする」が47.7%となっている。

性別でみると、「備蓄品について女性や介護者、障がい者の視点を入れる」（女性 69.2%、男性 59.3%）は女性では約7割の人が必要と感じており、男性よりも9.9ポイント高い。一方で、男性の方が高い割合となっているのは「女性も男性も防災活動や訓練に取り組む」（同 43.9%、55.6%）で女性とは11.7ポイントの差がある。

前回調査と比べると、今回調査で新たに加えた項目があるため、前回調査よりも割合が減少している項目が多く、特に「日ごろからのコミュニケーション・地域でのつながりを大切にする」は男女とも約18ポイント減少となっている。

年代別でみると、「日ごろからのコミュニケーション・地域でのつながりを大切にする」は男女とも年代の高い層で割合が高くなっており、60代で5割台、70歳以上では6割台となっている。

図表8-2 災害に備えるために必要なこと〔全体、年代別〕

(%)

	標本数	避難所運営への女性の参画	女性も男性も防災活動や訓練に取り組む	介護者、障がい者等の視点や介入	備蓄品について女性や介護者も入れる	過剰な備蓄や子どもの安全を確保する	避難所運営の基準などをつくる	防災や災害現場での活動する女性リーダーの育成	日ごろからの地域でのコミュニケーションを深める	日ごろからの男女平等、男女共同参画意識を高める	市町村の防災会議や災害対策本部など意思決定の場に女性委員・職員を増やす	女性消防団の加入促進	その他	無回答
全体	1,361 100.0	511 37.5	660 48.5	886 65.1	740 54.4	328 24.1	649 47.7	361 26.5	502 36.9	126 9.3	12 0.9	24 1.8		
年代別	女性:10・20代	81 28.4	37.0	70.4	55.6	21.0	46.9	27.2	27.2	8.6	-	1.2		
	女性:30代	111 33.3	45.9	71.2	59.5	18.9	34.2	27.9	35.1	7.2	0.9	0.9		
	女性:40代	164 32.3	37.8	68.9	54.3	25.0	39.6	22.6	34.8	9.1	0.6	-		
	女性:50代	151 35.1	41.7	71.5	54.3	25.8	44.4	23.2	37.7	9.9	2.0	1.3		
	女性:60代	181 45.9	51.9	68.0	61.3	26.0	54.1	21.5	37.0	3.9	0.6	1.7		
	女性:70歳以上	116 37.1	46.6	66.4	56.9	23.3	69.8	26.7	38.8	5.2	1.7	8.6		
	男性:10・20代	48 33.3	54.2	64.6	45.8	16.7	41.7	25.0	35.4	6.3	-	-		
	男性:30代	74 36.5	45.9	60.8	58.1	18.9	31.1	29.7	35.1	18.9	1.4	-		
	男性:40代	81 35.8	44.4	54.3	58.0	23.5	44.4	27.2	30.9	12.3	-	-		
	男性:50代	90 44.4	53.3	65.6	43.3	27.8	37.8	34.4	40.0	14.4	-	3.3		
	男性:60代	139 46.8	61.2	59.0	48.9	30.2	52.5	31.7	42.4	12.9	2.2	0.7		
	男性:70歳以上	108 35.2	66.7	55.6	50.9	25.0	63.0	29.6	42.6	7.4	-	1.9		
無回答	17 23.5	29.4	47.1	41.2	5.9	47.1	17.6	35.3	11.8	-	5.9			

第9章 慣習・しきたりについて

1. 身の回りにおける男女の役割分担

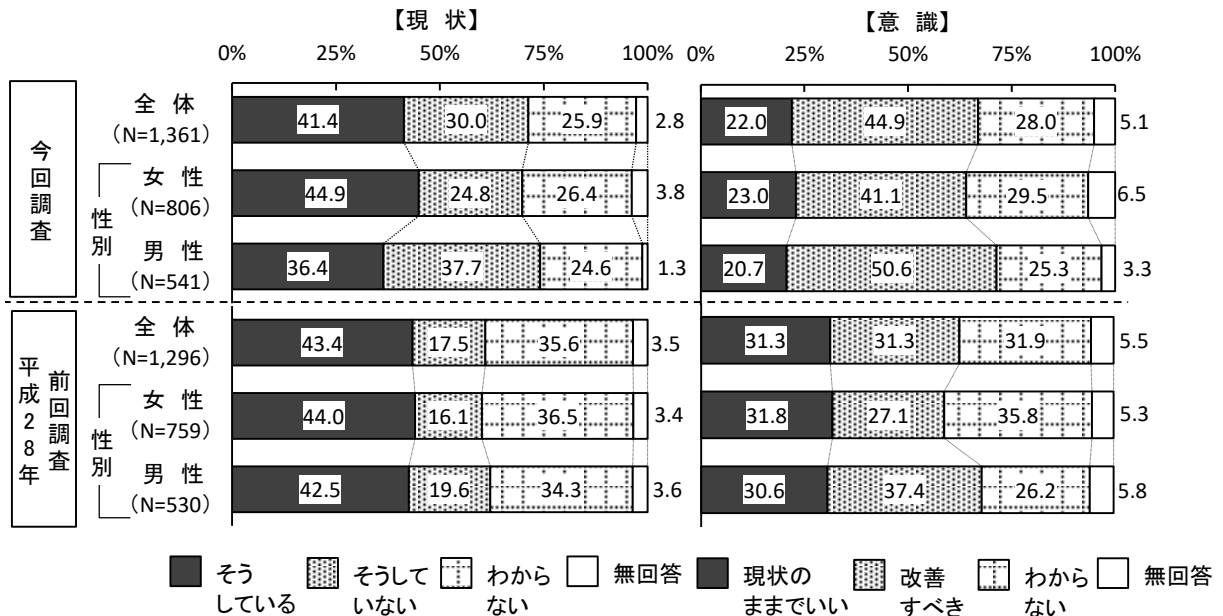
問 18. 家庭や地域における男女の役割分担についておたずねします。

(1) 現状：家庭や地域のことについて、下記の①～⑥のそれぞれについてあてはまるものを1つ選び番号に○印をつけてください。

(2) 意識：では、今後はどうすべきだと思いますか。下記の①～⑥のそれぞれについてあてはまるものを1つ選び番号に○印をつけてください。

①地域活動は男性が取り仕切る

図表9-1 地域活動は男性が取り仕切る〔全体、性別〕(前回調査比較)



身の回りのことにおける男女の役割分担について、現状と今後どうすべきかという意識をたずねた。

「地域活動は男性が取り仕切る」については、現状は「そうしている」が41.4%、「そうしていない」が30.0%となっており、男性が主導している場合が多いことがうかがえる。

性別でみると、「そうしている」(女性44.9%、男性36.4%)は女性の方が8.5ポイント高くなっており、男女でやや認識のずれがある。

今後どうすべきかの意識をみると、男性の「改善すべき」は50.6%で女性の41.1%よりも9.5ポイント高くなっており、問題意識を持っている人は男性の方が多くなっている。

前回調査と比べると、現状については「そうしている」の割合に大きな変化はないが、男女ともに「わからない」が10ポイントほど減少し、「そうしていない」が増加している。意識では、男女ともに「改善すべき」が10ポイント以上増加している。

意識を現状別で見ると、「そうしている」場合、「改善すべき」が 62.2%、「現状のまま
 でいい」は 21.1%となっている。従って、男性主導の現状を2割程度の人が肯定してい
 ることになる。

図表9-2 地域活動は男性が取り仕切る [全体、現状別]

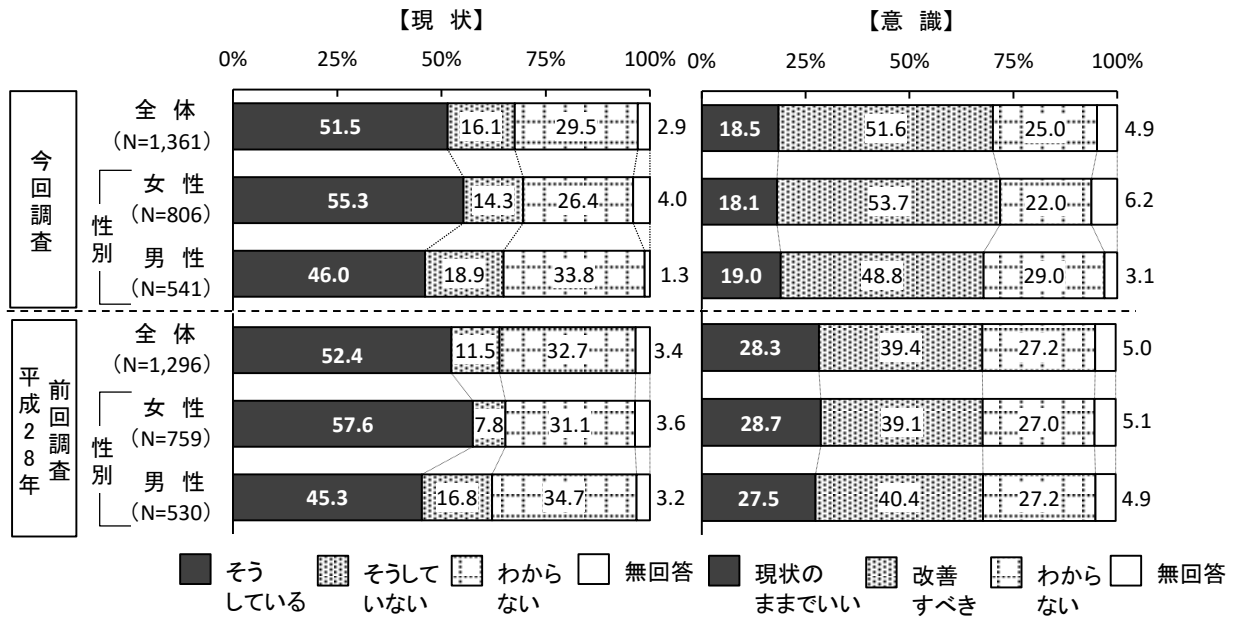
(%)

		標本数	【意識】① 地域活動は男性が取り仕切る				
			い現状 のまま で	改 善 す べ き	わ か ら な い	無 回 答	
全 体		1,361 100.0	299 22.0	611 44.9	381 28.0	70 5.1	
現 状 別	① 地域活動は男性が 取り仕切る	そうしている	563	21.1	62.2	15.3	1.4
		そうしていない	408	38.2	47.1	10.8	3.9
		わからない	352	6.0	19.3	71.3	3.4
		無回答	38	7.9	2.6	-	89.5

II 調査結果

②地域での集会の時は女性がお茶くみや後片づけをしている

図表 9-3 地域での集会の時は女性がお茶くみや後片づけをしている
[全体、性別] (前回調査比較)



「地域での集会のときは女性がお茶くみや後片づけをしている」については、現状は「そうしている」が 51.5%と半数を超えており、地域活動に関する項目の中で最も高くなっている。「そうしていない」は 16.1%で最も低い。

性別でみると、女性では「そうしている」が 55.3%で男性の 46.0 を 9.3 ポイント上回っており、この項目も男女の認識に隔たりがある。

意識をみると、男女とも「改善すべき」が 5 割前後となっており、およそ半数の人は問題を認識している。

前回調査と比べると、現状については大きな変化はみられない。意識では、男女とも「改善すべき」が約 8~15 ポイント増加している。

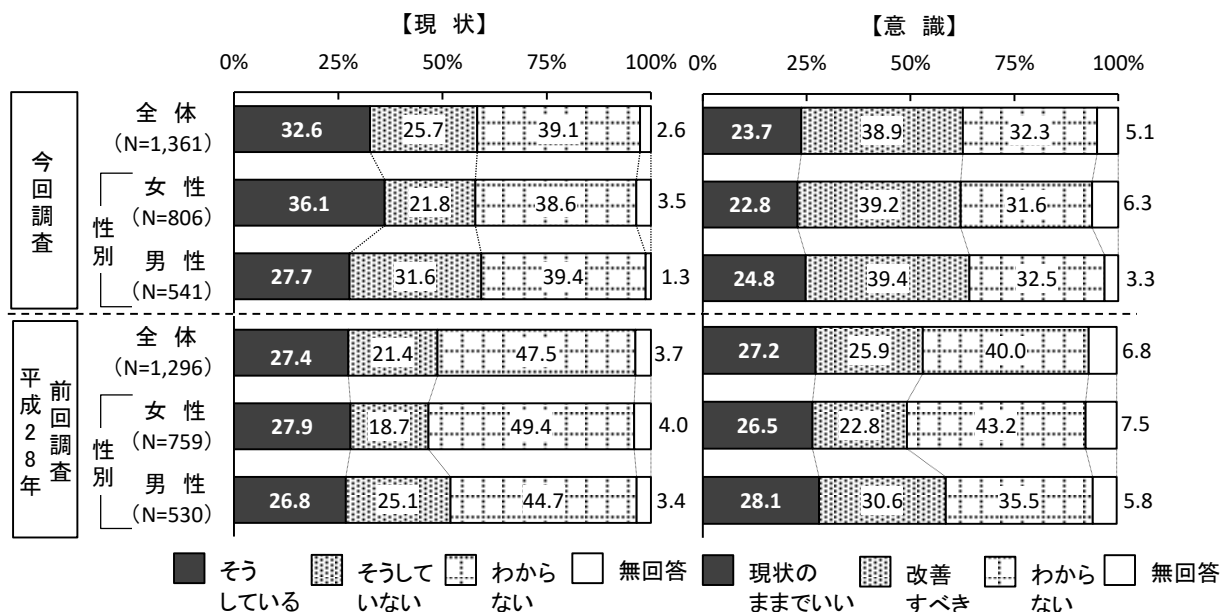
意識を現状別でみると、「そうしている」場合には「改善すべき」が 77.5%と高く、「現状のままでいい」は 13.4%と 1 割程度である。

図表 9-4 地域での集会の時は女性がお茶くみや後片づけをしている
[全体、現状別]

		標本数	【意識】② 地域での集会の時は女性がお茶くみや後片づけをしている (%)			
			現状のままでいい	改善すべき	わからない	無回答
全体		1,361	18.5	51.6	25.0	4.9
現状別	② 地域での集会の時は女性がお茶くみや後片づけをしている	701	13.4	77.5	7.7	1.4
	そうしている	219	66.2	21.9	8.2	3.7
	そうしていない	402	2.7	27.4	66.7	3.2
	わからない	39	5.1	2.6	-	92.3

③地域での集會では男性が上座に座る

図表9-5 地域での集會では男性が上座に座る [全体、性別] (前回調査比較)



「地域での集會では男性が上座に座る」について、現状は「そうしている」が32.6%、「そうしていない」が25.7%となっており、「わからない」が39.1%と高くなっている。性別で見ると、「そうしている」は女性が36.1%、男性が27.7%と8.4ポイントの差があり、この項目も男女の認識に隔たりがある。

意識については、男女ともに「改善すべき」が約4割となっている。

前回調査と比べると、現状では女性の「そうしている」が8.2ポイント増加している。意識については、「改善すべき」が女性は16.4ポイント、男性は8.8ポイント増加している。

意識を現状別で見ると、「そうしている」場合に、「改善すべき」が73.0%と高く、「現状のままでいい」は13.5%となっている。

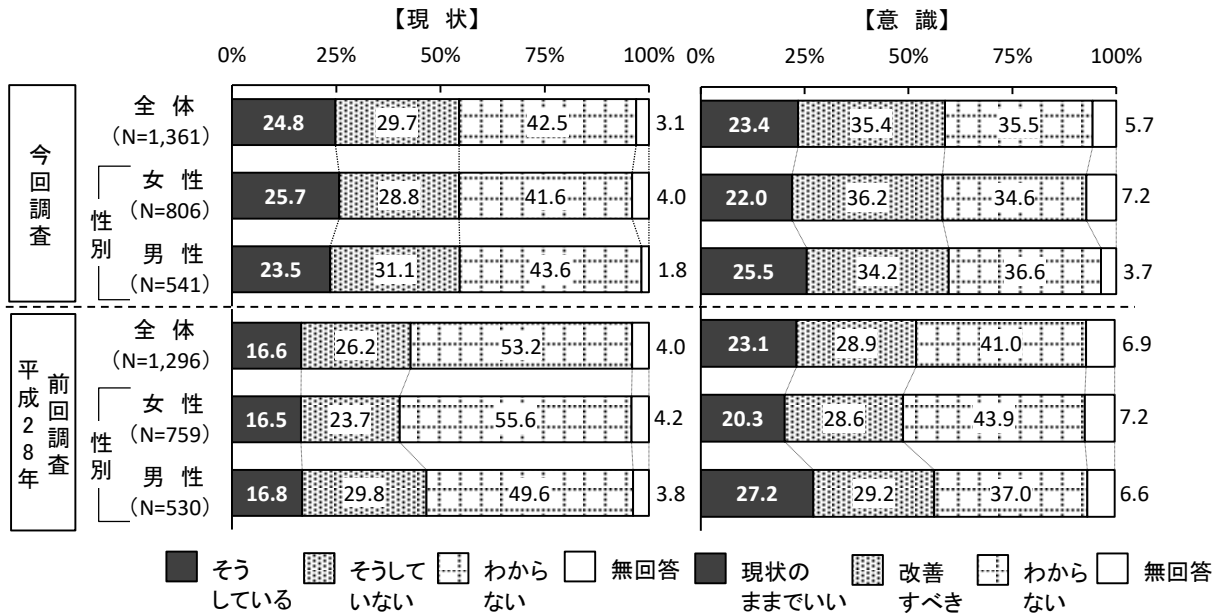
図表9-6 地域での集會では男性が上座に座る [全体、現状別]

		【意識】③ 地域での集會では男性が上座に座る (%)				
		標本数	現状のままでいい	改善すべき	わからない	無回答
全体		1,361	23.7	38.9	32.3	5.1
現状別	③ 地域での集會では男性が上座に座る	444	13.5	73.0	12.2	1.4
	そうしている	350	71.4	19.1	6.6	2.9
	そうしていない	532	2.1	25.9	68.2	3.8
	わからない	35	2.9	2.9	-	94.3

II 調査結果

④役員会での女性の発言が少ない

図表9-7 役員会での女性の発言が少ない [全体、性別] (前回調査比較)



「役員会での女性の発言が少ない」については、現状は「わからない」が42.5%と特に高くなっており、現状を把握している人が少ない事柄となっている。現状を知っている人では「そうしている」(24.8%)と「そうしていない」(29.7%)が二分される状況となっている。

性別で見ると、この項目では男女で大きな差はみられない。

意識については、「改善すべき」が35.4%で、「現状のままでいい」の23.4%を上回っている。

前回調査と比べると、現状については男女とも「わからない」が6~14ポイント減少し、「そうしている」が約7~9ポイント増加している。意識については、「改善すべき」が女性は7.6ポイント、男性は5ポイント増加している。

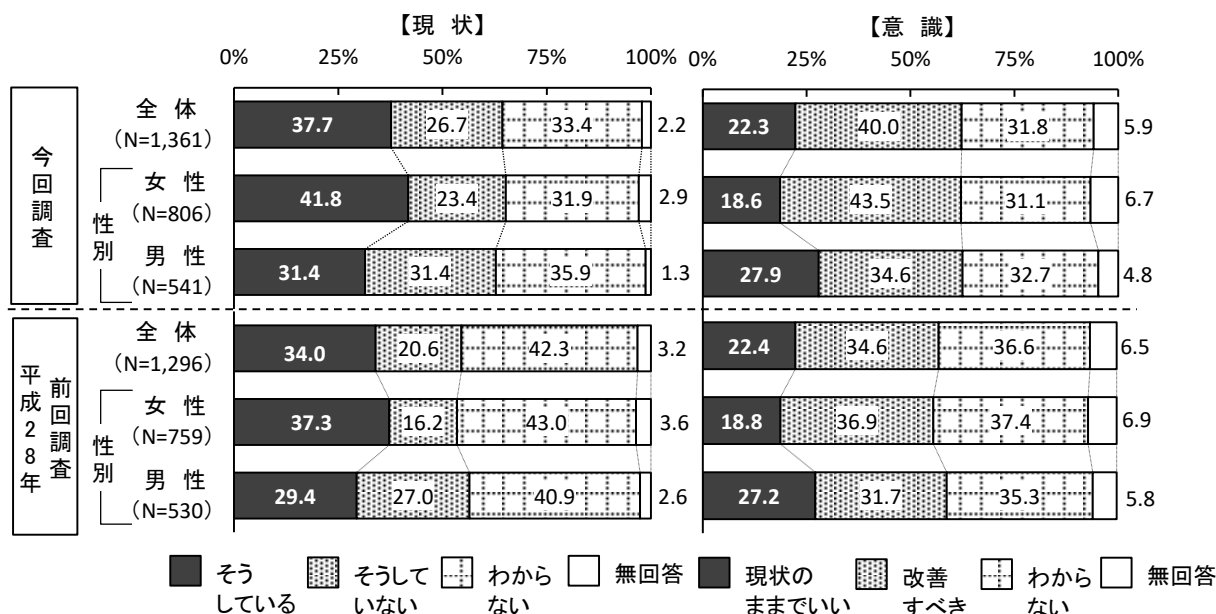
意識を現状別で見ると、「そうしている」場合、「改善すべき」が86.1%と大部分を占めており、役員会での女性の発言が少ない現状を知っている人の多くが問題を感じている。

図表9-8 役員会での女性の発言が少ない [全体、現状別]

		現状別	標本数	【意識】④ 役員会での女性の発言が少ない (%)			
				い現状のままで	改善すべき	わからない	無回答
全体			1,361 100.0	318 23.4	482 35.4	483 35.5	78 5.7
現状別	④ 役員会での女性の発言が少ない	そうしている	337	5.3	86.1	7.4	1.2
		そうしてない	404	72.3	16.8	7.4	3.5
		わからない	578	1.2	20.9	73.9	4.0
		無回答	42	2.4	7.1	2.4	88.1

⑤自治委員（隣組長など）の登録は男性（夫）だが、会議の出席は女性（妻）が多い

図表9-9 自治委員（隣組長など）の登録は男性（夫）だが、会議の出席は女性（妻）が多い [全体、性別] (前回調査比較)



「自治委員（隣組長など）の登録は男性（夫）だが、会議の出席は女性（妻）が多い」については、現状は「そうしている」が37.7%で、「そうしていない」の26.7%よりも11ポイント高くなっている。

性別で見ると、「そうしている」（女性41.8%、男性31.4%）は女性の方が10.4ポイント高くなっており、この項目でも認識に隔たりがある。

意識では「改善すべき」が女性で43.5%、男性で34.6%となっており、男女の差が8.9ポイントとやや大きい。

前回調査と比べると、現状については男女とも「わからない」が約5～11ポイント減少し、「そうしている」が約2～5ポイント、「そうしていない」が約4～7ポイントとともに増加している。意識についても、「わからない」が約3～6ポイント減少し「改善すべき」が約3～7ポイント増加している。

II 調査結果

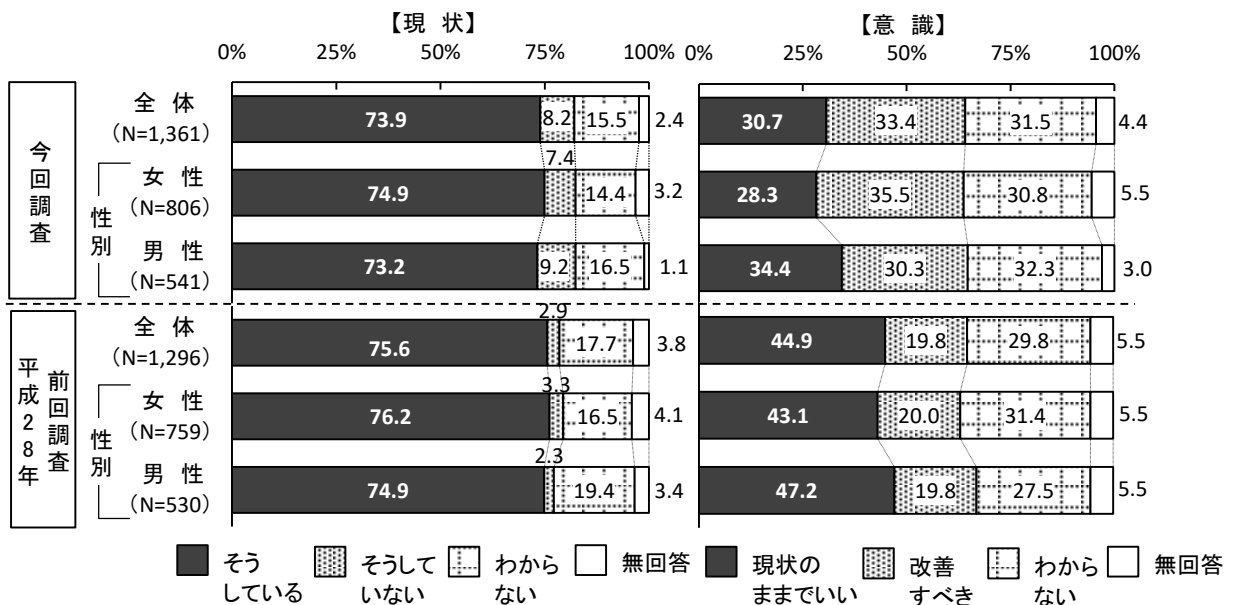
意識を現状別でみると、「そうしている」場合には「改善すべき」は 77.6%となっており、不平等な現状を把握している人の多くは問題があると感じている。

図表 9-10 自治委員（隣組長など）の登録は男性（夫）だが、会議の出席は女性（妻）が出ることが多い [全体、現状別]

		(%)				
		標本数	【意識】⑤ 自治委員（隣組長など）の登録は男性（夫）だが、会議の出席は女性（妻）が出ることが多い			
			現状のまま	改善すべき	わからない	無回答
全体		1,361 100.0	303 22.3	545 40.0	433 31.8	80 5.9
現状別	⑤ 自治委員（隣組長など）の登録は男性（夫）だが、会議の出席は女性（妻）が出ることが多い					
	そうしている	513	12.3	77.6	8.0	2.1
	そうしていない	363	64.5	19.3	12.4	3.9
	わからない	455	1.1	16.9	76.3	5.7
	無回答	30	3.3	-	-	96.7

⑥結婚の際、氏は男性側とする

図表 9-11 結婚の際、氏は男性側とする [全体、性別] (前回調査比較)



「結婚の際、氏は男性側とする」という慣習については、現状は「そうしている」が 73.9%と高く、「そうしていない」は 8.2%と 1 割に満たない。性別でも同様の結果となっており、大差はみられない。

意識をみると、「現状のままでいい」と「改善すべき」、「わからない」がともに3割台で拮抗しているが、性別でみると、女性は「改善すべき」が35.5%で最も高く、男性は「現状のままでいい」が34.4%で最も高くなっている。

前回調査と比べると、現状では「そうしていない」が女性は4.1ポイント、男性は6.9ポイント増加している。意識については、「改善すべき」が男女とも約11~16ポイント増加している。

意識を現状別でみると、「そうしている」場合には「改善すべき」が36.3%で「そうしていない」場合の54.5%よりも低くなっている。

図表9-12 結婚の際、氏は男性側とする [全体、現状別]

(%)

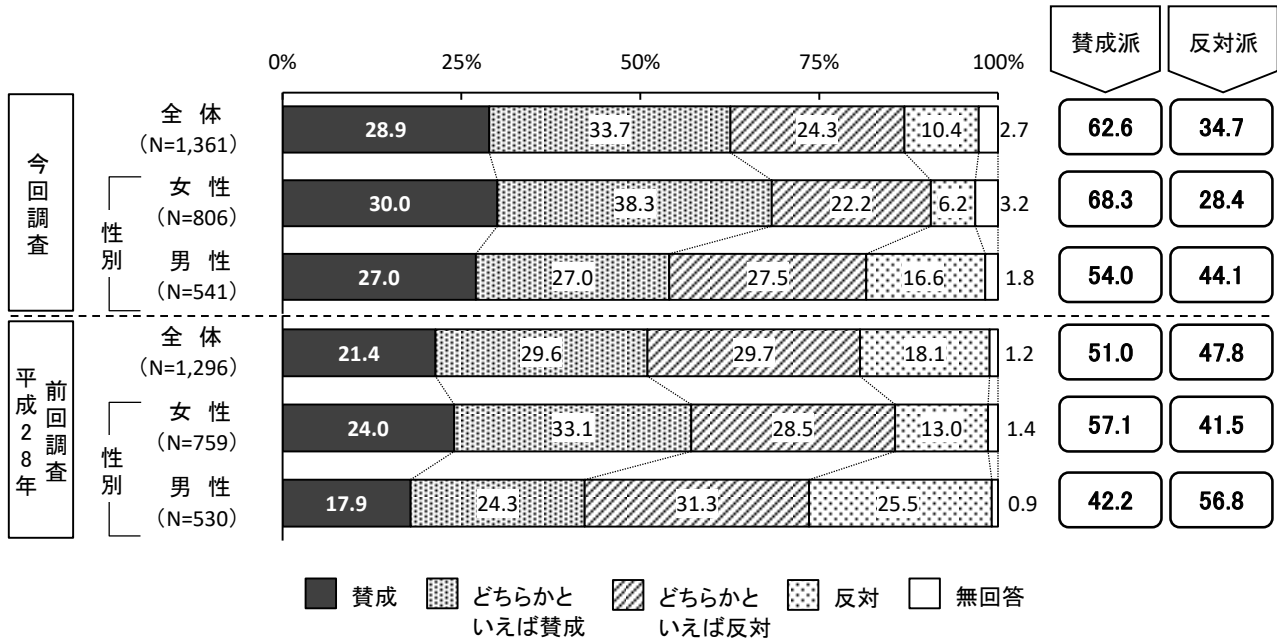
			標 本 数	【意識】⑥ 結婚の際、氏は男性側とする			
				い現 い状 の ま ま で	改 善 す べ き	わ か ら な い	無 回 答
全 体			1,361 100.0	418 30.7	454 33.4	429 31.5	60 4.4
現 状 別	⑥ 結婚の際、 氏は男性側とする	そうしている	1,006	38.1	36.3	23.7	2.0
		そうしていない	112	24.1	54.5	17.9	3.6
		わからない	211	3.3	12.8	81.0	2.8
		無回答	32	3.1	3.1	-	93.8

Ⅱ 調査結果

2. 選択的夫婦別姓について

問 19. 「選択的夫婦別姓」について、あなたはどのように思いますか。あてはまるものを1つ選び数字に○印をつけてください。

図表 9-13 選択的夫婦別姓について [全体、性別] (前回調査比較)



選択的夫婦別姓制度の導入についての考えをたずねたところ、「賛成」が 28.9%、「どちらかといえば賛成」が 33.7% でこれらを合わせた『賛成派』は 62.6% となっている。一方、「反対」は 10.4%、「どちらかといえば反対」は 24.3% でこれらを合わせた『反対派』は 34.7% となっている。

性別でみると、『賛成派』は女性が 68.3%、男性が 54.0% で女性の方が 14.3 ポイント高く、『反対派』は女性が 28.4%、男性が 44.1% と男性の方が 15.7 ポイント高くなっている。

前回調査と比べると、男女ともに『賛成派』が約 11~12 ポイント増加しており、選択的夫婦別姓制度の必要性の理解が進んでいる。

年代別でみると、男性では年代の低い層で『賛成派』の割合が高いという傾向が顕著で、最も高い10・20代の79.2%と、最も低い70歳以上の43.6%では35.6ポイントの差がある。女性では、30代以下で『賛成派』が8割台と高い。

配偶関係別でみると、男女とも結婚していない場合に『賛成派』（女性83.6%、男性65.9%）の割合が最も高くなっている。また女性では、配偶者・パートナーがいる共働きの場合に『賛成派』が73.6%と高い。

図表9-14 選択的夫婦別姓について〔全体、年代別、配偶関係別〕

(%)

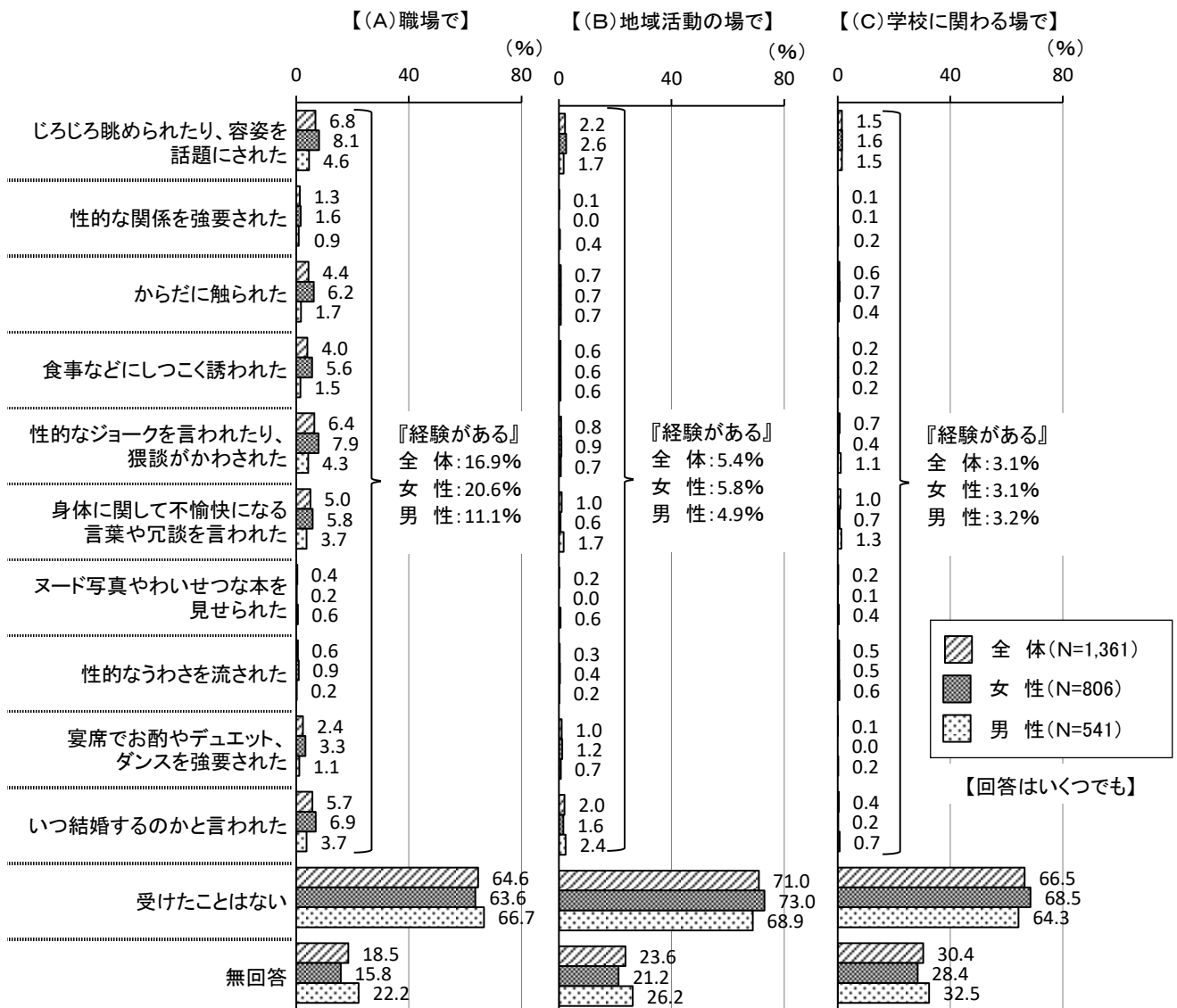
		標本数	賛成	いど えち ばら 賛か 成と	いど えち ばら 反か 対と	反対	無 回 答	『賛 成 派』	『反 対 派』
全体		1,361 100.0	393 28.9	458 33.7	331 24.3	142 10.4	37 2.7	851 62.6	473 34.7
年代別	女性:10・20代	81	44.4	37.0	14.8	3.7	-	81.4	18.5
	女性:30代	111	41.4	44.1	11.7	-	2.7	85.5	11.7
	女性:40代	164	42.7	39.6	12.8	4.3	0.6	82.3	17.1
	女性:50代	151	27.8	41.1	22.5	4.6	4.0	68.9	27.1
	女性:60代	181	17.1	38.7	30.4	11.6	2.2	55.8	42.0
	女性:70歳以上	116	14.7	27.6	37.9	10.3	9.5	42.3	48.2
	男性:10・20代	48	54.2	25.0	10.4	10.4	-	79.2	20.8
	男性:30代	74	31.1	32.4	21.6	14.9	-	63.5	36.5
	男性:40代	81	34.6	19.8	25.9	18.5	1.2	54.4	44.4
	男性:50代	90	23.3	34.4	28.9	8.9	4.4	57.7	37.8
	男性:60代	139	21.6	23.7	31.7	22.3	0.7	45.3	54.0
	男性:70歳以上	108	16.7	26.9	34.3	18.5	3.7	43.6	52.8
	無回答	17	29.4	29.4	17.6	11.8	11.8	58.8	29.4
配偶関係別	女性:配偶者・パートナーがいる (共働きである)	318	34.3	39.3	19.2	4.7	2.5	73.6	23.9
	女性:配偶者・パートナーがいる (共働きでない)	269	23.0	36.8	28.3	10.4	1.5	59.8	38.7
	女性:配偶者はいない(離別)	45	28.9	37.8	28.9	2.2	2.2	66.7	31.1
	女性:配偶者はいない(死別)	40	17.5	25.0	25.0	7.5	25.0	42.5	32.5
	女性:結婚していない	128	39.1	44.5	14.1	0.8	1.6	83.6	14.9
	男性:配偶者・パートナーがいる (共働きである)	203	27.1	26.6	29.6	15.3	1.5	53.7	44.9
	男性:配偶者・パートナーがいる (共働きでない)	212	20.3	29.7	28.3	19.8	1.9	50.0	48.1
	男性:配偶者はいない(離別)	26	26.9	26.9	26.9	19.2	-	53.8	46.1
	男性:配偶者はいない(死別)	10	20.0	20.0	50.0	10.0	-	40.0	60.0
	男性:結婚していない	88	44.3	21.6	19.3	12.5	2.3	65.9	31.8
		無回答	22	27.3	22.7	18.2	18.2	13.6	50.0

第 10 章 暴力などの人権侵害について

1. セクシュアル・ハラスメントの経験

問 20. あなたは、この5年間に、(A) 職場、(B) 地域活動の場、(C) 学校に関わる場で①～⑩のようなセクシュアル・ハラスメント（他の者を不快にさせる性的な言動）を受けたことがありますか。経験のあるものをいくつでも選び番号に○印をつけてください。

図表 10-1 ハラスメントの経験 [全体、性別]



この5年間に「職場」「地域活動の場」「学校に関わる場」でセクシュアル・ハラスメントを受けたことがあるかどうかたずねた。

「職場」では、「受けたことはない」(64.6%)と無回答(18.5%)を除く16.9%の人がセクハラを経験している。具体的な内容として、「じろじろ眺められたり、容姿を話題にされた」(6.8%)、「性的なジョークをいわれたり、猥談がかわされた」(6.4%)、「いつ結婚するのかわ言われた」(5.7%)、「身体に関して不愉快になる言葉や冗談を言われた」(5.0%)、「からだに触られた」(4.4%)、「食事などにしつこく誘われた」(4.0%)が比較的高い割合となっている。

性別でみると、どれか一つでもセクハラを受けた経験があると回答した人の割合は、女性が20.6%、男性が11.1%となっている。具体的な内容については、ほとんどの項目で女性の方が男性よりも高い割合となっており、職場でのセクハラ被害は女性の方が多くなっている。

年代別でみると、どれか一つでもセクハラを受けた経験があると回答した人の割合は、女性では年代が低いほど高くなっており、10・20代と30代では3割前後の人が経験している。男性では、経験がある割合が40代で19.7%と最も高くなっている。具体的な内容をみると、女性の10・20代では「じろじろ眺められたり、容姿を話題にされた」(16.0%)や「いつ結婚するのかわ言われた」(14.8%)の割合が特に高く、30代では「性的なジョークをいわれたり、猥談がかわされた」(19.8%)や「じろじろ眺められたり、容姿を話題にされた」(15.3%)の割合が高くなっている。

図表 10-2 「職場」でのセクシュアル・ハラスメントの経験 [全体、年代別]

(%)

		標本数	【(A)職場で】											無回答	『経験がある』
			容姿を話題にされたり、じろじろ眺められたり、性的な関係を強要された	からだに触られた	食事などにしつこく誘われた	性的なジョークを言われた	性的なジョークを言われた	身体に関する言葉や冗談を言われた	本人を見せられた	性的なうわさを流された	ト、宴席でお酌やダンスを強要された	いつ結婚するのかわ言われた	受けたことはない		
全体		1,361 100.0	93 6.8	18 1.3	60 4.4	54 4.0	87 6.4	68 5.0	5 0.4	8 0.6	33 2.4	78 5.7	879 64.6	252 18.5	16.9
年代別	女性:10・20代	81	16.0	6.2	13.6	11.1	8.6	9.9	-	2.5	1.2	14.8	59.3	6.2	34.5
	女性:30代	111	15.3	1.8	9.9	10.8	19.8	9.0	0.9	2.7	3.6	12.6	64.9	5.4	29.7
	女性:40代	164	9.1	0.6	7.9	3.7	8.5	8.5	-	0.6	3.7	9.1	67.1	7.9	25.0
	女性:50代	151	7.9	2.0	5.3	4.6	7.9	6.6	-	0.7	5.3	5.3	63.6	15.9	20.5
	女性:60代	181	2.2	1.1	2.8	4.4	2.8	1.1	0.6	-	3.3	2.2	66.9	20.4	12.7
	女性:70歳以上	116	3.4	-	0.9	1.7	2.6	2.6	-	-	1.7	2.6	56.9	35.3	7.8
	男性:10・20代	48	6.3	2.1	-	-	4.2	2.1	-	2.1	2.1	6.3	70.8	18.8	10.4
	男性:30代	74	6.8	1.4	2.7	4.1	6.8	2.7	-	-	-	8.1	74.3	8.1	17.6
	男性:40代	81	8.6	1.2	2.5	3.7	6.2	9.9	1.2	-	1.2	6.2	70.4	9.9	19.7
	男性:50代	90	6.7	-	2.2	1.1	4.4	4.4	1.1	-	2.2	4.4	68.9	18.9	12.2
男性:60代	139	2.9	0.7	-	-	2.2	2.9	-	-	1.4	1.4	68.3	24.5	7.2	
男性:70歳以上	108	-	0.9	2.8	0.9	3.7	0.9	0.9	-	-	-	53.7	41.7	4.6	
無回答		17	17.6	-	11.8	11.8	5.9	5.9	-	-	-	11.8	29.4	41.2	29.4

II 調査結果

「地域活動の場」では、どれか一つでもセクハラを受けた経験があると回答した人の割合は5.4%となっている。

性別でみると、被害経験のある割合は、女性が5.8%、男性が4.9%で大きな差はない。具体的な内容も男女で共通しており、「じろじろ眺められたり、容姿を話題にされた」と「いつ結婚するのかわかれた」がともに2%前後となっている。

年代別でみると、男女ともに10・20代で被害経験が約8%と最も高く、次いで、女性は60代(7.7%)、男性は40代(6.2%)となっている。

図表 10-3 「地域活動」でのセクシュアル・ハラスメントの経験 [全体、年代別]

(%)

	標本数	【(B)地域活動の場で】												『経験がある』	
		容姿を話題にされた	じろじろ眺められたり、性的な関係を強要された	からだに触られた	食事などにしつこく誘われた	性的なジョークを言われた	性的なジョークを言われた	身体的な言葉や冗談を言われた	身体に関する不快な言葉や冗談を言われた	本を見せられた	スマートフォンやカメラを向けられた	性的なうわさを流された	宴会、ダンスを強要された		いつ結婚するのかわかれた
全体	1,361 100.0	30 2.2	2 0.1	10 0.7	8 0.6	11 0.8	14 1.0	3 0.2	4 0.3	14 1.0	27 2.0	966 71.0	321 23.6	5.4	
年代別	女性:10・20代	81	2.5	-	1.2	-	-	-	-	-	-	4.9	71.6	19.8	8.6
	女性:30代	111	2.7	-	-	-	0.9	0.9	-	-	0.9	3.6	74.8	18.0	7.2
	女性:40代	164	1.2	-	0.6	1.2	-	-	-	-	0.6	1.2	80.5	16.5	3.0
	女性:50代	151	3.3	-	1.3	1.3	1.3	0.7	-	1.3	2.0	0.7	74.2	20.5	5.3
	女性:60代	181	3.9	-	1.1	-	1.7	1.7	-	0.6	1.1	1.1	69.1	23.2	7.7
	女性:70歳以上	116	1.7	-	-	-	0.9	-	-	-	1.7	-	67.2	29.3	3.5
	男性:10・20代	48	2.1	-	-	-	-	-	-	-	4.2	6.3	72.9	18.8	8.3
	男性:30代	74	-	-	-	-	-	1.4	-	-	-	2.7	77.0	20.3	2.7
	男性:40代	81	2.5	1.2	1.2	1.2	1.2	2.5	1.2	-	1.2	3.7	76.5	17.3	6.2
	男性:50代	90	1.1	1.1	2.2	1.1	2.2	3.3	1.1	1.1	1.1	4.4	68.9	25.6	5.5
	男性:60代	139	2.2	-	-	-	-	0.7	-	-	-	0.7	69.1	27.3	3.6
男性:70歳以上	108	1.9	-	0.9	0.9	0.9	1.9	0.9	-	-	-	56.5	38.9	4.6	
無回答	17	-	-	-	5.9	-	-	-	-	-	5.9	29.4	58.8	11.8	

「学校に関わる場」でのセクハラ被害の経験は3.1%である。職場、地域活動の場と比べて被害経験が低くなっているが、この5年間についてたずねているため、この間に教育の場に関わっていない人がいたことも考えられる。

性別でみると、女性が3.1%、男性が3.2%とほぼ同程度になっている。具体的には男女ともに「じろじろ眺められたり、容姿を話題にされた」が最も高い割合となっている。

年代別でみると、被害経験は男女とも10・20代が特に高く、女性は19.8%、男性は12.5%となっている。具体的な内容は、女性では「じろじろ眺められたり、容姿を話題にされた」が11.1%で最も高く、次いで「身体に関して不愉快になる言葉や冗談を言われた」と「性的なうわさを流された」が同率の4.9%となっている。男性では、「身体に関して不愉快になる言葉や冗談を言われた」が8.3%で最も高くなっている。

図表 10-4 「学校に関わる場」でのセクシュアル・ハラスメントの経験 [全体、年代別]

(%)

		標本数	【(C)学校に関わる場で】											『経験がある』	
			容姿を話題にされたり、じろじろ眺められたり、	性的な関係を強要された	からだに触られた	食事などにしつこく誘われた	性的なジョークを言われた	身体的な冗談を言われた	身体に関する言葉や冗談を言われた	本を見せられた	性的なうわさを流された	性的なうわさを流された	ト、宴席でお酌やデュエツ		れいつ結婚するのかわからない
全体		1,361 100.0	21 1.5	2 0.1	8 0.6	3 0.2	9 0.7	13 1.0	3 0.2	7 0.5	1 0.1	6 0.4	905 66.5	414 30.4	3.1
年代別	女性:10・20代	81	11.1	1.2	2.5	2.5	3.7	4.9	-	4.9	-	1.2	65.4	14.8	19.8
	女性:30代	111	0.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	75.7	23.4	0.9
	女性:40代	164	0.6	-	0.6	-	-	0.6	0.6	-	-	-	79.3	19.5	1.2
	女性:50代	151	1.3	-	1.3	-	-	-	-	-	-	-	70.2	27.8	2.0
	女性:60代	181	-	-	-	-	-	0.6	-	-	-	0.6	65.2	33.7	1.1
	女性:70歳以上	116	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	52.6	47.4	-
	男性:10・20代	48	4.2	-	-	-	4.2	8.3	2.1	4.2	-	2.1	72.9	14.6	12.5
	男性:30代	74	1.4	-	-	-	1.4	1.4	-	1.4	-	-	75.7	20.3	4.0
	男性:40代	81	2.5	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	-	1.2	1.2	75.3	22.2	2.5
	男性:50代	90	1.1	-	1.1	-	2.2	1.1	-	-	-	2.2	64.4	31.1	4.5
	男性:60代	139	0.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	66.2	33.1	0.7
男性:70歳以上	108	0.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	42.6	56.5	0.9	
無回答		17	-	-	5.9	-	-	-	-	-	-	29.4	64.7	5.9	

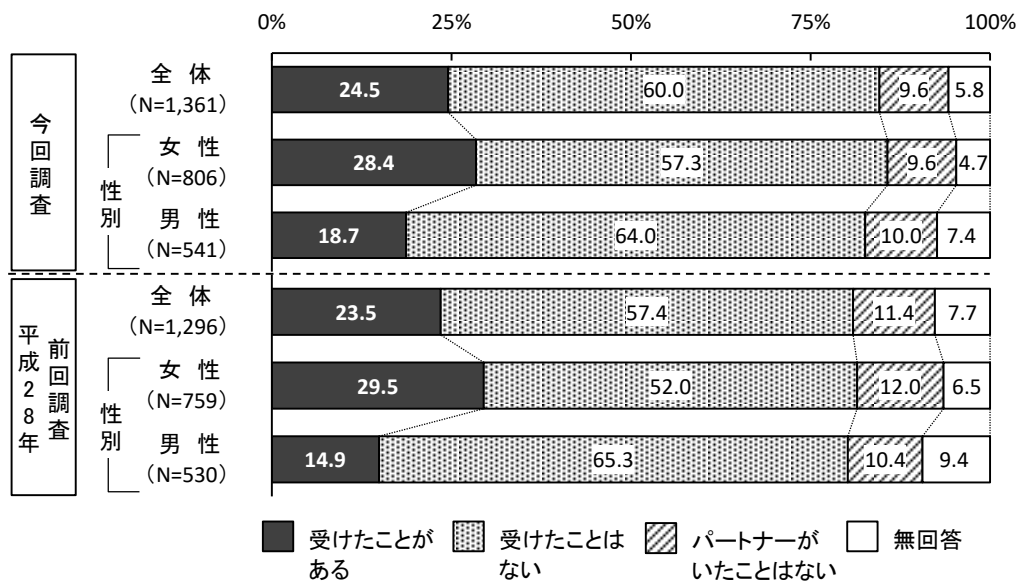
II 調査結果

2. 配偶者・パートナーからの暴力について

(1) 配偶者・パートナーからの暴力の経験

問 21. あなたは、この5年間に配偶者やパートナー（夫・妻・恋人）から下記のような暴力を受けたことがありますか。①～⑮のそれぞれについて、あてはまるものを1つ選び番号に○印をつけてください。パートナーがいたことがない場合は、⑯を選び番号に○印をつけてください。

図表 10-5 暴力の経験（まとめ）[全体、性別]（前回調査比較）



この5年間に配偶者やパートナー（夫・妻・恋人）から精神的暴力、身体的暴力、性的暴力、経済的暴力、社会的暴力である15種類の暴力があったかどうかたずねた。「何度もあった」と「1、2度あった」のいずれかが一つでも「受けたことがある」割合は、全体では24.5%、女性が28.4%、男性が18.7%となっている。

前回調査と比較すると、「受けたことがある」の割合は、女性はほぼ同じ、男性は3.8ポイント増加している。

年代別でみると、女性では「受けたことがある」は50代で34.4%と最も高く、その前後の年代でも約3割となっている。男性も50代が最も高く26.7%となっている。

配偶関係別でみると、「受けたことがある」は女性の配偶者はいない（離別）の場合に44.4%と非常に高くなっている。また、配偶者がいる場合には、共働きとそうでない場合いずれも3割を超えており、既婚女性の3割以上が暴力被害を経験している。男性では、死別あるいは離別の場合に「受けたことがある」が約3割と高い。

図表10-6 暴力の経験（まとめ）[全体、年代別、配偶関係別]

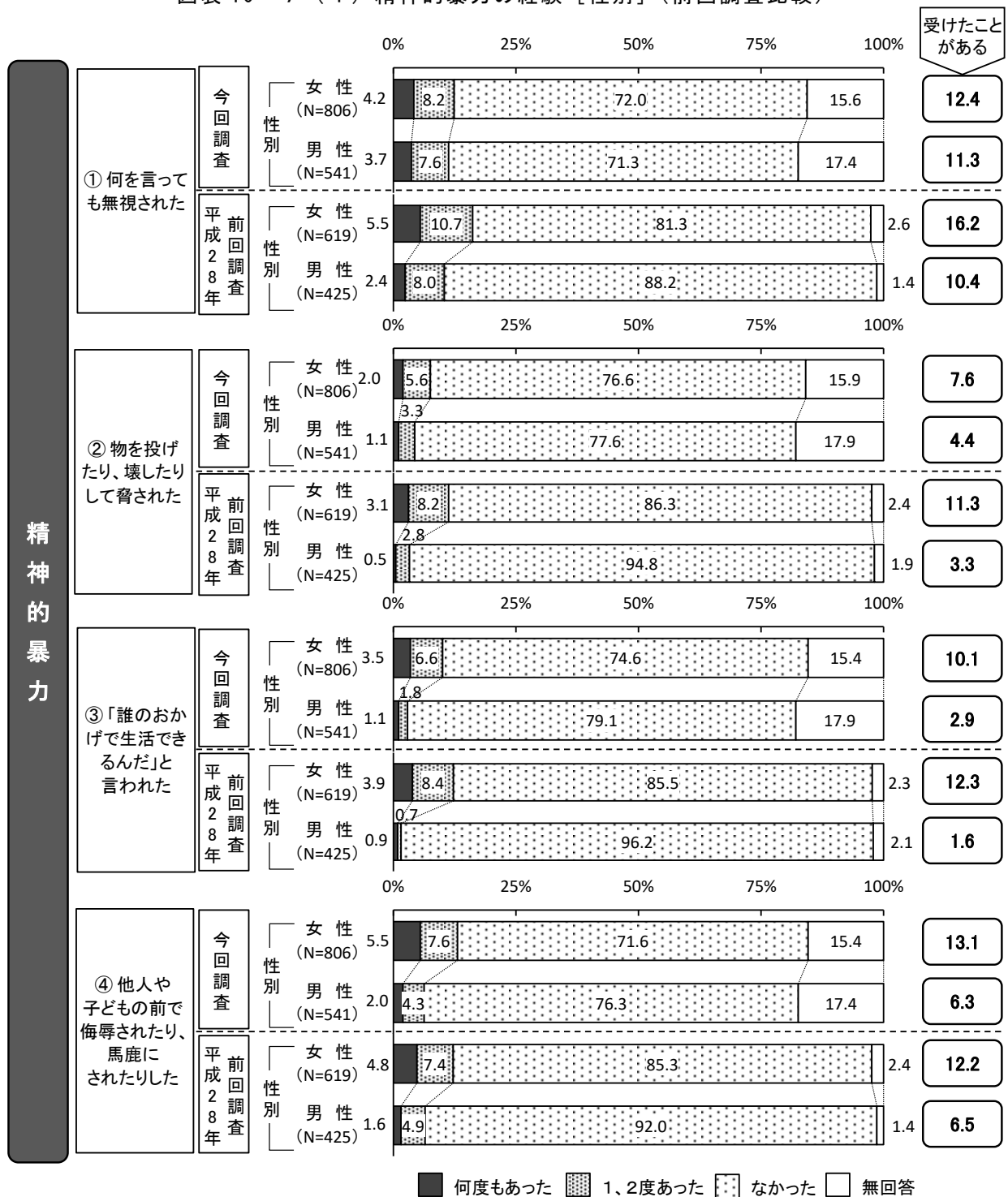
			(%)			
		標本数	が受けたこと	は受けたこと	はがパートナー	無回答
					いたこと	
					なかったこと	
全体		1,361	334	817	131	79
		100.0	24.5	60.0	9.6	5.8
年代別	女性:10・20代	81	21.0	43.2	34.6	1.2
	女性:30代	111	28.8	62.2	9.0	-
	女性:40代	164	29.3	65.2	3.7	1.8
	女性:50代	151	34.4	53.0	8.6	4.0
	女性:60代	181	30.4	56.9	7.2	5.5
	女性:70歳以上	116	20.7	57.8	6.0	15.5
	男性:10・20代	48	18.8	37.5	37.5	6.3
	男性:30代	74	20.3	62.2	16.2	1.4
	男性:40代	81	23.5	65.4	8.6	2.5
	男性:50代	90	26.7	58.9	11.1	3.3
	男性:60代	139	10.8	76.3	3.6	9.4
	男性:70歳以上	108	17.6	63.9	1.9	16.7
	無回答	17	29.4	64.7	-	5.9
配偶関係別	女性:配偶者・パートナーがいる(共働きである)	318	31.1	67.0	-	1.9
	女性:配偶者・パートナーがいる(共働きでない)	269	35.3	60.2	-	4.5
	女性:配偶者はいない(離別)	45	44.4	15.6	24.4	15.6
	女性:配偶者はいない(死別)	40	10.0	52.5	22.5	15.0
	女性:結婚していない	128	7.8	43.8	43.8	4.7
	男性:配偶者・パートナーがいる(共働きである)	203	22.7	73.4	-	3.9
	男性:配偶者・パートナーがいる(共働きでない)	212	17.9	72.2	0.5	9.4
	男性:配偶者はいない(離別)	26	26.9	42.3	23.1	7.7
	男性:配偶者はいない(死別)	10	30.0	30.0	-	40.0
	男性:結婚していない	88	8.0	33.0	53.4	5.7
	無回答	22	22.7	59.1	4.5	13.6

II 調査結果

それぞれの暴力について「何度もあった」と「1、2度あった」を合わせた『受けたことがある』人の割合をみると、「精神的暴力」に該当する4つについては、他の種類の暴力と比べて経験率が高く、女性ではいずれの暴力も1割前後ある。女性で最も高いのは、「他人や子どもの前で侮辱されたり、馬鹿にされたりした」で13.1%、次いで「何を言っても無視された」が12.4%となっている。男性では「何を言っても無視された」が11.3%で最も高い。

前回調査と比べると、「他人や子どもの前で侮辱されたり、馬鹿にされたりした」はほとんど変化しておらず、その他の3つの暴力については、女性は若干減少し、男性は若干増加している。

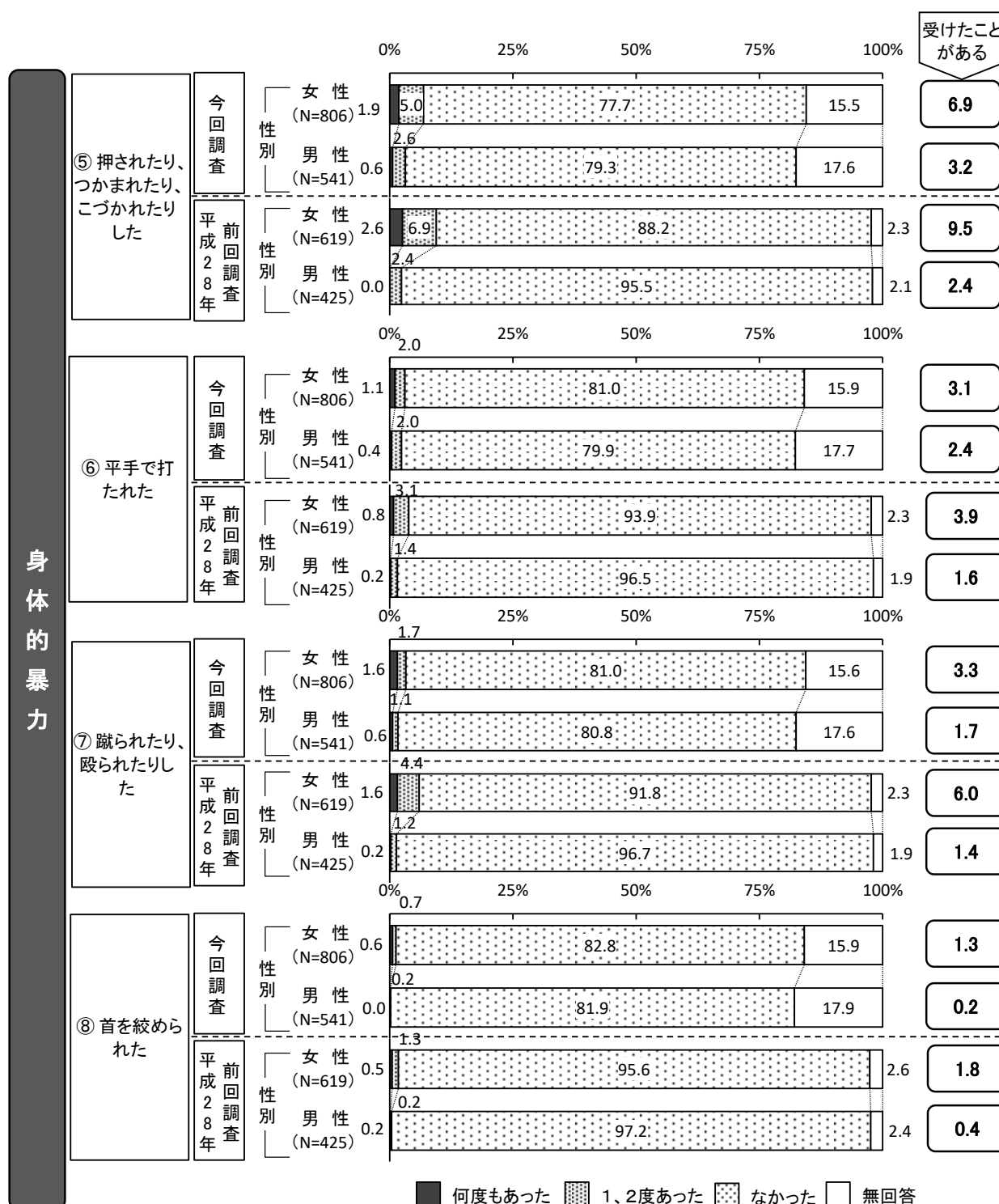
図表 10-7 (1) 精神的暴力の経験 [性別] (前回調査比較)



「身体的暴力」に分類される4つについては、女性の被害経験が最も高いのが「押されたり、つかまれたり、こぶかれたりした」で6.9%、次いで「蹴られたり、殴られたりした」が3.3%、「平手で打たれた」が3.1%となっている。男性では、「押されたり、つかまれたり、こぶかれたりした」の被害経験が3.2%で最も高く、次いで「平手で打たれた」が2.4%となっている。

前回調査と比べると、全体的に大きな変化はみられないが、女性で「押されたり、つかまれたり、こぶかれたりした」が2.6ポイント、「蹴られたり、殴られたりした」が2.7ポイント減少している。

図表 10-7 (2) 身体的暴力の経験 [性別] (前回調査比較)



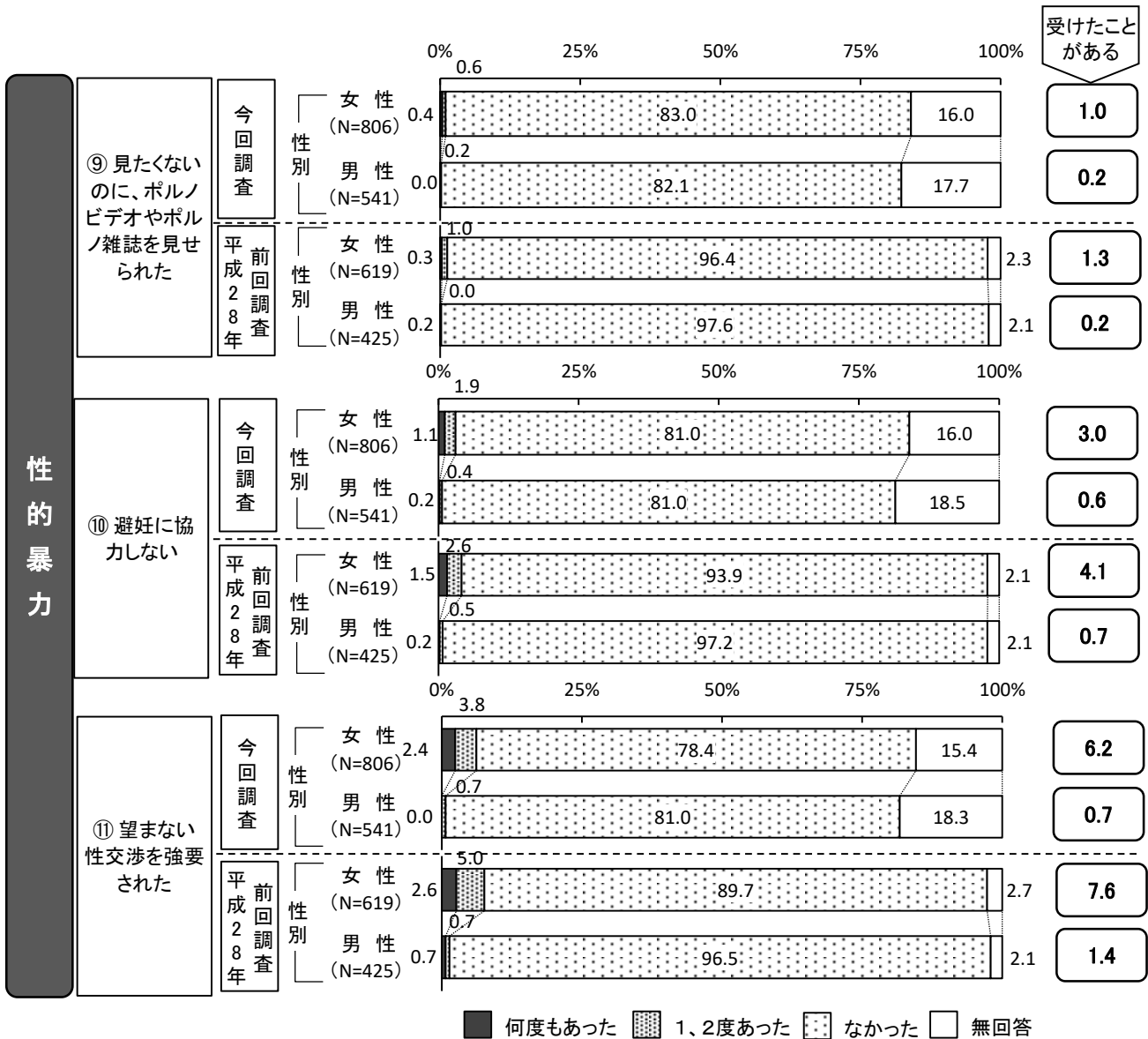
■ 何度もあった ▨ 1、2度あった □ なかった □ 無回答

II 調査結果

「性的暴力」に該当する3つの暴力については、女性の被害経験が最も高いのは「望まない性交渉を強要された」で6.2%、次いで「避妊に協力しない」が3.0%となっている。男性は、いずれの項目も1%未満となっている。

前回調査と比べると、いずれの項目も同じような結果となっている。

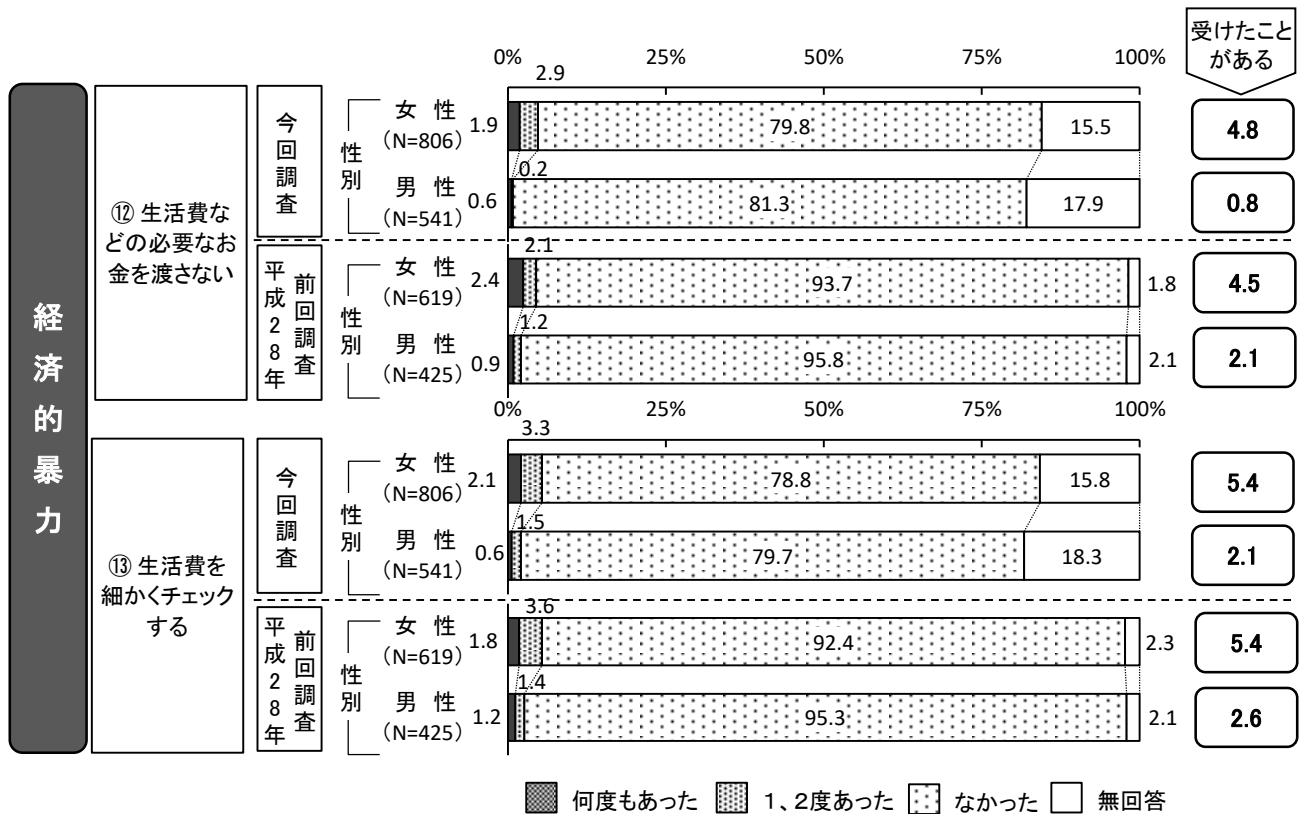
図表 10-7 (3) 性的暴力の経験 [性別] (前回調査比較)



「経済的暴力」に該当する「生活費を細かくチェックする」と「生活費などの必要なお金を渡さない」の2つについては、女性はともに約5%、男性は1~2%程度の経験率となっている。

前回調査と比べてもあまり大きな変化はみられない。

図表 10-7 (4) 経済的暴力の経験 [性別] (前回調査比較)

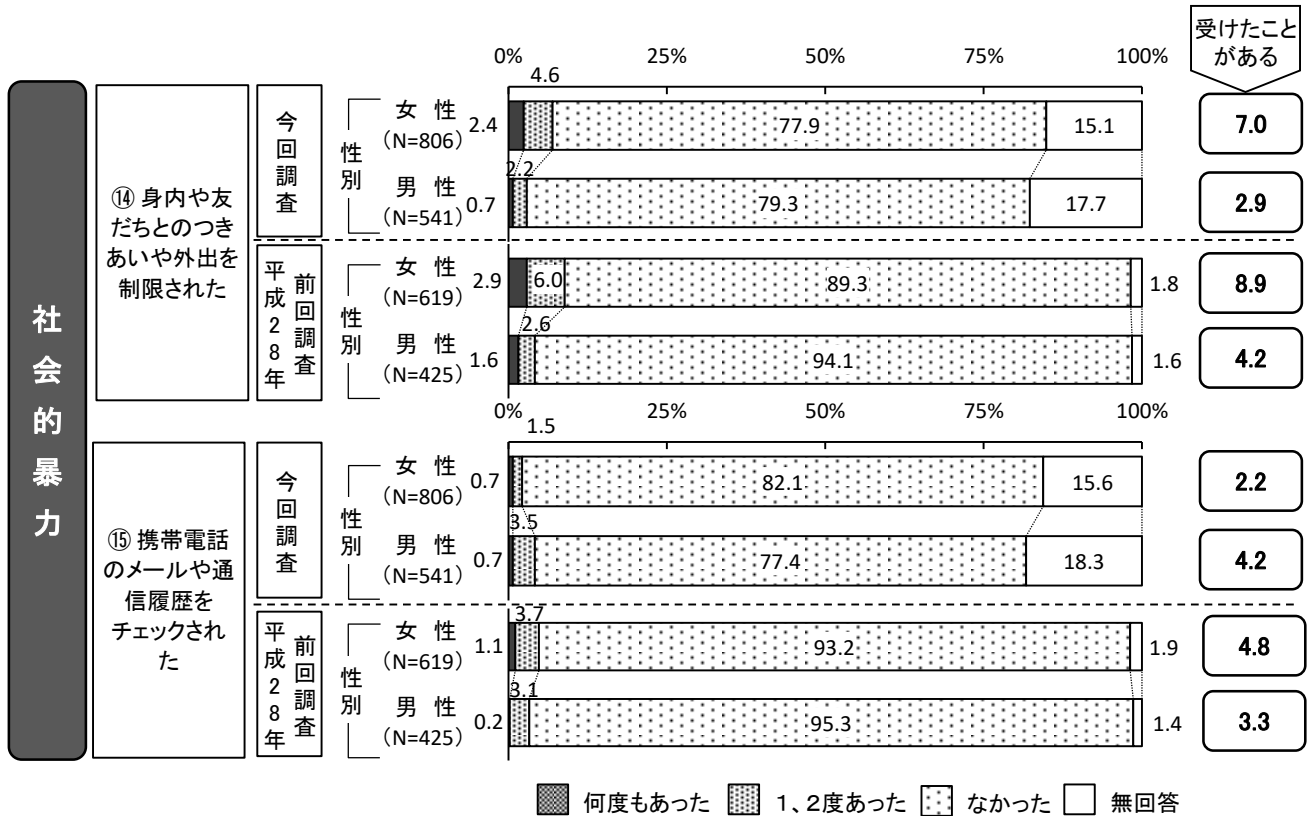


II 調査結果

「社会的暴力」に該当する2つの被害経験は、「身内や友だちとのつきあいや外出を制限された」は女性が7.0%、男性が2.9%で女性の方が高く、「携帯電話のメールや通信履歴をチェックされた」は女性が2.2%、男性が4.2%で男性の方が高くなっている。

前回調査と比べると、女性の「携帯電話のメールや通信履歴をチェックされた」が2.6ポイント減少しており、その他は大きな変化はみられない。

図表 10-7 (5) 社会的暴力の経験 [性別] (前回調査比較)

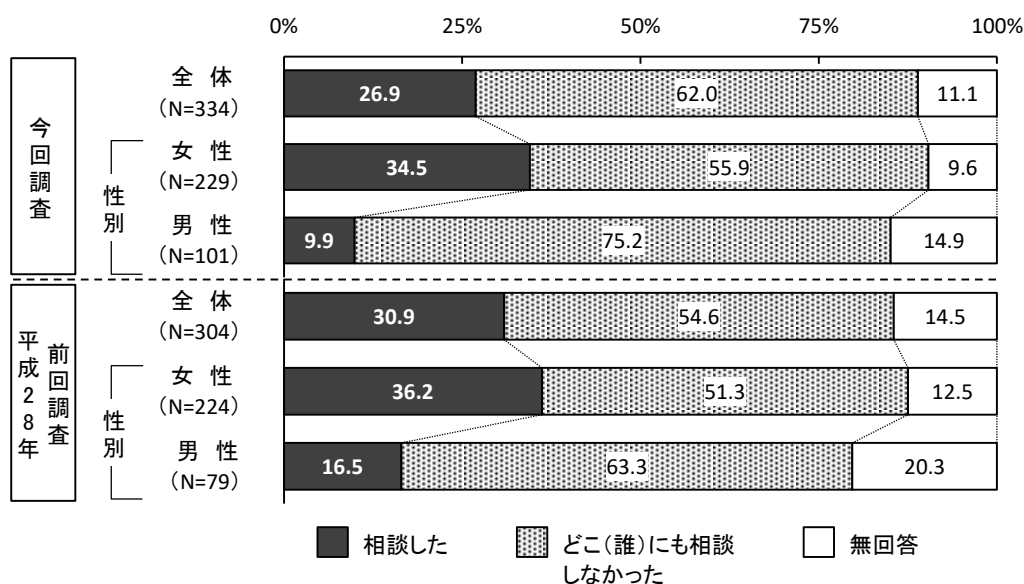


(2) 相談の有無

付問 21-1 【問 21 でひとつでも「1. 何度もあった」「2. 1、2度あった」と答え方は下の質問にお答えください。】

あなたは、受けた行為をだれかに打ち明けたり相談したりしましたか。あてはまるものを1つ選び番号に○印をつけてください。

図表 10-8 相談の有無 [全体、性別] (前回調査比較)



配偶者・パートナーから暴力を受けたことがある人に、そのことについて誰かに話したり相談したりしたことがあるかどうかたずねた。「相談した」は 26.9%で、「どこ(誰)にも相談しなかった」(62.0%) が約6割を占めている。

前回調査と比べると、「どこ(誰)にも相談しなかった」が女性で 4.6 ポイント、男性 11.9 ポイント増えている。

性別で見ると、「相談した」は女性で 34.5%と男性の 9.9%よりも 24.6 ポイント高い。

年代別で見ると、「相談した」は女性では 30代と40代で4割台と高くなっており、男性では 30代が 33.3%と他の年代に比べて高い。

図表 10-9 相談の有無 [全体、年代別]

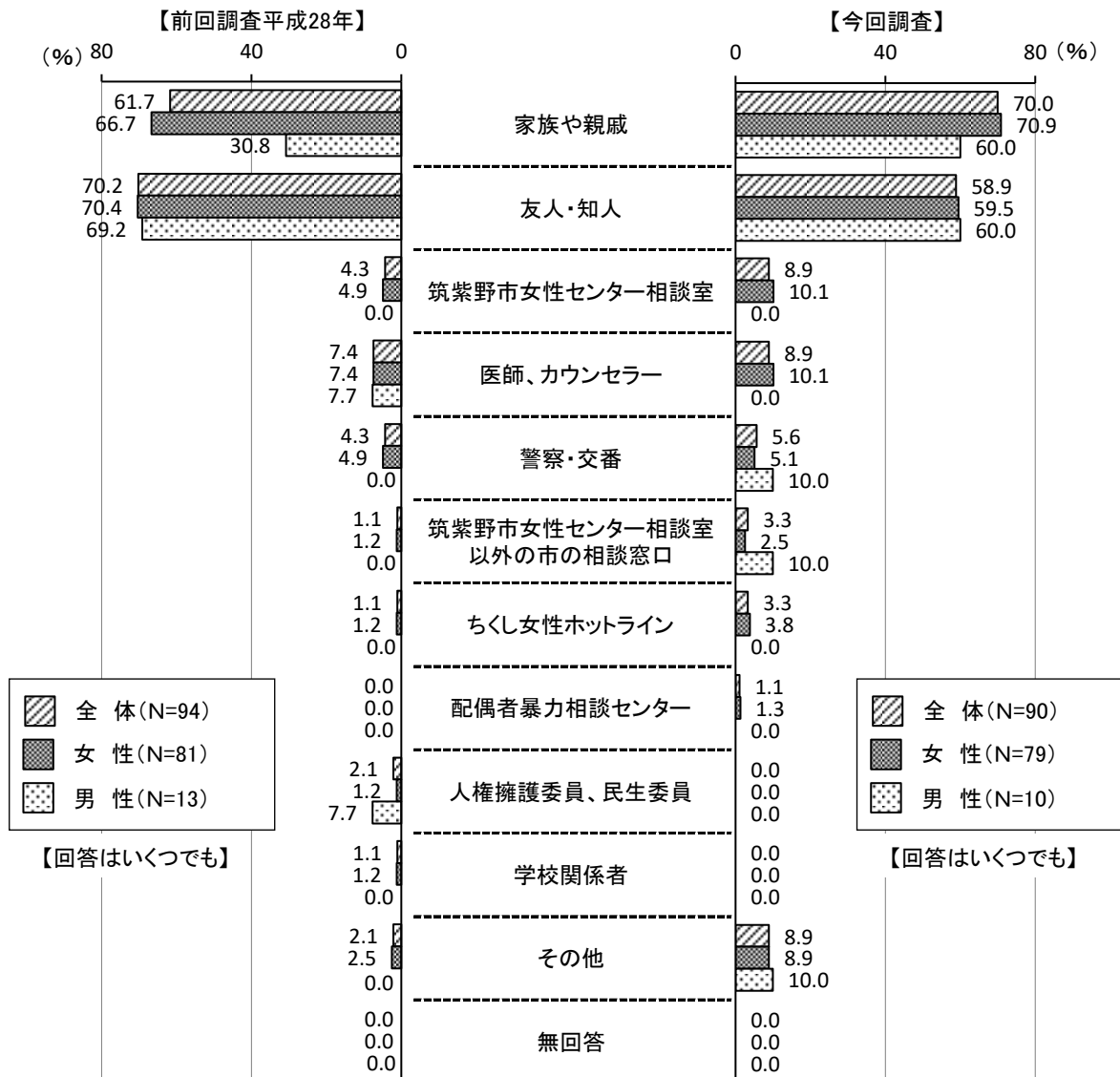
		標本数	相談した (%)	なにもかもこ つ相(誰 た談誰 し)	無回答 (%)
全体		334	90	207	37
		100.0	26.9	62.0	11.1
年代別	女性:10・20代	17	35.3	47.1	17.6
	女性:30代	32	40.6	53.1	6.3
	女性:40代	48	45.8	47.9	6.3
	女性:50代	52	34.6	59.6	5.8
	女性:60代	55	23.6	67.3	9.1
	女性:70歳以上	24	29.2	45.8	25.0
	男性:10・20代	9	11.1	77.8	11.1
	男性:30代	15	33.3	66.7	-
	男性:40代	19	10.5	78.9	10.5
	男性:50代	24	4.2	75.0	20.8
	男性:60代	15	-	80.0	20.0
	男性:70歳以上	19	5.3	73.7	21.1
	無回答	5	20.0	80.0	-

II 調査結果

(3) 相談先

付問 21-1-1 【問 21-1 で「1. 相談した」と答えた方は、下の質問にお答えください。】 どういったところに相談されましたか。あてはまるものをいくつでも選び数字に○印をつけてください。

図表 10-10 相談先 [全体、性別] (前回調査比較)



暴力被害を相談した人の相談先は、「家族や親戚」(70.0%)と「友人・知人」(58.9%)という身近な人の割合が圧倒的に高くなっている。専門的な機関等では、「筑紫野市女性センター相談室」と「医師、カウンセラー」がともに8.9%で高く、次いで「警察・交番」が5.6%となっている。

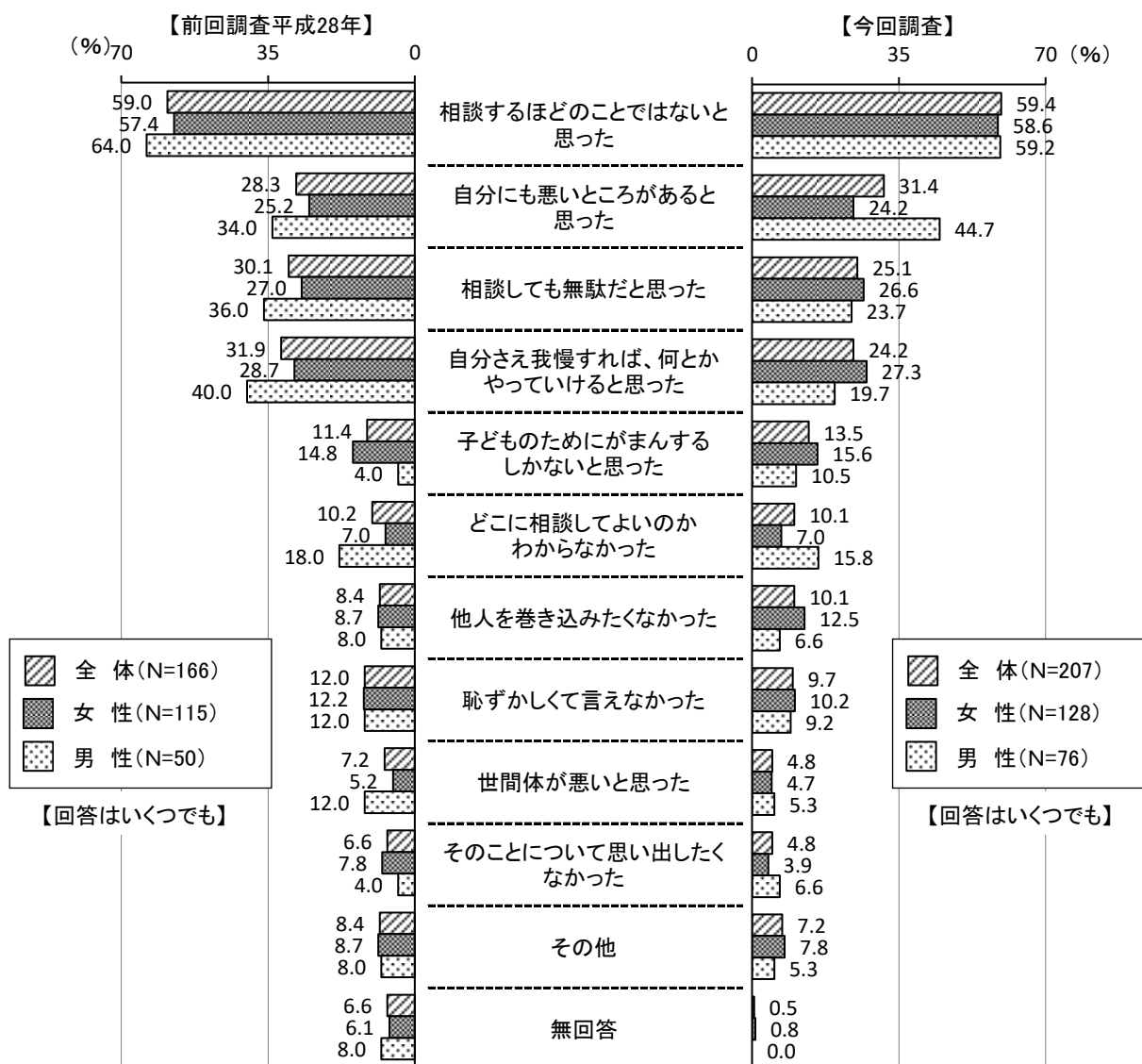
性別でみると、「家族や親戚」(女性70.9%、男性60.0%)は女性の方が10.9ポイント高くなっている。専門的な機関等については、「筑紫野市女性センター相談室」と「医師、カウンセラー」は女性が同率の10.1%であるのに対して男性は該当がなく、「警察・交番」と「筑紫野市女性センター相談室以外の市の相談窓口」は男性が同率の10.0%と女性よりも高くなっており、男女で相談先が異なっている。

(4) 相談しなかった理由

付問 21-1-2 【問 21-1 で「2. どこ（誰）にも相談しなかった」と答えた方は、下の質問にお答えください。】

どこ（誰）にも相談しなかったのはなぜですか。あてはまるものをいくつでも選び数字に

図表 10-11 相談しなかった理由 [全体、性別] (前回調査比較)



配偶者・パートナーからの暴力被害について「どこ（誰）にも相談しなかった」と答えた人にその理由をたずねたところ、「相談するほどのことではないと思った」が 59.4%と最も高く、次いで「自分にも悪いところがあると思った」が 31.4%、「相談しても無駄だと思った」が 25.1%、「自分さえ我慢すれば、何とかやっていけると思った」が 24.2%となっている。

Ⅱ 調査結果

性別で見ると、「相談するほどのことではないと思った」は男女ともに約6割でほとんど差はないが、その他は男女差が大きい項目が多く、特に「自分にも悪いところがあると思った」（女性 24.2%、男性 44.7%）は男性の方が 20.5 ポイント高くなっている。女性は「自分さえ我慢すれば、何とかやっていけると思った」（同 27.3%、19.7%）や「他人を巻き込みたくなかった」（同 12.5%、6.6%）、「子どものためにがまんするしかないと思った」（同 15.6%、10.5%）などが、男性よりも約5～8ポイント高くなっている。

前回調査と比べると、女性はあまり変化していないが、男性は大きく増減している項目が多く、「自分にも悪いところがあると思った」は 10.7 ポイント増加し、「自分さえ我慢すれば、何とかやっていけると思った」は 20.3 ポイント、「相談しても無駄だと思った」は 12.3 ポイント減少している。

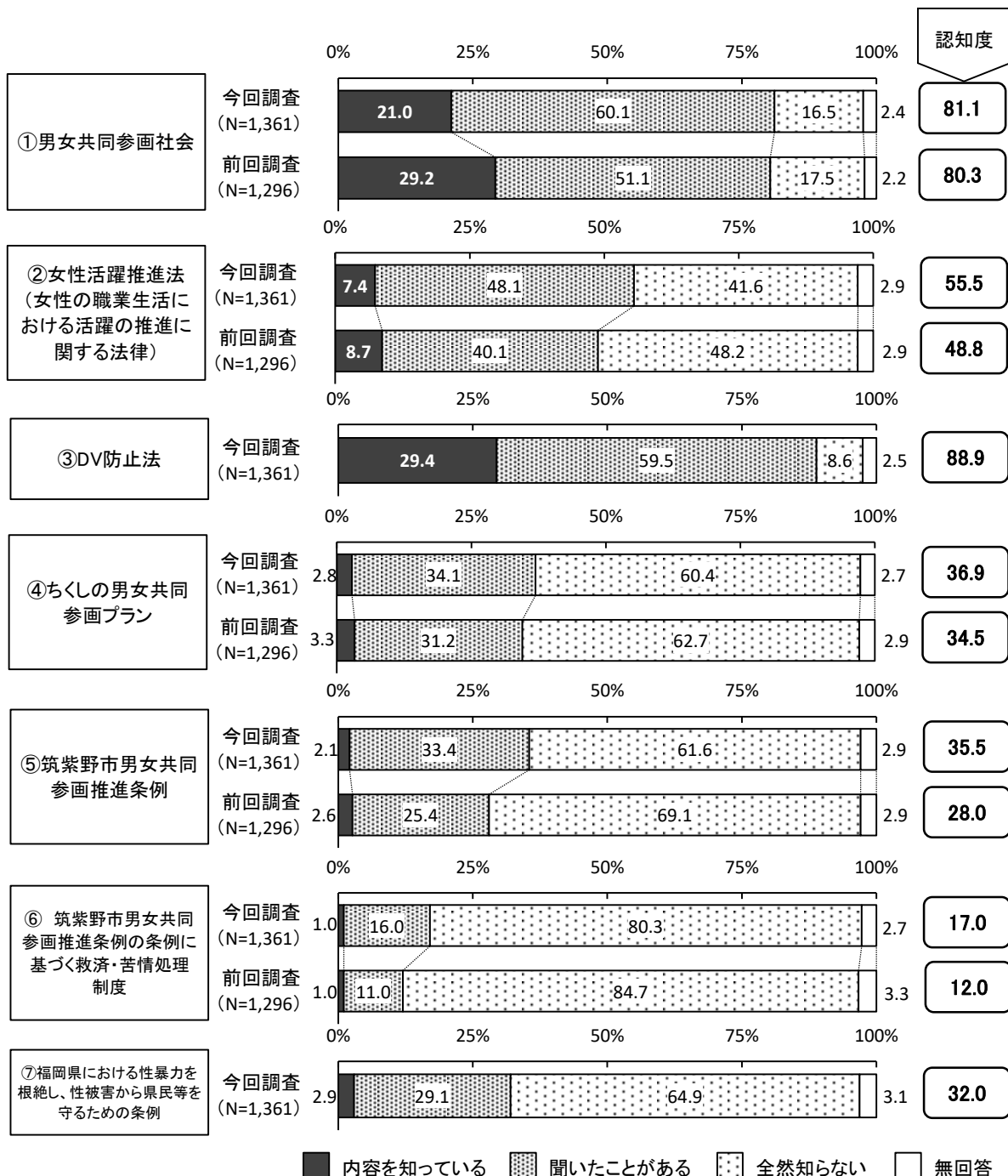
第 11 章 男女共同参画社会の実現について

1. 男女共同参画に関する法令・制度、言葉の認知

問 22. 下記のそれぞれの言葉について、あなたはどの程度ご存知ですか。

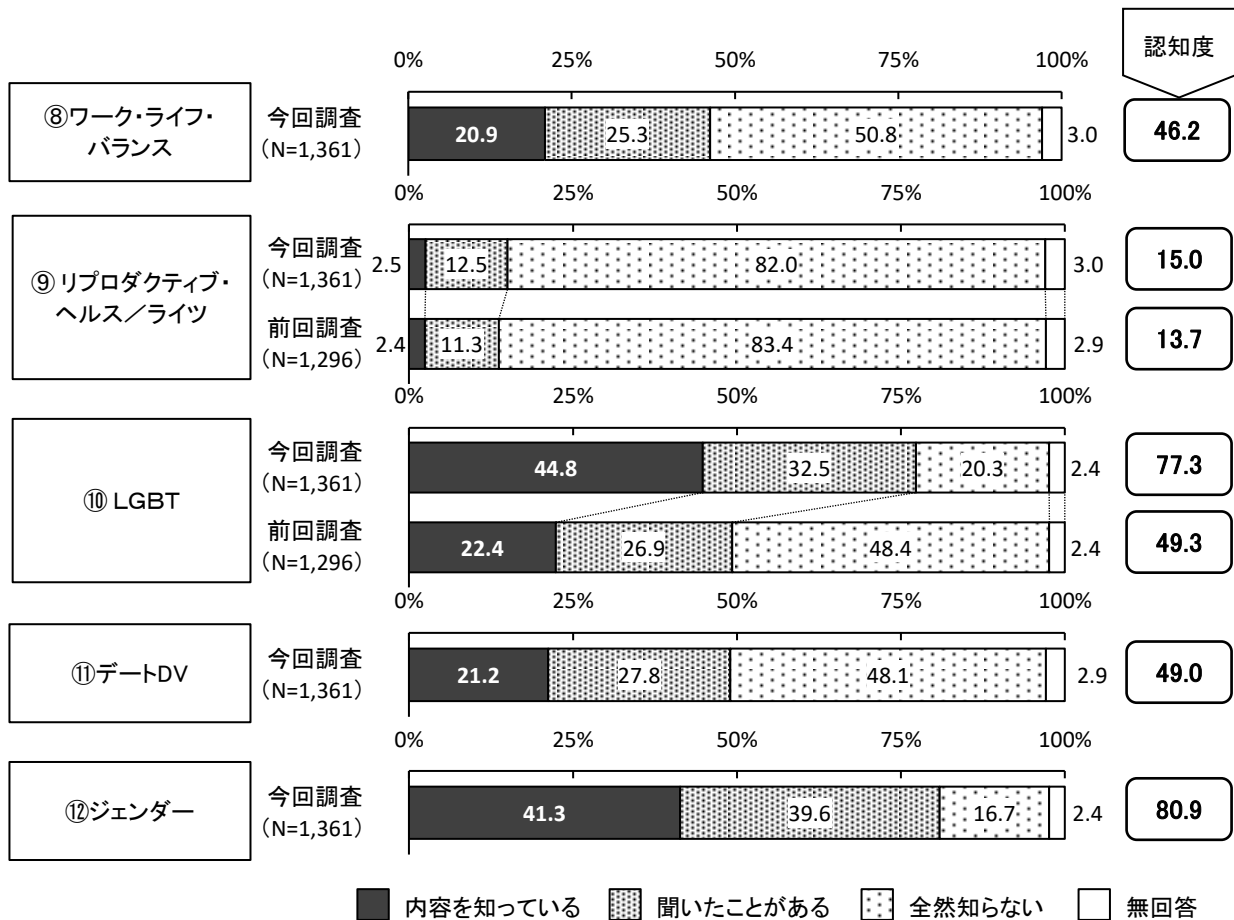
①～⑫のそれぞれについてあてはまるものを1つ選び番号に○印をつけてください。

図表 11-1 (1) 男女共同参画に関する法令・制度、言葉の認知 [全体] (前回調査比較)



II 調査結果

図表 11-1 (2) 男女共同参画に関する法令・制度、言葉の認知 [全体] (前回調査比較)



男女共同参画に関連する法令や制度、言葉についての認知をたずねた。最も認知度が高いのは「DV防止法」で88.9%の人が「内容を知っている」もしくは「聞いたことがある」としている。次いで、「男女共同参画社会」(81.1%)、「ジェンダー」(80.9%)、「LGBT」(77.3%)の順となっており、「ジェンダー」と「LGBT」は「内容を知っている」も4割台と高くなっている。一方で、認知度が低いのは「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」(15.0%)や「筑紫野市男女共同参画推進条例に基づく救済・苦情処理制度」(17.0%)で2割を下回っている。

前回調査と比較可能な項目のなかでは「LGBT」の変化が大きく、認知度が28ポイント増加している。

性別で見ると、「男女共同参画社会」と「ワーク・ライフ・バランス」は男性の方が認知度は高くなっている。一方で、「ちくしの男女共同参画プラン」や「筑紫野市男女共同参画推進条例」は女性の方が認知度は高くなっている。

年代別で見ると、男女とも年代が低い層で認知度が高くなっている項目が多く、特に「LGBT」や「ワーク・ライフ・バランス」、「デートDV」、「ジェンダー」などでその傾向が顕著である。反対に「ちくしの男女共同参画プラン」や「筑紫野市男女共同参画推進条例」は年代が高い層で認知度が高くなっている。

図表 11-2 (1) 男女共同参画に関する法令・制度、言葉の認知 [全体、性別、年代別]

		標本数	① 男女共同参画社会					② 女性活躍推進法					③ DV防止法				
			内容を知っている	聞いたことがある	全然知らない	無回答	認知度	内容を知っている	聞いたことがある	全然知らない	無回答	認知度	内容を知っている	聞いたことがある	全然知らない	無回答	認知度
全体		1,361 100.0	286 21.0	818 60.1	224 16.5	33 2.4	1,104 81.1	101 7.4	654 48.1	566 41.6	40 2.9	755 55.5	400 29.4	810 59.5	117 8.6	34 2.5	1,210 88.9
性別	女性	806	17.6	61.0	19.1	2.2	78.6	6.2	48.3	43.2	2.4	54.5	29.3	59.9	8.4	2.4	89.2
	男性	541	26.2	59.0	12.2	2.6	85.2	9.4	48.2	38.6	3.7	57.6	29.9	59.1	8.3	2.6	89.0
	無回答	14	14.3	50.0	28.6	7.1	64.3	-	28.6	64.3	7.1	28.6	14.3	50.0	28.6	7.1	64.3
年代別	女性:10・20代	81	32.1	53.1	12.3	2.5	85.2	13.6	35.8	48.1	2.5	49.4	35.8	51.9	9.9	2.5	87.7
	女性:30代	111	17.1	64.0	18.0	0.9	81.1	9.0	55.9	34.2	0.9	64.9	30.6	63.1	5.4	0.9	93.7
	女性:40代	164	11.0	61.0	26.8	1.2	72.0	4.3	50.0	44.5	1.2	54.3	30.5	62.8	5.5	1.2	93.3
	女性:50代	151	14.6	64.9	19.9	0.7	79.5	3.3	42.4	53.6	0.7	45.7	27.8	61.6	9.9	0.7	89.4
	女性:60代	181	20.4	61.3	16.0	2.2	81.7	6.1	51.4	39.8	2.8	57.5	25.4	61.9	10.5	2.2	87.3
	女性:70歳以上	116	17.2	57.8	18.1	6.9	75.0	5.2	50.9	37.1	6.9	56.1	30.2	53.4	8.6	7.8	83.6
	男性:10・20代	48	56.3	31.3	12.5	-	87.6	18.8	50.0	31.3	-	68.8	43.8	45.8	10.4	-	89.6
	男性:30代	74	16.2	67.6	16.2	-	83.8	10.8	47.3	41.9	-	58.1	25.7	62.2	12.2	-	87.9
	男性:40代	81	23.5	54.3	19.8	2.5	77.8	8.6	46.9	40.7	3.7	55.5	32.1	55.6	11.1	1.2	87.7
	男性:50代	90	27.8	55.6	14.4	2.2	83.4	4.4	50.0	41.1	4.4	54.4	27.8	63.3	5.6	3.3	91.1
	男性:60代	139	26.6	61.2	7.9	4.3	87.8	12.2	43.2	38.8	5.8	55.4	33.8	56.8	5.0	4.3	90.6
	男性:70歳以上	108	20.4	68.5	7.4	3.7	88.9	5.6	54.6	36.1	3.7	60.2	22.2	65.7	8.3	3.7	87.9
	無回答	17	11.8	58.8	23.5	5.9	70.6	-	23.5	64.7	11.8	23.5	11.8	47.1	35.3	5.9	58.9
			標本数	④ ちくしの男女共同参画プラン					⑤ 筑紫野市男女共同参画推進条例					⑥ 筑紫野市男女共同参画推進条例に基づく救済・苦情処理制度			
		内容を知っている		聞いたことがある	全然知らない	無回答	認知度	内容を知っている	聞いたことがある	全然知らない	無回答	認知度	内容を知っている	聞いたことがある	全然知らない	無回答	認知度
全体		1,361 100.0	38 2.8	464 34.1	822 60.4	37 2.7	502 36.9	29 2.1	454 33.4	838 61.6	40 2.9	483 35.5	13 1.0	218 16.0	1,093 80.3	37 2.7	231 17.0
性別	女性	806	3.2	36.1	58.2	2.5	39.3	2.4	35.9	59.1	2.7	38.3	0.9	17.2	79.3	2.6	18.1
	男性	541	2.2	31.1	63.8	3.0	33.3	1.8	29.6	65.4	3.1	31.4	1.1	14.2	81.9	2.8	15.3
	無回答	14	-	35.7	57.1	7.1	35.7	-	35.7	57.1	7.1	35.7	-	14.3	78.6	7.1	14.3
年代別	女性:10・20代	81	3.7	19.8	74.1	2.5	23.5	2.5	22.2	72.8	2.5	24.7	1.2	13.6	82.7	2.5	14.8
	女性:30代	111	2.7	27.9	68.5	0.9	30.6	1.8	29.7	67.6	0.9	31.5	-	18.9	80.2	0.9	18.9
	女性:40代	164	2.4	37.2	59.8	0.6	39.6	1.2	37.8	59.8	1.2	39.0	0.6	14.6	84.1	0.6	15.2
	女性:50代	151	1.3	42.4	55.6	0.7	43.7	1.3	41.1	56.3	1.3	42.4	-	15.2	84.1	0.7	15.2
	女性:60代	181	5.0	40.9	51.9	2.2	45.9	4.4	39.8	53.6	2.2	44.2	1.7	19.3	76.2	2.8	21.0
	女性:70歳以上	116	4.3	38.8	47.4	9.5	43.1	2.6	36.2	51.7	9.5	38.8	1.7	21.6	67.2	9.5	23.3
	男性:10・20代	48	4.2	27.1	68.8	-	31.3	4.2	33.3	62.5	-	37.5	-	18.8	81.3	-	18.8
	男性:30代	74	-	17.6	82.4	-	17.6	-	23.0	77.0	-	23.0	-	5.4	94.6	-	5.4
	男性:40代	81	1.2	27.2	70.4	1.2	28.4	1.2	29.6	66.7	2.5	30.8	1.2	11.1	85.2	2.5	12.3
	男性:50代	90	1.1	31.1	64.4	3.3	32.2	1.1	23.3	71.1	4.4	24.4	1.1	12.2	83.3	3.3	13.3
	男性:60代	139	2.2	36.7	56.1	5.0	38.9	2.9	33.8	59.0	4.3	36.7	2.2	13.7	79.9	4.3	15.9
	男性:70歳以上	108	4.6	37.0	53.7	4.6	41.6	1.9	32.4	61.1	4.6	34.3	0.9	23.1	72.2	3.7	24.0
	無回答	17	-	35.3	58.8	5.9	35.3	-	29.4	64.7	5.9	29.4	-	11.8	82.4	5.9	11.8

II 調査結果

図表 11-2 (2) 男女共同参画に関する法令・制度、言葉の認知 [全体、性別、年代別]

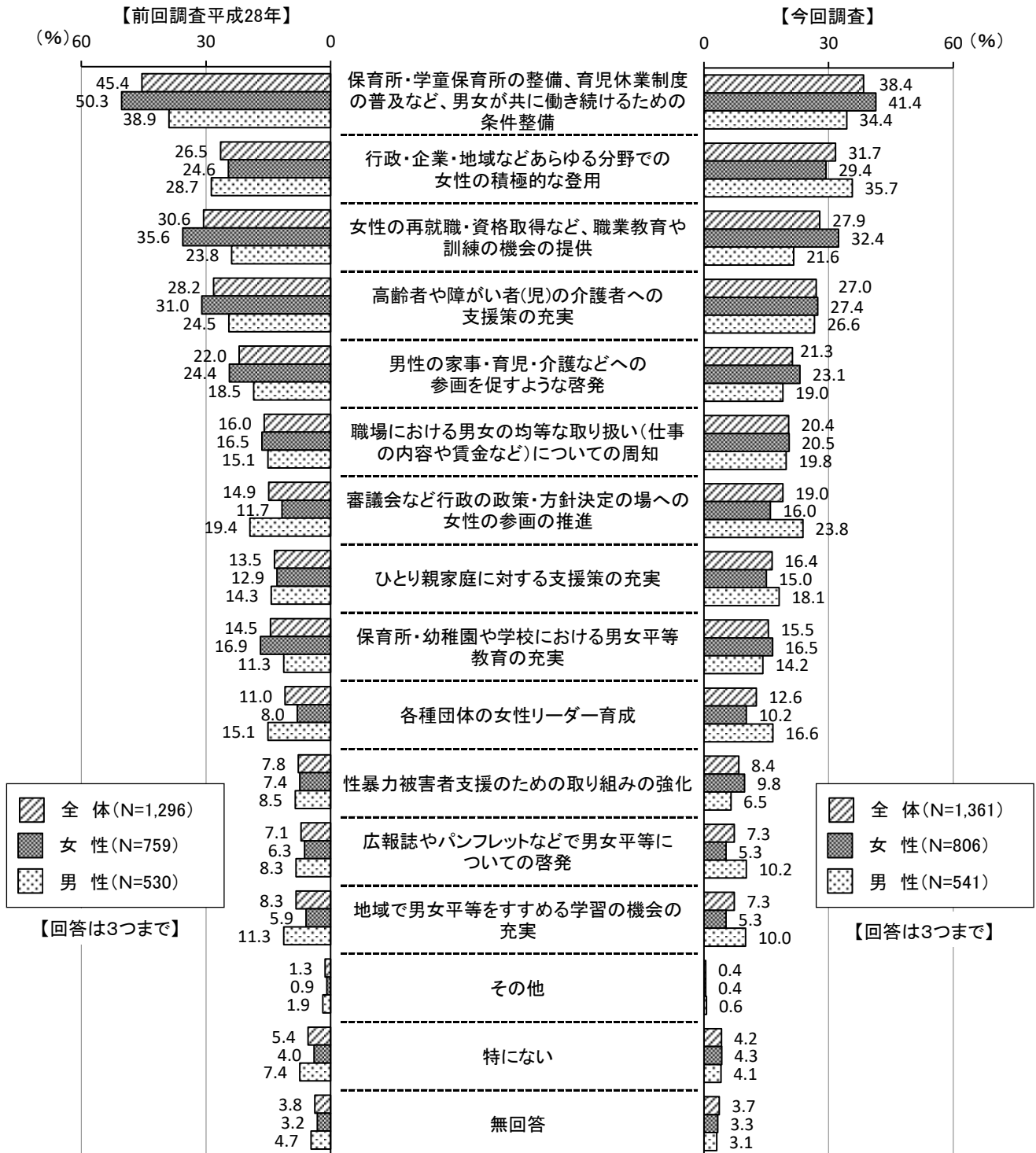
(%)

	標本数	⑦ 福岡県における性暴力を根絶し、性被害から県民等を守るための条例					⑧ ワーク・ライフ・バランス					⑨ リプロダクティブ・ヘルス/ライツ				
		内容を知って	聞いたことがある	全然知らない	無回答	認知度	内容を知って	聞いたことがある	全然知らない	無回答	認知度	内容を知って	聞いたことがある	全然知らない	無回答	認知度
全体	1,361 100.0	40 2.9	396 29.1	883 64.9	42 3.1	436 32.0	284 20.9	344 25.3	692 50.8	41 3.0	628 46.2	34 2.5	170 12.5	1,116 82.0	41 3.0	204 15.0
性別																
女性	806	3.2	30.3	63.8	2.7	33.5	17.9	23.6	55.5	3.1	41.5	2.7	12.3	82.3	2.7	15.0
男性	541	2.6	26.8	67.3	3.3	29.4	25.3	28.1	43.8	2.8	53.4	2.2	12.4	82.1	3.3	14.6
無回答	14	-	50.0	35.7	14.3	50.0	21.4	14.3	57.1	7.1	35.7	-	28.6	64.3	7.1	28.6
年代別																
女性:10・20代	81	6.2	25.9	65.4	2.5	32.1	37.0	29.6	30.9	2.5	66.6	3.7	17.3	76.5	2.5	21.0
女性:30代	111	5.4	27.0	66.7	0.9	32.4	36.9	25.2	36.9	0.9	62.1	6.3	18.0	74.8	0.9	24.3
女性:40代	164	4.9	21.3	72.6	1.2	26.2	25.0	22.6	51.8	0.6	47.6	2.4	11.0	86.0	0.6	13.4
女性:50代	151	0.7	29.8	68.2	1.3	30.5	11.9	23.2	64.2	0.7	35.1	1.3	8.6	89.4	0.7	9.9
女性:60代	181	2.8	35.9	59.7	1.7	38.7	6.1	22.7	69.1	2.2	28.8	2.8	9.9	84.5	2.8	12.7
女性:70歳以上	116	0.9	41.4	47.4	10.3	42.3	2.6	20.7	62.9	13.8	23.3	0.9	13.8	75.0	10.3	14.7
男性:10・20代	48	8.3	25.0	66.7	-	33.3	52.1	22.9	25.0	-	75.0	8.3	27.1	64.6	-	35.4
男性:30代	74	1.4	21.6	77.0	-	23.0	27.0	33.8	39.2	-	60.8	2.7	9.5	87.8	-	12.2
男性:40代	81	1.2	25.9	70.4	2.5	27.1	28.4	34.6	34.6	2.5	63.0	4.9	11.1	81.5	2.5	16.0
男性:50代	90	1.1	23.3	71.1	4.4	24.4	35.6	24.4	36.7	3.3	60.0	-	10.0	86.7	3.3	10.0
男性:60代	139	4.3	25.9	64.0	5.8	30.2	21.6	29.5	44.6	4.3	51.1	1.4	14.4	78.4	5.8	15.8
男性:70歳以上	108	0.9	36.1	59.3	3.7	37.0	6.5	22.2	67.6	3.7	28.7	-	8.3	87.0	4.6	8.3
無回答	17	-	41.2	47.1	11.8	41.2	17.6	23.5	52.9	5.9	41.1	-	23.5	70.6	5.9	23.5
	標本数	⑩ LGBT					⑪ デートDV					⑫ ジェンダー				
		内容を知って	聞いたことがある	全然知らない	無回答	認知度	内容を知って	聞いたことがある	全然知らない	無回答	認知度	内容を知って	聞いたことがある	全然知らない	無回答	認知度
全体	1,361 100.0	610 44.8	442 32.5	276 20.3	33 2.4	1,052 77.3	289 21.2	378 27.8	654 48.1	40 2.9	667 49.0	562 41.3	539 39.6	227 16.7	33 2.4	1,101 80.9
性別																
女性	806	46.4	30.5	20.8	2.2	76.9	24.8	28.5	43.8	2.9	53.3	42.9	38.8	16.0	2.2	81.7
男性	541	42.9	35.7	18.9	2.6	78.6	15.9	26.8	54.3	3.0	42.7	38.8	41.2	17.4	2.6	80.0
無回答	14	28.6	21.4	42.9	7.1	50.0	21.4	21.4	50.0	7.1	42.8	42.9	21.4	28.6	7.1	64.3
年代別																
女性:10・20代	81	70.4	22.2	4.9	2.5	92.6	35.8	24.7	37.0	2.5	60.5	61.7	28.4	7.4	2.5	90.1
女性:30代	111	67.6	24.3	7.2	0.9	91.9	35.1	30.6	33.3	0.9	65.7	53.2	38.7	7.2	0.9	91.9
女性:40代	164	56.7	31.7	11.0	0.6	88.4	31.1	32.3	36.0	0.6	63.4	52.4	39.6	7.3	0.6	92.0
女性:50代	151	44.4	27.2	27.8	0.7	71.6	27.8	27.2	44.4	0.7	55.0	40.4	39.1	19.9	0.7	79.5
女性:60代	181	29.8	37.0	31.5	1.7	66.8	15.5	27.6	55.2	1.7	43.1	32.6	41.4	24.3	1.7	74.0
女性:70歳以上	116	24.1	35.3	31.9	8.6	59.4	9.5	27.6	50.0	12.9	37.1	25.9	41.4	24.1	8.6	67.3
男性:10・20代	48	77.1	14.6	8.3	-	91.7	43.8	22.9	31.3	2.1	66.7	79.2	12.5	8.3	-	91.7
男性:30代	74	54.1	35.1	10.8	-	89.2	17.6	29.7	52.7	-	47.3	48.6	39.2	12.2	-	87.8
男性:40代	81	44.4	33.3	19.8	2.5	77.7	18.5	25.9	53.1	2.5	44.4	39.5	42.0	16.0	2.5	81.5
男性:50代	90	47.8	33.3	15.6	3.3	81.1	18.9	21.1	56.7	3.3	40.0	41.1	43.3	12.2	3.3	84.4
男性:60代	139	38.8	36.7	20.1	4.3	75.5	8.6	31.7	55.4	4.3	40.3	32.4	43.9	19.4	4.3	76.3
男性:70歳以上	108	19.4	48.1	29.6	2.8	67.5	7.4	25.9	63.0	3.7	33.3	19.4	50.0	27.8	2.8	69.4
無回答	17	29.4	17.6	47.1	5.9	47.0	17.6	17.6	58.8	5.9	35.2	47.1	17.6	29.4	5.9	64.7

2. 「男女共同参画社会」を実現するために行政が今後力を入れること

問 23. あなたは、男女共同参画社会を実現するために、市に対してどのような施策を望みますか。あてはまるものを3つまで選び数字に○印をつけてください。

図表 11-3 「男女共同参画社会」を実現するために行政が力を入れること
[全体、性別] (前回調査比較)



Ⅱ 調査結果

男女共同参画社会を実現するために、市に対してどのような施策を望むかたずねたところ、「保育所・学童保育所の整備、育児休業制度の普及など、男女が共に働き続けるための条件整備」が 38.4%で最も高く、次いで、「行政・企業・地域などあらゆる分野での女性の積極的な登用」が 31.7%、「女性の再就職・資格取得などの職業教育や訓練の機会の提供」が 27.9%、「高齢者や障がい児・者の介護者への支援策の充実」が 27.0%などとなっている。

性別でみると、「女性の再就職・資格取得などの職業教育や訓練の機会の提供」（女性 32.4%、男性 21.6%）は女性の方が 10.8 ポイント男性より高く、「保育所・学童保育所の整備、育児休業制度の普及など、男女が共に働き続けるための条件整備」（同 41.4%、34.4%）も女性の方が 7 ポイント高い。一方、男性の方が女性より割合が高いのは「審議会など行政の政策・方針決定の場の女性の参画の推進」（同 16.0%、23.8%）や「各種団体の女性リーダー育成」（同 10.2%、16.6%）、「行政・企業・地域などあらゆる分野での女性の積極的な登用」（同 29.4%、35.7%）で、約 6～8 ポイントの差がある。

前回調査と比べると、「保育所・学童保育所の整備、育児休業制度の普及など、男女が共に働き続けるための条件整備」は男女とも割合が減少しており、特に女性では 8.9 ポイント減少している。「行政・企業・地域などあらゆる分野での女性の積極的な登用」や「審議会など行政の政策・方針決定の場の女性の参画の推進」、「職場における男女の均等な取り扱い（仕事の内容や賃金など）についての周知」は約 4～7 ポイント増加している。

年代別でみると、「保育所・学童保育所の整備、育児休業制度の普及など、男女が共に働き続けるための条件整備」は男女とも 40 代以下で約 4 割から 6 割近くと割合が高くなっている。「男性の家事・育児・介護などへの参加を促すような啓発」も年代が低い層で割合が高く、女性の 10・20 代と 30 代、男性の 30 代で 3 割前後となっている。「行政・企業・地域などあらゆる分野での女性の積極的な登用」と「審議会など行政の政策・方針決定の場の女性の参画の推進」は年代が高い層で割合が高い傾向がみられる。

図表 11-4 「男女共同参画社会」を実現するために行政が力を入れること〔全体、年代別〕

(%)

		標本数	参画の推進	審議会の決定など行政への女性の	方針の場行政の女性の	極める・分野での地域性の積	行政的・企業での地域性の積	あらゆる分野での地域性の積	各種団体の女性リーダー	育成	の性暴力被害者の強化のため	啓発	広報やパンフレットのな	男性の家事・育児・介護	実保所・幼稚園や学校の充	る地域で男女平等をすすめる
全体		1,361 100.0	258 19.0	431 31.7	172 12.6	114 8.4	99 7.3	290 21.3	211 15.5	99 7.3						
年代別	女性:10・20代	81	11.1	16.0	6.2	13.6	1.2	29.6	22.2	6.2						
	女性:30代	111	9.9	26.1	10.8	9.9	-	26.1	24.3	4.5						
	女性:40代	164	13.4	28.7	6.1	7.9	3.7	21.3	17.1	6.7						
	女性:50代	151	15.2	28.5	10.6	8.6	3.3	20.5	19.9	4.6						
	女性:60代	181	19.3	32.6	14.4	11.6	11.0	24.3	11.0	5.0						
	女性:70歳以上	116	24.1	39.7	10.3	7.8	9.5	19.0	8.6	5.2						
	男性:10・20代	48	18.8	20.8	10.4	6.3	8.3	18.8	4.2	10.4						
	男性:30代	74	20.3	21.6	17.6	8.1	2.7	32.4	17.6	9.5						
	男性:40代	81	16.0	29.6	16.0	9.9	7.4	21.0	17.3	8.6						
	男性:50代	90	27.8	36.7	24.4	7.8	6.7	18.9	16.7	7.8						
	男性:60代	139	28.1	48.2	15.1	5.8	13.7	15.8	11.5	10.1						
	男性:70歳以上	108	25.9	39.8	14.8	2.8	16.7	13.0	15.7	13.0						
無回答		17	5.9	5.9	5.9	5.9	5.9	11.8	5.9	11.8						
		標本数	機な女性の提職教育・資格取得	周や賃金などいける仕事の内	職場の扱いに仕事の内	けなるため男の子の働	備育所・児童の所	実の高齢者や障がい者(児)	の高齢者や障がい者(児)	の親家庭に対する支	その他	特にな	無回			
全体		1,361 100.0	380 27.9	278 20.4	523 38.4	367 27.0	223 16.4	6 0.4	57 4.2	50 3.7						
年代別	女性:10・20代	81	29.6	19.8	54.3	14.8	14.8	1.2	8.6	6.2						
	女性:30代	111	31.5	21.6	58.6	14.4	8.1	-	6.3	1.8						
	女性:40代	164	38.4	28.7	43.3	25.0	15.9	-	3.7	1.2						
	女性:50代	151	37.1	18.5	31.8	39.1	13.2	0.7	2.0	4.0						
	女性:60代	181	31.5	19.3	37.6	27.6	18.2	-	4.4	2.2						
	女性:70歳以上	116	22.4	12.9	31.0	37.1	18.1	0.9	3.4	6.9						
	男性:10・20代	48	29.2	27.1	37.5	27.1	35.4	-	6.3	2.1						
	男性:30代	74	27.0	21.6	41.9	16.2	23.0	-	4.1	2.7						
	男性:40代	81	18.5	17.3	37.0	23.5	17.3	-	6.2	6.2						
	男性:50代	90	18.9	17.8	25.6	24.4	14.4	1.1	5.6	3.3						
	男性:60代	139	23.0	18.7	35.3	25.9	10.8	0.7	2.2	2.9						
	男性:70歳以上	108	17.6	20.4	32.4	38.9	20.4	-	2.8	1.9						
無回答		17	11.8	35.3	29.4	11.8	23.5	5.9	-	35.3						

Ⅲ 調査結果からみえてくる現状と課題

Ⅲ 調査結果からみえてくる現状と課題

特定非営利活動法人福岡ジェンダー研究所
倉富 史枝

はじめに

筑紫野市においては、男女共同参画社会実現を目指して、平成 10 年に「ちくしの男女共同参画プラン」を策定、平成 18 年には「筑紫野市男女共同参画推進条例」を施行し、男女共同参画に関わる事業を展開してきた。

本調査は、平成 30 年度から実施されている「第 3 次ちくしの男女共同参画プラン」において今年度が中間年であることから、計画を見直すために実施された。この 5 年間の市の取り組みの成果を検証するとともに、今後の男女共同参画を進める上での課題を把握することを目的としている。また、福岡県の「男女共同参画社会に向けての意識調査」（令和元年 12 月実施）及び内閣府「男女共同参画に関する世論調査」（令和元年 9 月実施）との比較できる項目もあり、本市の特徴をみる事が可能である。

また、回答者の基本的属性をみると、性別の構成は女性が約 6 割、男性は約 4 割で女性の割合が高い。年齢の構成比は、60 代以上の年齢層では男性は 45.7%と半数近くとなっており、男性では高齢者層の意識が全体に反映される傾向にあることに留意が必要である。ただし、これらの特徴は前回調査とほぼ同じであり、経年比較には問題はないといえる。

1. 男女平等に関する考え方について

「男は仕事、女は家庭」という考え方、いわゆる固定的性別役割分担意識については、『反対派』が、女性では約 7 割、男性は 6 割強を占め、多数派となっている。ただし、男性では 70 歳以上のみが『賛成派』が『反対派』を上回っている。前回調査と比べると、『反対派』は大幅に増加しており、固定的性別役割分担意識は解消される傾向にある。福岡県調査と比べても男女とも『反対派』の割合は今回調査の方が高く、筑紫野市では福岡県内と比較して性別役割分担意識は解消される方向にあるといえる。

男女の地位の平等感について 8 つの項目でたずねたところ、『男性優遇』が高いのは、順に「政治の場」「社会通念・慣習・しきたりなど」「社会全体」で 8 割前後に上った。次いで「職場」「家庭生活」が続き、「法律や制度のうえ」「地域活動・社会活動の場」は半数以下で、「学校教育の場」が 1 割台で最も低くなっている。

「政治の場」の『男性優遇』は前回よりも高く、県や国よりも高くなっていた。今回調査時期は 2021 年 10 月で国政選挙の直前で、「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」が 2018 年に施行されていたにもかかわらず、候補者に女性が増えなかった状況にあり、不平等感を高めた要因となった可能性がうかがえる。「社会通念・慣習・しきたりなど」の『男性優遇』の割合に経年の変化はなく、県や国よりも高くなっている。

また、女性の『男性優遇』の割合は全ての項目で男性を上回り、男女の地位の平等については女性の方が男性よりも不平等感が強い。特に、「家庭生活」では、女性の『男性優遇』は男性を約 20 ポイント上回り、前回調査よりもその差は大きい。また、「地域活動・社会活動の場」での「平等」の割合は男性では約 6 ポイント増加しているが、女性は約 4 ポイント減少するなど、男女の隔たりが大きくなっている。家庭や地域といった身近な場

Ⅲ 調査結果からみえてくる現状と課題

での平等感には男女で認識の違いが広がっている。

政策・方針決定の場に女性が少ない理由については、男女とも第1位は「男性優位の組織運営になっているから」で、前回調査よりも高くなっていた。「家事・育児や介護に支障がでるから」は男女とも前回調査より低くなっていたが、女性の40代では6割強と依然として高く、「家族の支援・協力が得られないから」も女性の30代から50代の層で高くなっており、子育てに関わる年代の女性には家庭責任が政策・方針決定の場への障壁になっていることがわかる。

以上のことから、性別役割分担意識の解消が進んできた点はこれまでの市の意識啓発についての取り組みの成果として評価できる。しかし、それだけに、現実の身近な場での不平等感が女性には高まっているのではないだろうか。また、昨年「女性の多い会議は時間がかかる」という政治家の発言が国際的なジェンダー平等問題として社会的関心を集めたことは、「政治の場」が男性優遇という認識や政策決定の場での男性優位の組織運営への関心に少なからず影響を与えたともいえる。また、依然として、社会通念・慣習・しきたりが男性優遇と認識されているのは課題である。今後の意識啓発に関しては、建前としての性別役割分担意識の解消だけでなく、慣習の背景にある無意識レベルの偏見、いわゆる「アンコンシャスバイアス」の解消が必要であり、時勢に応じたテーマを取り上げたり、ワークショップ形式で実感を伴う学習をしたりするなどの工夫が求められる。

2. 子育て・教育に関すること

固定的性別役割分担を解消する方向で子どもの育て方を考えているのか、女の子への経済自立志向と男の子への生活自立志向をたずねた。

「女の子も男の子と同等に経済的に自立できる職業人としての教育が必要だ」「男の子も女の子も炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせる方がよい」は、ともに『反対派』はほとんどいない。ただし、男の子の生活自立志向への積極的な「賛成」の割合は、女性が男性を約13ポイント上回る。

以上のことから、子どもの育て方は性別役割分担を解消する方向に概ね進んでいるが、男の子の家事参画には男性の意識がやや低いため、大人の男性の家事参画を促進し現状を変えるような実践的な講座の開催がのぞまれる。

3. 家庭に関すること

現在、配偶者がいる人に対し、家庭内の9つの役割の分担状況についてたずねたところ、『主に妻』が行う割合が最も高い項目は「炊事、掃除、洗濯などの家事をする」で、女性では8割台半ばにのぼり、共働きの女性も同程度あり、妻が働いていても家事が女性の役割となっている現状がうかがえる。また、「生活費を稼ぐ」の『主に夫』は男女とも7割を超えており、「男は仕事、女は家庭」という実態がうかがえる。しかし、前回調査と比べると、家事役割へは男性の参画が、稼ぐ役割には女性の参画がやや増えてはいる。しかし、「育児・子どものしつけをする」「親の世話（介護）をする」といったケア役割については、『主に妻』の割合に前回調査との変化はみられない。また、家事もケア役割もすべての項目で、女性の方が『主に妻』の割合が男性より高く、男性の認識とのずれがあり、この傾向は前回調査と変わらない。この認識のずれが、先述の「家庭生活」における女性の不平等感につながっていると思われる。

家庭内の決定に関わる項目をみると、『主に夫』は「土地・家屋など高額商品の購入の決定」「家庭の問題における最終的な決定」では男女とも4割前後で高く、夫が重要な決定をしていることがわかる。ただし、前回調査よりは「同じ程度に分担している」が増えており、決定に妻の関わりが増えている傾向はうかがえる。また、「同じ程度に分担している」は、「子どもの教育方針・進路目標の決定」について男女とも4割を超えて高く、子どもに関することでは夫婦が平等に決定している状況にある。

以上のことから、家庭内の実態として性別役割分担は解消される傾向がうかがえるが、「1. 男女平等に関する考え方について」でみた意識の解消ほどは進んでいない。家庭内の重要な決定も、夫の意思が反映される状況は続いている。このような実態と意識の乖離は、家事役割を担う女性にはより不平等感を高める可能性がある。子育てへの関わりでは男女共同参画が進みつつあるが、それ以外の役割の担い手や決定への関わりなどに依然として課題があることについて、男性の認識を高めていく必要がある。

4. 仕事について

女性が職業をもつことについての考え方については、「ずっと職業をもっている方がよい」が男女とも最も高く、6割を超えている。男女とも前回調査から増加しており、また、男性では福岡県調査と比べても高くなっており、女性の就業継続への肯定的な意識が高くなっている。「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」という、いわゆる女性のM字型就労を肯定する人は男女とも減少している。

女性の就業継続を支持しない人の理由では、男女とも第1位は「仕事と家庭が両立できるための制度はあるが、それでは不十分だから」、第2位は「育児休業などの仕事と家庭が両立できる制度はあるが、それを利用できる職場の雰囲気ではないから」で、どちらも女性の方が男性より割合は高い。仕事と家庭の両立困難な状況を女性の就業継続の壁であると認識している人は多く、特に女性ではその傾向が高いといえる。

実際に女性はどのような働き方をしているかについて、女性には本人の、男性では配偶者・パートナーの働き方をたずねた結果、男女とも就労継続が最も高いが、女性が職業をもつことについての考え方よりもその割合は低い。一般論としての考え方よりも、現実では女性は就労を中断している状況にあるといえる。共働きの女性では、「ずっと職業をもっている」は約半数にとどまり、現在働いている女性のおよそ半数は結婚や出産でキャリアの中断を経験していることがうかがえる。結婚していない場合は結婚を想定した回答となるが、男女とも「ずっと職業をもっている」が過半数を占めるものの、約4割は自分（男性では配偶者）のキャリアが中断されることを予測している。

現在職業をもっている人に、職場における女性に不利な状況についてたずねたところ、約6割が何らかの不平等を感じていた。女性では「仕事と家庭が両立できる制度が十分に整っていない」が最も高く、男性を約7ポイント上回り、「家族手当、住居手当などがつかない。賃金貸付や社宅に入居できないなどの不利益がある」も女性が男性を上回っており、福利厚生に関わるものでの不公平感が女性に高い。他の多くの項目では男性が女性を上回っており、「女性は男性より出張や視察などの機会が少ない」「募集や採用人数に男女格差があり、女性は男性より不利である」など、就労上の不利益な扱いに関するものが多い。

以上のことから、女性が就労を継続することへの支持は男性で高くなっており、固定的性別役割分担意識の解消と相関している。しかし、女性にとって仕事と家庭との両立は依

Ⅲ 調査結果からみえてくる現状と課題

然として課題であり、両立支援制度が利用しにくい点と利用できる雰囲気職場にないという点が多い。乳幼児を抱えて働く女性が、負担感から就労を中断することに至らぬよう、事業所等へ両立支援に関する情報提供を推進するとともに、雇用主や男性に対しては、男性の家庭参画の重要性を認識できるような啓発が求められる。

5. 育児休業・介護休業制度の利用について

育児休業・介護休業は、男性も女性と同様に取得できる制度であるが、実際の取得率は男性が女性を大きく下回る。今回の調査結果では、育児休業・介護休業等の制度を男性が『活用すべき』と考える人は男女とも約9割と高く、活用が求められている。男性の育児休業取得を進めるために必要なことは、「取得しやすい職場の雰囲気づくり」が最も高く、特に今後利用する可能性のある年齢の低い層では高くなっていた。次いで「解雇、降格、減給などの不利益な取り扱いがないこと」は、女性が男性を大きく上回っていた。「3. 家庭に関すること」でみた家庭内の役割で「生活費を稼ぐ」が『主に夫』の割合が高かったことを考え合わせると、職場で男性が受けるマイナスの取扱いは女性に経済的不安を与える可能性があるだろう。

自分自身の育児休業の利用意向については、「利用したい」は、女性では子育て世代の30代以下で約8割、男性の10・20代では約7割にのぼる。「利用したいが利用できない」は、30代の男性で4割台半ばと高く、子育てに直面する年代の男性には取得困難と認識している傾向がうかがえる。介護休業制度については、女性ではすべての年齢層で「利用したいが利用できない」の割合が育児休業よりも高く、介護休業の方が取得しにくいと認識されているようである。

これらの休業制度を「利用できない」「利用したくない」と回答した人にその理由についてたずねたところ、「職場に休める雰囲気がないから」が女性で約6割、男性でも5割台半ばと最も高く、次いで「経済的に生活が成り立たなくなるから」が男女とも4割を超えており、男性の40代では66.7%と最も高かった。

女性が就労を継続するためには、実効性の高い両立支援策や男性の家庭参画は重要である。しかし、今回の調査結果から、育児休業や介護休業制度の取得には職場の雰囲気と経済的不安が壁となっていることがうかがえる。国の第5次男女共同参画基本計画では、民間企業における男性の育児休業取得率を2025年までに30%と成果目標に掲げており、取得促進に向けて2021年6月に育児介護休業法が改正されたばかりである。育児休業を利用する可能性の高い年齢層に法律の周知を進めるとともに、事業主及び管理職には男性従業員の休業取得促進のための助成金制度などの周知や将来を見据えた組織風土の改善への取り組みを促進していく必要がある。

6. 政治分野における男女共同参画について

「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」は2018年5月に施行されている。この法律について「名前もその内容も知っている」は全体では1割を下回るが、「名前は知っているが、内容はよく知らない」は約5割で名称はある程度浸透している。

地方議会（県議会・市町村議会）において理想的な女性議員の割合については、女性では「5割」を望む人が多いが、男性では『4割以下』が女性よりやや高く、議員の男女同数への志向は女性の方が高いといえる。ただし、女性の60代以上の年齢の高い層では男

性と同様に「5割」の割合が低い。

女性が地方議員になるために必要だと思うことは、男女とも「議員活動と家庭生活（子育てや介護等）との両立支援」「家族の理解やサポート」が上位2項目で、いずれも女性は6割を超え、男性を10ポイント前後上回る。また、3位の「政治は男性が行うもの」という固定的な考え方の解消も女性が男性を約9ポイント上回り、男性では「女性自身の意欲」が女性を上回っている。

「1. 男女平等に関する考え方について」でみたように、「政治の場」は『男性優遇』と認識された不平等感の高い分野で、女性の不平等感は男性を上回っていた。県議会議員の女性比率は9.6%、県内市町村議会の平均値は12.3%（2018年）にとどまっており、今回の調査結果からは現状以上の割合が理想とされていることがわかる。その一方で、女性の政治参画を進める法律については内容まで知っている人は少なく、法律の理解を広める啓発が求められる。また、女性が地方議員になることへの意欲が高まらない要因として、女性自身の家庭責任への負担感や政治についての固定概念があげられていることについて、理解を深める啓発を進めていかなければならない。

7. 社会活動などへの参加・参画について

男性が地域活動や家庭生活へ参加しやすくするために必要なことについて、女性で最も高いのは「職場の中で地域活動や家庭生活に参加しやすい雰囲気をつくる」で、30代以下では6割を超えていた。男性では「企業などが仕事と家庭の両立を支援する体制の整備をはかる」が最も高く、男女とも30代と40代では5割台と他の年代より高くなっていた。男性では「労働時間を短くして余暇を増やす」が女性より高く、特に30代では4割を超え他の年代よりも上回っていた。

女性が地域の役職につくことについて、女性には「引き受ける」か、男性には身近な女性が推薦された場合に「引き受けることをすすめる」かをたずねたところ、女性の約8割、男性の5割台半ばが「断る（断ることをすすめる）」と回答している。女性は男性より「断る」が高く、年代では男女とも40代が高くなっていた。しかしながら、前回調査よりも男女とも「引き受ける（引き受けることをすすめる）」はわずかだが増加している。

「断る（断ることをすすめる）」理由については「役職につく知識や経験がないから」が最も高く、女性では約4割で、男女とも60代以上の年齢の高い層で高くなっていた。次いで「家事・育児や介護に支障がでるから」は男女とも40代以下で高くなっていた。

男性の地域活動の参画へは職場の取り組みが重要であり、職場の雰囲気改善や両立支援制度の整備、時短が求められており、特に長時間労働の課題は子育て期の男性には重くなっていることがうかがえた。男性のワーク・ライフ・バランスの実現に向けて、事業所等の積極的な取り組みと行政による支援体制の充実は重要である。女性の地域の役職を増やすためには、家庭責任が障壁とならないよう、活動の際に託児をつけたり、参加しやすい時間帯を工夫するなど社会活動の両立を可能とするような支援策が求められる。地域の女性リーダーの育成に向け、退職後の年齢層をエンパワーするような講座なども必要であろう。

8. 防災に関することについて

防災に関して男女共同参画の視点からどのような対策や対応が必要かたずねたところ、

Ⅲ 調査結果からみえてくる現状と課題

「備蓄品について女性や介護者、障がい者の視点を入れる」が男女とも最も高いが、女性は男性を約 10 ポイント上回っている。「避難所運営の基準などをつくり女性や子どもが安全に過ごせるようにする」も女性は男性より約 6 ポイント高かった。支援を必要とする人の立場を配慮する項目が男性より女性が高いのは、ケア役割の担い手としての視点が反映されているからであろう。男性では、「女性も男性も防災活動や訓練に取り組む」が 5 割台半ばで女性より約 12 ポイント高く、「避難所運営への女性の参画」も女性より約 4 ポイント高いなど、男性は女性の主体的な参画を求めている。なお、以上の特徴は、前回調査からあまり変わっていない。

地域の意思決定の場への女性の参画は、災害時において多様な視点が活かされる。また、男性が日頃からケア役割を担える環境にあれば、災害時にもより適切な対応につながる。今回の調査結果ではこれらの意識が高いことから、地域で男女共同参画を進める重要性が示唆されたといえる。

9. 慣習・しきたりについて

「1. 男女平等に関する考え方について」でみたように、男女の地位の平等感について、男性も女性も「社会通念・慣習・しきたりなど」を『男性優遇』と考えている人が 2 番目に高かった。実際に身の回りにおいて、どのような不平等な慣習があるのかをたずねた。

地域に関しては、男女とも「地域での集会の時は女性がお茶くみや後片づけをしている」について「そうしている」が最も高く、女性は 5 割台半ばあり男性を約 10 ポイント上回っていた。以下、「そうしている」の割合が高いのは順に、「地域活動は男性が取り仕切る」、「自治委員（隣組長などの登録は男性（夫）だが、会議の出席は女性（妻）が出ることが多い」、「地域での集会では男性が上座に座る」で、いずれも女性の割合が男性を上回り、男女での認識のずれがみられる。また、前回調査と比べても変化があまりみられず、依然として固定的な性別役割分担や意思決定の場は男性中心といった慣習が残っており、特に女性に認識されていることがわかる。とはいえ、これらの地域の慣習が現存していると回答した人のうち「改善すべき」の割合は約 6 割から 8 割台半ばにのぼり改善を求める意向は高い。

「結婚の際、氏は男性側とする」という慣習に「そうしていない」は、前回調査よりも約 5 ポイント増加しており、「改善すべき」も約 14 ポイント増加し「現状のままでいい」を上回っている。また、選択的夫婦別姓への賛否については、全体でみると『賛成派』が『反対派』を約 28 ポイント上回っており多数派となっている。女性の 40 代以下、男性の 30 代以下の年齢の若い層では、『賛成派』が主流である。さらに、女性の共働き既婚者では 7 割強と高く、夫の姓を名乗るという慣習が女性の職業生活上に不都合を生み出すことが背景にあると思われる。

地域の慣習への改善の意識は強かったり、選択的夫婦別姓への志向は高かったりするものの、現状をすぐに変えられないという課題は大きい。根強い慣習は小さな実践の蓄積で少しずつ解消に向かう。実際に慣習が改善された地域で、どのように地域活動が活性化されたかなど模範事例を周知することで、可能性を広げることができるだろう。また、慣習のために不便をこうむる人たちの実感を体験するような啓発など工夫が求められる。

10. 暴力などの人権侵害について

セクシュアル・ハラスメントについて、「職場」「地域活動の場」「学校に関わる場」の3つに分けてこの5年間の被害体験をたずねた。なんらかの被害を受けた人の割合は、「職場」が16.9%と最も高く、「地域活動の場」が5.4%、「学校に関わる場」が3.1%で前回調査からあまり変化はなく、依然としてセクシュアル・ハラスメントが起きていることがわかる。「地域活動の場」での被害体験は、男女とも「じろじろ眺められたり、容姿を話題にされた」、「いつ結婚するのかと言われた」が高い項目であった。学校でも、女性では「じろじろ眺められたり、容姿を話題にされた」が最も高い項目であった。加害行為をする側は、体のことや結婚を話題にすることがセクシュアル・ハラスメントになるという自覚がない場合がある。ハラスメントに対しては加害者に注意喚起できるよう、法令順守の面からハラスメント防止対策や情報提供を事業所対象に進めるとともに、人権課題として地域や学校関係者に対して啓発を進めていかなければならない。

配偶者や交際相手からの暴力、いわゆるドメスティックバイオレンスの被害について、ここ5年くらいでの被害の経験をたずねた。なんらかのDV被害を受けた人は、女性は約3割で男性より約10ポイント高くなっていた。また、未婚者の被害経験も男女とも1割弱あり、デートDVの実態があることがわかる。

暴力の内容別にみると、精神的暴力の経験が男女とも最も高い。女性が男性より高い暴力は経済的暴力、性的暴力、社会的暴力など、男女の経済力の差や性的関係における立場の差などを原因とするジェンダーに基づく暴力であった。前回調査と比べると、女性はいずれの暴力も減少傾向にあるが、男性では精神的暴力、身体的暴力でやや増加傾向がみられる。具体的な行為で最も高いのは、女性では「他人や子どもの前で侮辱されたり、馬鹿にされたりした」、男性では「何をいっても無視された」であった。また、女性では「押されたり、つかまれたり、こづかれたりした」「望まない性交渉を強要された」「生活費を細かくチェックする」「身内や友だちとのつきあいや外出を制限された」なども高くなっていた。

DVを受けた経験がある人のうち、「どこ（誰にも）相談しなかった」は女性では半数を超え、男性では約4分の3を占めて高い。相談しなかった理由は、男女とも「相談するほどのことではないと思ったから」が最も高く6割近くあり、次いで女性では「自分さえ我慢すれば、何とかやっていけると思った」「相談しても無駄だと思った」があげられていた。男性では、ほとんどの項目で女性よりも割合が低いが、「自分にも悪いところがあると思った」が4割台半ばで高く、また「どこに相談してよいかわからなかった」も相対的に高かった。誰かに相談した人では、相談先は「家族や親戚」「友人・知人」が男女とも高くなっている。専門家の比率は低いものの前回調査よりもやや高くなっており、女性では「筑紫野市女性センター相談室」「医師、カウンセラー」が、男性では「警察・交番」と「(筑紫野市女性センター相談室以外の)市の相談窓口」が高くなっていた。

以上のことから、DVは依然として被害を受ける人が存在し、しかも、誰にも相談しない人が増えており、DVが潜在化している状況もうかがえる。DVとされる行為や発生する背景、DV防止法の取り組みなどについて、被害者自身、また、相談相手となる家族や知人に届くように、広く啓発したり情報提供することを継続的に続けていかなければならない。また、若年層や未婚者に対しては、デートDVへの啓発を進め、対応についての情報提供も進める必要がある。暴力は人権侵害であり決して許されないこと、DVがジェンダーに基づき発生すること、子どもの前でのDVが精神的児童虐待であることなど、社会全体に理解を深めていかなければならないだろう。

11. 男女共同参画社会の実現について

男女共同参画に関する法律の認知は、「DV防止法」の認知度が全体で約9割と最も高く、2016年に施行された「女性活躍推進法」は5割台半ばと続いた。2019年に制定された「福岡県性暴力根絶条例」は約3割と認知は低かった。筑紫野市の取り組みであるプランや条例については、3割台と認知度は低く、特に「筑紫野市男女共同参画推進条例に基づく救済・苦情処理制度」の認知度は約2割と最も低くなっていた。これらの市の取り組みは、女性の方が男性より認知が高かった。

用語については、「男女共同参画社会」と「ジェンダー」が8割強と高かった。また「LGBT」は8割弱で2番目に高く、前回調査からは28ポイントも上がっており、この5年で認知が高くなった言葉である。「ワーク・ライフ・バランス」「デートDV」は5割弱で続くが、「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」は1割強にとどまり認知度は低かった。用語については、年齢の低い層で認知が高い傾向があった。

法律や条例は生活に影響を与えるものであり、根強い慣習の改善のためにも、より認知を高める必要がある。また、DV被害の現状では、性的暴力を受ける女性が一定数いたことから、避妊や妊娠における性的自立の意識を男女とも高めるために、年齢の低い層では特に「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」の認知度を上げることが必要である。

「男女共同参画社会」を実現するために市に望むことについて、女性では「保育所・学童保育所の整備、育児休業制度の普及など、男女が共に働き続けるための条件整備」が第1位にあがった。女性の第2位は「女性の再就職・資格取得など、職業教育や訓練の機会の提供」で男性を約10ポイント上回っていた。また、「男性の家事・育児・介護などへの参加を促すような啓発」も女性の割合が男性を約4ポイント上回った。男性では、「審議会など行政の政策・方針決定の場への女性の参画の推進」「各種団体の女性リーダー育成」「行政・企業・地域などあらゆる分野での女性の積極的な登用」が女性より高く、女性もこれらの項目は前回調査より高くなっていた。

「3. 家庭に関すること」でみたように『主に妻』の役割となっていた家事や育児に対しての支援制度の整備への希望が女性に高く、また、就労を中断した女性への就労支援への要望も女性に高かった。男性は女性の登用やリーダー育成に関する施策への要望が依然として高いが、女性自身の要望も高くなりつつある。女性の意思決定の場や職業生活における参画促進について法整備は進んでいるが、それらを実現するためには、現状で女性中心となっている家庭責任が壁となっている。家事や育児への男性の参画促進については、家庭内の問題にとどまらないよう社会的な支援策が必要である。

今回の調査結果をふまえて、筑紫野市の男女共同参画プランが実効性の高い計画となり、条例に基づいて男女共同参画のまちづくりを進めることを祈念するものである。

**◎参考資料
使用した調査票**

男女共同参画社会づくりに向けての 市民意識調査

令和3年9月
調査主体：筑紫野市

調査ご協力をお願い

市民のみなさまには、日ごろから市政へのご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

本市では“一人ひとりが輝き、豊かで活力あるまち ちくしの”を基本理念とした“第3次ちくしの男女共同参画プラン”を策定し、男女共同参画社会の実現に向けた取り組みを進めています。市では、5年ごとに調査を実施し、広く市民の皆様のご意見を伺い、今後の施策に反映させることとしています。

つきましては、大変お忙しい中、誠に恐縮ではございますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

【記入上の注意】

この調査は無作為に選ばせていただいた市内にお住まいの18歳以上の男女計3,000人を対象に実施するものです。

お答えいただいた内容の集計業務については、市が委託した業者が行います。

また、回答は無記名であり、すべて統計的に処理いたしますので、個人情報外部に漏れるなど、ご迷惑をおかけすることはありません。

<注意事項>

1. 必ずご本人がお答えください。ただし、ご本人が書くことが困難な場合、ご本人の意思を反映した代筆でもけっこうです。
2. お答えはあなた自身のお考えに最も近い番号を、指定しております数に合わせて○をつけてください。
3. お答えが「その他」にあてはまる場合は、(具体的に)内に具体的な内容をご記入ください。

※記入されたアンケート用紙は、お手数ですが 10月18日(月)までに同封の返信用封筒に3つ折りにして入れ、ポストに投函してください。(切手は不要です)

※この調査票の内容についてのお問い合わせは、下記にお願いします。

筑紫野市 総務部 人権政策・男女共同参画課
電話：092(918)1311 FAX：092(921)8666

男女平等に関する考え方についておたずねします

問1. 「男は仕事、女は家庭を守るべきである」という考え方があります。あなたの気持ちとして、この考え方にどの程度同感しますか。 あてはまるものを1つ選び番号に○印をつけてください。

- | | |
|-------------|-------------|
| 1. 同感する | 3. あまり同感しない |
| 2. ある程度同感する | 4. 同感しない |

問2. あなたは、次にあげる分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。

①～⑧のそれぞれについて、あなたの気持ちに近いものを1つ選び番号に○印をつけてください。

※各項目ごと横に見てお答えください (○印はそれぞれ1つずつ)	女性の方が優遇されている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば男性の方が優遇されている	男性の方が優遇されている	わからない
① 家庭生活で	1	2	3	4	5	6
② 職場で	1	2	3	4	5	6
③ 学校教育の場で	1	2	3	4	5	6
④ 地域活動・社会活動の場で	1	2	3	4	5	6
⑤ 政治の場で	1	2	3	4	5	6
⑥ 法律や制度のうえで	1	2	3	4	5	6
⑦ 社会通念・慣習・しきたりなどで	1	2	3	4	5	6
⑧ 社会全体で見た場合	1	2	3	4	5	6

問3. 女性の社会進出は進みつつありますが、政治、行政、企業、地域などの政策・方針決定の場にはまだまだ女性が少ないのが現状です。そこにはどのような理由があると思いますか。あてはまるものを3つまで選び番号に○印をつけてください。

1. 男性優位の組織運営になっているから
2. あらゆる場面において、男女で役割を分ける意識が根強いから
3. 家族の支援・協力が得られないから
4. 家事・育児や介護に支障がでるから
5. 女性の能力開発の機会が不十分だから
6. 女性の活動を支援するネットワークが不足しているから
7. 女性の積極性が十分でないから
8. その他（具体的に

)

子育て・教育に関する考え方についておたずねします

問4. あなたは、子どもの育て方についてどのような考え方をお持ちですか。次の①～②のそれぞれについて、あなたの考えに近いものを1つ選び番号に○印をつけてください。

【現在、子育て中でない方も、お答えください。】

※各項目ごと横に見てお答えください (○印は <u>それぞれ1つずつ</u>)	賛 成	い え ば 賛 成 ど ち ら か と	い え ば 反 対 ど ち ら か と	反 対	わ か ら な い
① 女の子も男の子も同等に経済的に自立できるよう職業人としての教育が必要だ	1	2	3	4	5
② 男の子も女の子も炊事・掃除・洗濯など生活に必要な技術を身につけさせる方がよい	1	2	3	4	5

家庭に関することについておたずねします

【この質問は、配偶者・パートナーと同居している方がお答えください。】

問5. あなたのご家庭では、次のような家庭内の仕事を主にどなたがしていますか。

①～⑨のそれぞれについてあてはまるものを1つ選び数字に○印をつけてください。

※各項目ごと横に見てお答えください (○印は <u>それぞれ1つずつ</u>)	主 に 妻 が 行 っ て い る	主 に 妻 が 行 い 、 夫 が 一 部 を 負 担 し て い る	同 じ 程 度 分 担 し て い る	主 に 夫 が 行 い 、 妻 が 一 部 を 負 担 し て い る	主 に 夫 が 行 っ て い る	そ の 他
① 生活費を稼ぐ	1	2	3	4	5	6
② 炊事、掃除、洗濯などの家事	1	2	3	4	5	6
③ 日々の家計の管理	1	2	3	4	5	6
④ 育児・子どものしつけ	1	2	3	4	5	6
⑤ 親の世話（介護）	1	2	3	4	5	6
⑥ 自治会・町内会などの地域活動	1	2	3	4	5	6
⑦ 子どもの教育方針・進路目標の決定	1	2	3	4	5	6
⑧ 土地・家屋など高額商品の購入の決定	1	2	3	4	5	6
⑨ 家庭の問題における最終的な決定	1	2	3	4	5	6

仕事についておたずねします

問6. 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどのようにお考えですか。あてはまるものを1つ選び番号に○印をつけてください。

1. ずっと職業をもっている方がよい
2. 結婚するまでは職業をもち、あとはもたない方がよい
3. 子どもができるまで職業をもち、あとはもたない方がよい
4. 子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい
5. 女性は職業をもたない方がよい
6. その他（具体的に)
7. わからない

付問6-1 【問6で、「2」～「5」のいずれかに○印をつけられた方は下の質問にお答えください。】

あなたがそう思われる理由は何ですか。あなたのお考えに近いものを2つまで選び数字に○印をつけてください。

1. 女性は家事などに専念し家庭を守るべきだから
2. 女性は定年まで働き続けにくい雰囲気があるから
3. 女性の能力は正当に評価されにくいから
4. 女性が働く上で不利な慣習などが多いから
5. 育児休業などの仕事と家庭が両立できる制度はあるが、それを利用できる職場の雰囲気ではないから
6. 仕事と家庭が両立できるための制度はあるが、それでは不十分だから
7. 保育や介護などの施設が整っていないから
8. その他（具体的に)

問7. では、あなた（男性の場合は、配偶者・パートナー）の今の働き方は次のどれにあてはまりますか。あてはまるものを1つ選び番号に○印をつけてください。

【独身の方も、結婚した場合を想定してお答えください。】

1. ずっと職業をもっている
2. 結婚するまで職業をもち、あとはもっていない
3. 結婚するまで職業をもち、子どもが大きくなって再び職業をもった
4. 子どもができるまで職業をもち、あとはもっていない
5. 子どもができたら職業をやめ、大きくなって再び職業をもった
6. 働いていない
7. その他（具体的に)
8. わからない

【現在職業をもっている方におたずねします。】

問8. 現在あなたの職場の女性の中に、下記のことからあてはまる方がいますか。あてはまるものをいくつでも選び数字に○印をつけてください。

1. 募集や採用人数に男女差があり、女性は男性より不利である
2. 同期に同年齢で入社した男性との賃金に格差がある
3. 女性は補助的な仕事や雑用が多い
4. 昇進や昇格に男女格差がある
5. 女性は男性より出張や視察などの機会が少ない
6. 女性は男性より研修や教育訓練を受ける機会が少ない
7. 結婚や出産時に退職する慣例や圧力がかかる
8. 中高年女性に退職を促すような圧力がかかる
9. 定年の年齢に男女差がある（慣行を含む）
10. 女性は転勤などの人事異動で男性より不利である
11. 仕事と家庭が両立できる制度が十分に整っていない
12. 家族手当、住居手当などがつかない。資金貸付や社宅に入居できないなどの不利益がある
13. その他（具体的に _____)
14. 特にない

育児・介護休業についておたずねします

問9. 育児や家族の介護を行うために、法律に基づき育児休業・介護休業・子の看護休暇を取得できる制度があります。あなたは、男性がこの制度を活用することについて、どう思いますか。あなたの考えに近いものを1つ選び番号に○印をつけてください。

1. 積極的に活用すべきである
2. なるべく活用すべきである
3. 活用しなくてもよい
4. わからない

問 10. あなたは、あなた自身が育児や介護に直面したときに「育児休業制度」や「介護休業制度」を利用したいと思いませんか。あなたの考えに近いものを1つ選び番号に○印をつけてください。

【現在、必要のない方も必要になった場合を想定してお答えください。】

※各項目ごと横に見てお答えください (○印は <u>それぞれ1つずつ</u>)	利用したい	利用したいが 利用できそうに ないと思う	利用したくない	わからない (もしくは、 度の対象で ない)
① 育児休業制度	1	2	3	4
② 介護休業制度	1	2	3	4

付問 10-1 【問 10 いずれかで「2」または「3」と答えた方に】
あなたがそう思う理由は何ですか。(○印は3つまで)

1. 経済的に生活が成り立たなくなるから
2. 職場に休める雰囲気がないから
3. 休みをとると勤務評定に影響するから
4. 自分の仕事は代わりの人がいないから
5. 一度休むと元の仕事に戻れないから
6. 現在取り組んでいる仕事を続けたいから
7. 妻、夫など家族や親族の理解が得られないから
8. 家族の協力で、利用しなくても対応できるから
9. 職場にそのような制度があるかわからないから
10. 育児や介護は、女性がやるべきと思うから
11. その他 (具体的に

問 11. 女性の育児休業取得率は 81.6%であるのに対し、男性の育児休業取得率は 12.65% (厚生労働省：2020 年度雇用均等基本調査 (全国)) となっています。あなたは男性の育児休業取得を進めるためにどのようなことが必要だと思いませんか。あなたのお考えに近いものを3つまで選び番号に○印をつけてください。

1. 男性が家事や育児に参画することへの男性自身の抵抗感をなくすための意識啓発
2. 男性が家事や育児に参画することへの女性自身の抵抗感をなくすための意識啓発
3. 取得しやすい職場の雰囲気づくり
4. 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる
5. 年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考えを尊重する
6. 社会の中で男性による家事、子育てについてもその評価を高める
7. 解雇、降格、減給などの不利益な取り扱いがないこと
8. 仕事の負担軽減 (労働時間の短縮や在宅勤務の普及など多様な働き方の見直し)
9. 育休手当などの経済的支援
10. その他 (具体的に
11. 男性の育児休業取得を進める必要はない

政治分野における男女共同参画についておたずねします

問 12. あなたは、「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」について、知っていますか。
あてはまるものを1つ選び番号に○印をつけてください。

1. 法律の名前も、その内容も知っている
2. 法律の名前は知っているが、内容はよく知らない
3. 法律があることを知らなかった

問 13. あなたは、地方議会（県議会・市町村議会）における女性議員の割合は何割程度が理想だと考えますか。下の枠内に0から10までの整数をご記入ください。

	割程度
--	-----

問 14. あなたは、女性が地方議員になるためには何が必要だと思いますか。あてはまるものをいくつでも選び数字に○印をつけてください。

1. 家族の理解やサポート
2. 地域の理解やサポート
3. 議員活動と家庭生活（子育てや介護等）との両立支援
4. 研修や勉強会等の女性候補者を育成するための機会の充実
5. 政治は男性が行うものという固定的な考え方の解消
6. 女性自身の意欲
7. その他（具体的に)
8. 特に女性が議員になることを推進する必要はない

社会活動などへの参加・参画についておたずねします

問 15. 男性が地域活動（自治会・コミュニティの活動・子ども会など）や家庭生活（家事・育児・介護など）へ参加しやすくするには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまるものを3つまで選び数字に○印をつけてください。

1. 行政が、男性の参加をすすめるための啓発活動をする
2. 行政が、男性が家庭生活に参加しやすくなるような学習機会を増やす
3. 家庭の中で、親などが男性の地域活動や家庭生活への参加の必要性を教える
4. 学校で、男性の地域活動や家庭生活への参加の必要性を教える
5. 夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合う
6. 労働時間を短くして余暇を増やす
7. 職場の中で地域活動や家庭生活に参加しやすい雰囲気をつくる
8. 企業などが仕事と家庭の両立を支援する体制の整備をはかる
9. その他（具体的に)

問 16. 区長やPTA会長などの地域の役職についておたずねします。女性の場合は、もしあなた自身が推薦されたら引き受けますか。男性の場合は、妻などが推薦されたら引き受けることをすすめますか。あてはまるものを1つ選び番号に○印をつけてください。

1. 引き受ける（引き受けることをすすめる）
2. 断る（断ることをすすめる）

付問 16-1 【問 16 で「2. 断る（断ることをすすめる）」と答えた方は、下の質問にお答えください。】

その理由は何ですか。あてはまるものを1つ選び番号に○印をつけてください。

1. 家族の理解や協力が得られないから
2. 女性が役職につくことを快く思わない社会通念があるから
3. 家事・育児や介護に支障がでるから
4. 役職につく知識や経験がないから
5. 女性には向いていないから
6. 世間体が悪いから
7. その他（具体的に

防災に関することについておたずねします

問 17. 過去の災害対応における経験から、男女共同参画の視点による対策や対応が求められています。災害に備えるために、これからどのようなことが必要だと思いますか。あてはまるものをすべて選び番号に○印をつけてください。

1. 避難所運営への女性の参画
2. 女性も男性も防災活動や訓練に取り組む
3. 備蓄品について女性や介護者、障がい者の視点を入れる
4. 避難所運営の基準などをつくり女性や子どもが安全に過ごせるようにする
5. 防災や災害現場で活動する女性リーダーの育成
6. 日ごろからのコミュニケーション・地域でのつながりを深める
7. 日ごろからの男女平等、男女共同参画意識を高める
8. 市の防災会議や災害対策本部など意思決定の場に女性の委員・職員を増やす
9. 女性消防団の加入促進
10. その他（具体的に

慣習・しきたりについておたずねします

問 18. 家庭や地域における男女の役割分担についておたずねします。

- (1) 現状：家庭や地域のことについて、下記の①～⑥のそれぞれについてあてはまるものを1つ選び番号に○印をつけてください。
- (2) 意識：では、今後はどうすべきだと思いますか。下記の①～⑥のそれぞれについてあてはまるものを1つ選び番号に○印をつけてください。

※各項目ごと横に見てお答えください (○印はそれぞれ1つずつ)	(1) 現状				(2) 意識		
	そうである	そうではない	わからない		現状のままでよい	改善すべき	わからない
① 地域活動は男性が取り仕切る	1	2	3	→	1	2	3
② 地域での集会の時は女性がお茶くみや後片づけをしている	1	2	3	→	1	2	3
③ 地域での集会では男性が上座に座る	1	2	3	→	1	2	3
④ 役員会での女性の発言が少ない	1	2	3	→	1	2	3
⑤ 自治委員（隣組長など）の登録は男性（夫）だが、会議の出席は女性（妻）が出ることが多い	1	2	3	→	1	2	3
⑥ 結婚の際、氏は男性側とする	1	2	3	→	1	2	3

問 19. 「選択的夫婦別姓[※]」について、あなたはどう思いますか。あてはまるものを1つ選び数字に○印をつけてください。

1. 賛成
2. どちらかといえば賛成
3. どちらかといえば反対
4. 反対



※「選択的夫婦別姓」とは・・・


現行制度と同じように夫婦が同じ名字（姓）を名乗ることのほか、夫婦が婚姻前の名字（姓）を名乗ることを希望している場合には、夫婦それぞれが婚姻前の名字（姓）を名乗ることができる制度。


暴力などの人権侵害についておたずねします

問 20. あなたは、この5年間に、(A) 職場、(B) 地域活動の場、(C) 学校に関わる場で①～⑩のようなセクシュアル・ハラスメント（他の者を不快にさせる性的な言動）を受けたことがありますか。経験のあるものをいくつでも選び番号に○印をつけてください。


	(A)	(B)	(C)
	職場で	地域活動の場で	学校に関わる場で
① じろじろ眺められたり、容姿を話題にされた	1	1	1
② 性的な関係を強要された	2	2	2
③ からだに触られた	3	3	3
④ 食事などにしつこく誘われた	4	4	4
⑤ 性的なジョークを言われたり、猥談がかわされた	5	5	5
⑥ 身体に関して不愉快になる言葉や冗談を言われた	6	6	6
⑦ ノード写真やわいせつな本を見せられた	7	7	7
⑧ 性的なうわさを流された	8	8	8
⑨ 宴席でお酌やデュエット、ダンスを強要された	9	9	9
⑩ いつ結婚するのかわ言われた	10	10	10
⑪ 受けたことはない	11	11	11


 ひとりで悩んでいるあなたへ
 


 夫婦のこと（DVや離婚など）、家族のこと、
 職場のこと（人間関係、セクハラ、パワハラなど）
 相談してみませんか？相談は無料。秘密は守ります。

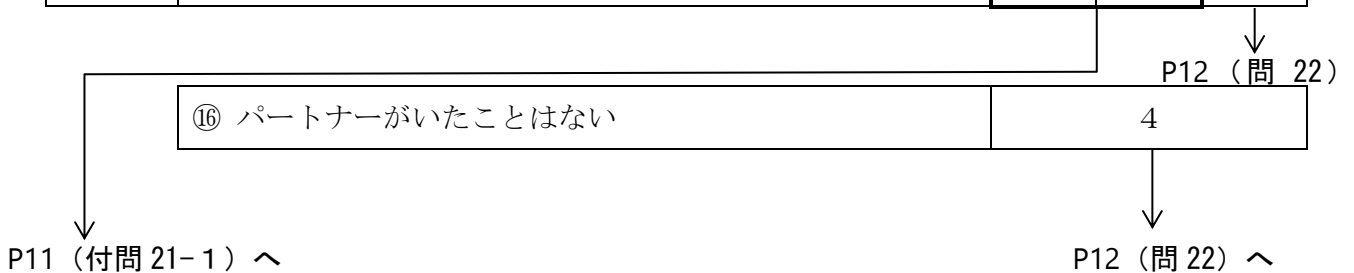
筑紫野市女性センター相談室


月～金 9:00～16:30 祝日・年末年始を除く


092-918-1311

問 21. あなたは、この5年間に配偶者やパートナー（夫・妻・恋人）から下記のような暴力を受けたことがありますか。①～⑮のそれぞれについて、あてはまるものを1つ選び番号に○印をつけてください。パートナーがいたことがない場合は、⑯を選び番号に○印をつけてください。

※各項目ごと横に見てお答えください (○印はそれぞれ1つずつ)		何 度 も あ っ た	1、 2 度 あ っ た	な い
精神的 暴力	① 何を言っても無視された	1	2	3
	② 物を投げたり、壊したりして脅された	1	2	3
	③ 「誰のおかげで生活できるんだ」と言われた	1	2	3
	④ 他人や子どもの前で侮辱されたり、馬鹿にされたりした	1	2	3
身体的 暴力	⑤ 押されたり、つかまれたり、こづかれたりした	1	2	3
	⑥ 平手で打たれた	1	2	3
	⑦ 蹴られたり、殴られたりした	1	2	3
	⑧ 首を絞められた	1	2	3
性的 暴力	⑨ 見たくないのに、わいせつなビデオや雑誌を見せられた	1	2	3
	⑩ 避妊に協力しない	1	2	3
	⑪ 望まない性交渉を強要された	1	2	3
経済的 暴力	⑫ 生活費などの必要なお金を渡さない	1	2	3
	⑬ 生活費を細かくチェックする	1	2	3
社会的 暴力	⑭ 身内や友だちとのつきあいや外出を制限された	1	2	3
	⑮ 携帯電話のメールや通信履歴をチェックされた	1	2	3



付問 21-1 【問 21 でひとつでも「1. 何度もあった」「2. 1、2度あった」と答え方は下の質問にお答えください。】

あなたは、受けた行為をだれかに打ち明けたり相談したりしましたか。あてはまるものを1つ選び番号に○印をつけてください。

1. 相談した 2. どこ（誰）にも相談しなかった →【付問 21-1-2】へ

付問 21-1-1 【問 21-1 で「1. 相談した」と答えた方は、下の質問にお答えください。】

どういったところに相談されましたか。あてはまるものをいくつでも選び数字に○印をつけてください。

- | | |
|------------------|----------------|
| 1. 家族や親戚 | 7. 配偶者暴力相談センター |
| 2. 友人・知人 | 8. 人権擁護委員、民生委員 |
| 3. 筑紫野市女性センター相談室 | 9. 学校関係者 |
| 4. 3以外の市の相談窓口 | 10. 医師、カウンセラー |
| 5. ちくし女性ホットライン | 11. その他 |
| 6. 警察・交番 | (具体的に) |

付問 21-1-2 【問 21-1 で「2. どこ（誰）にも相談しなかった」と答えた方は、下の質問にお答えください。】

どこ（誰）にも相談しなかったのはなぜですか。あてはまるものをいくつでも選び数字に○印をつけてください。

1. どこに相談してよいのかわからなかった
2. 恥ずかしくて言えなかった
3. 相談しても無駄だと思った
4. 自分さえ我慢すれば、何とかやっていけると思った
5. 世間体が悪いと思った
6. 子どものためにがまんするしかないと思った
7. 他人を巻き込みたくなかった
8. 自分にも悪いところがあると思った
9. そのことについて思い出したくなかった
10. 相談するほどのことではないと思った
11. その他（具体的に)

男女共同参画社会の実現についておたずねします

問 22. 下記のそれぞれの言葉について、あなたはどの程度ご存知ですか。

①～⑫のそれぞれについてあてはまるものを1つ選び番号に○印をつけてください。

※各項目ごと横に見てお答えください (○印はそれぞれ1つずつ)	内容を 知っている	聞いた ことがある	全然 知らない
① 男女共同参画社会	1	2	3
② 女性活躍推進法（女性の職業生活における活躍の推進に関する法律）	1	2	3
③ DV防止法（配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律）	1	2	3
④ ちくしの男女共同参画プラン	1	2	3
⑤ 筑紫野市男女共同参画推進条例	1	2	3
⑥ ⑤の条例に基づく救済・苦情処理制度	1	2	3
⑦ 福岡県における性暴力を根絶し、性被害から県民等を守るための条例	1	2	3
⑧ ワーク・ライフ・バランス	1	2	3
⑨ リプロダクティブ・ヘルス／ライツ※	1	2	3
⑩ LGBT※	1	2	3
⑪ デートDV	1	2	3
⑫ ジェンダー	1	2	3

※「リプロダクティブ・ヘルス／ライツ」とは…

性と生殖に関する健康と権利のことであり、1994年にカイロで開かれた国際人口開発会議において提唱された概念。身体的にも精神的にも社会的にも良好な状態で、安全で満足のある性生活を営み、安全な妊娠・出産ができること。また子どもを産むか産まないか、産むならばその時期、人数、間隔などを自己決定できる権利のこと。

※「LGBT」とは…

L（レズビアン＝女性同性愛者）、G（ゲイ＝男性同性愛者）、B（バイセクシュアル＝両性愛者）、T（トランスジェンダー＝生まれたときの生物学的・社会的性別とは一致しない、またはとらわれない生き方を選ぶ人などを表現する包括的な言葉）。

問 23. あなたは、男女共同参画社会を実現するために、市に対してどのような施策を望みますか。
あてはまるものを3つまで選び数字に○印をつけてください。

- 1. 審議会など行政の政策・方針決定の場への女性の参画の推進
- 2. 行政・企業・地域などあらゆる分野での女性の積極的な登用
- 3. 各種団体の女性リーダー育成
- 4. 性暴力被害者支援のための取り組みの強化
- 5. 広報誌やパンフレットなどで男女平等についての啓発
- 6. 男性の家事・育児・介護などへの参画を促すような啓発
- 7. 保育所・幼稚園や学校における男女平等教育の充実
- 8. 地域で男女平等をすすめる学習の機会の充実
- 9. 女性の再就職・資格取得など、職業教育や訓練の機会の提供
- 10. 職場における男女の均等な取り扱い（仕事の内容や賃金など）についての周知
- 11. 保育所・学童保育所の整備、育児休業制度の普及など、男女が共に働き続けるための条件整備
- 12. 高齢者や障がい者(児)の介護者への支援策の充実
- 13. ひとり親家庭に対する支援策の充実
- 14. その他（具体的に _____)
- 15. 特にない

男女共同参画に関して、行政へのご意見・ご希望などありましたら、ご自由にご記入ください。

最後に、あなたご自身のことについておたずねします

F 1 あなたの性別はどれに当てはまりますか。

※性のあり方は多様ですが、今回の調査は男女の性別による分析を目的とするため性別をお尋ねしています。
ご自身が思われる性別でご回答ください。

1. 女性 2. 男性

F 2 あなたの年齢はどれに当てはまりますか。(○印は1つ)

1. 10代 3. 30代 5. 50代 7. 70歳以上
2. 20代 4. 40代 6. 60代

F 3 あなたのお住まいの小学校区はどこですか。(○印は1つ)

1. 二日市小学校区 5. 山口小学校区 9. 筑紫東小学校区
2. 二日市東小学校区 6. 吉木小学校区 10. 原田小学校区
3. 二日市北小学校区 7. 阿志岐小学校区 11. 天拝小学校区
4. 筑紫小学校区 8. 山家小学校区 12. わからない

F 4 あなたの現在の配偶関係（事実婚も含みます）は、次のどれに該当しますか。(○印は1つ)

1. 配偶者・パートナーがいる（共働きである）
2. 配偶者・パートナーがいる（共働きでない）
3. 配偶者はいない（離別）
4. 配偶者はいない（死別）
5. 結婚していない

F 5 家族構成は次のどれに当てはまりますか。(○印は1つ)

1. 単身 4. 親と子と孫（三世代世帯）
2. 夫婦のみ 5. その他（具体的に ）
3. 親と子（二世帯世帯）

F 6 あなたの職業や立場は次のどれに当てはまりますか。(○印は1つ)

1. 会社役員・管理職 8. 自営業
2. 正社員（一般職） 9. 自営業の家族従業員
3. 正社員（技術職） 10. 専業主婦・主夫
4. 公務員 11. 学生
5. 契約社員・派遣社員 12. 無職
6. パートタイマー 13. その他（具体的に ）
7. 臨時・アルバイト

ご協力ありがとうございました。

記入もれなどがないか、再度確認していただき同封の返信用封筒にて 10月18日（月） までに投函していただきますようお願いいたします。

男女共同参画社会づくりに向けての
市民意識調査報告書

発行 筑紫野市

発行年 令和4年3月

〒818-8686 福岡県筑紫野市石崎1丁目1番1号

TEL 092-923-1111 FAX 092-921-8666